

事業年報 2021

 JA秋田厚生連

能代厚生医療センター



目 次

巻 頭 言 院長 太田原康成	1	健診センター	82
沿 革	2	入退院支援センター	84
組 織 概 要	5	地域医療連携室	86
フロアマップ	7	医療福祉相談室	87
施設基準等の届出事項	8	訪問看護ステーション	88
組 織 図	9	居宅介護支援事業所	90
資格所有者一覧	11	看 護 部	91
病院の主な行事	15	中央手術部	92
臨 床 指 標	21	3 B 病 棟	94
		精神科作業療法室	95
患 者 統 計		4 A 病 棟（地域包括ケア病棟）	96
年度別患者利用状況	25	5 A 病 棟	97
退院患者統計	27	5 B 病 棟	98
D P C医療機関別係数	33	6 A 病 棟	99
院内がん登録	34	6 B 病 棟	100
診療科紹介		7 A 病 棟	101
血液・腎臓内科 リウマチ科	41	7 B 病 棟	102
循環器内科	43	委 員 会	
消化器内科	44	医療安全管理委員会	103
呼吸器外科	46	研修管理委員会	105
呼吸器内科	47	薬事委員会	108
精 神 科	48	職員衛生委員会	109
精神科デイケア	49	医療ガス安全管理委員会	112
小 児 科	51	輸血療法委員会	113
外 科	52	化学療法委員会	118
脳神経外科	55	栄養管理委員会	120
整 形 外 科	56	放射線安全管理委員会	121
皮 膚 科	59	院内感染対策委員会	123
泌 尿 器 科	61	倫理委員会	125
産 婦 人 科	63	訪問看護ステーション・	
耳鼻咽喉科	65	居宅介護支援事業所運営委員会	126
部 門 紹 介		健診センター運営委員会	127
薬 剤 科	67	臨床検査適正化検討委員会	131
中央放射線部	70	手術部運営委員会	132
臨床検査科	72	医療機器安全管理委員会	133
リハビリテーション科	74	保険医療対策委員会	134
栄 養 科	76	救急医療委員会	135
リンパ浮腫ケア室	78	褥瘡対策委員会	136
臨床工学科	79	緩和医療委員会	140
血液浄化センター	81	クリニカルパス委員会	142
		透析機器安全管理委員会	143
		医療情報システム委員会	144
		診療材料委員会	145
		栄養サポートチーム	146
		災害医療支援チーム（DMAT）	147
		精神科リエゾンチーム	148
		防火・防災管理委員会	149

基 本 理 念

わたしたちは、地域中核病院として地域の皆様の健康を守ります。

基 本 方 針

1. 地域の皆様に信頼され、愛される病院づくりを推進します。
2. より安全で高度な医療を提供します。
3. 優れた医療者を育成します。

患者さんの権利と義務

患者さんの権利

1. 人格を尊重されて、思いやりのある医療を受ける権利
2. 安全で最良の医療を公平に受ける権利
3. 診療情報や説明を十分理解し、治療方法を自身が決定できる権利
4. 診療に関する個人情報やプライバシーが保護される権利
5. セカンドオピニオン（主治医以外の医師の意見）を求める権利
6. 情報開示を求める権利

患者さんの義務

1. 治療にあたり症状を正確に伝えて下さい。
2. 医療提供者の治療方針に沿って、自ら健康の回復、維持及び増進に積極的に取り組んで下さい。
3. 適切な医療を維持するため、診療にかかった費用をお支払い下さい。
4. 病院内では静粛にし、全ての患者さんが適切な療養環境で治療に専念できるように、社会的ルールや病院の規則を守って下さい。

義務に違反した場合

1. 義務に違反する行為等があったときは診療を中止することがあります。
2. 暴言・暴力等の行為があったときは警察に通報します。

巻 頭 言

能代厚生医療センター

院長 **太田原 康 成**



令和3年度の年報をお届けします。昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策に明け暮れました。病院の基本理念である「地域の皆様の健康を守る」ことの重要性を再認識させられました。特に第7波では、家族感染等で看護師はじめ多くの職員が休職し、出勤した職員がその分まで働きました。院外部署特に保健所、地域医師会、近隣病院、秋田県庁、秋田大学等との調整に多くの時間を割きました。綱渡りのような日々を送りました。関係機関の皆様にご心から御礼申し上げます。

コロナ対応に未だ出口は見えません。それでも私達職員は「地域中核病院として地域の皆様の健康を守る」ために前に進みます。今後ともご支援下さいます様よろしくお願い申し上げます。

沿革

昭和	7年	11月	山本郡医療購買利用組合設立
	8年	2月	病院開設 
	9年	11月	新病棟建築
	13年	6月	山本郡医療購買利用組合に改組
	17年	11月	県信用販売購買利用組合連合会に統合し山本組合病院と改称
	18年	12月	県農業会に移管
	23年	8月	秋田県厚生農業協同組合連合会に移管
	29年	4月	准看護婦養成所開設
	30年	11月	類焼により一部病棟を除き焼失 
	31年	3月	再建に着手10月完成す 
	33年	1月	総合病院の名称承認
	38年	5月	診療管理棟改築
	39年	7月	准看護婦学校、看護婦寄宿舍竣工
	43年	7月	附属精神神経科病院竣工
	48年	5月	地域センター病院の指定
	60年	3月	准看護婦学校廃校

	62年	8月	移転新築工事着工 
平成	元年	7月	新病院完成
	元年	8月	新病院にて移転、開院  病床数580床（一般470床、結核20床、精神60床、伝染30床）
	元年	10月	救急告示病院指定
	5年	7月	病院群輪番制病院指定
	8年	12月	災害拠点病院指定
	11年	4月	山本在宅介護支援センター設置
	11年	4月	厚生連山本訪問看護ステーション設置
	11年	11月	感染症指定医療機関指定病棟再編 病床数553床（一般470床、結核20床、精神60床、感染3床）
	12年	4月	秋田県厚生連山本指定居宅介護支援事業所設置、神経内科新設
	12年	6月	精神救急指定病院指定
	13年	5月	形成外科新設
	15年	3月	結核病床廃止
	11年	11月	病棟再編・療養病棟設置、病床区分届出／病床数534床（一般422床、療養48床、精神60床、感染4床）
	15年	7月	作業療法開始（施設基準届出）
	16年	3月	協力型臨床研修病院指定
	16年	10月	基幹型臨床研修病院指定
	17年	2月	病床種別の変更（療養病床を一般病床へ）／病床数534床（一般470床、精神60床、感染4床）
	18年	3月	病棟再編
	18年	4月	化学療法治療室設置、医療安全対策室設置
	18年	8月	地域医療連携室設置
	19年	9月	森岳診療所閉所
	20年	2月	がん診療連携拠点病院指定 病棟再編（産科分娩の集約化による）
	21年	5月	発熱外来設置
	21年	10月	緩和ケア室設置（現 緩和ケアセンター）
	22年	2月	病棟再編 病床数500床（一般436床、精神60床、感染4床）

	22年	6月	院内改修（血液浄化センター、医療機器管理センター、人間ドック、外来化学療法室、感染症病室）
	22年	7月	D P C（診断群分類別包括制度）導入
	22年	11月	入院支援センター設置
	22年	12月	精神デイケア（小規模なもの）開始
	23年	4月	精神デイケア（大規模なもの）開始
	23年	5月	日本医療機能評価 ver.6 認定
	24年	3月	救急外来拡充
	24年	6月	病棟再編 病床数482床（一般418床、精神60床、感染4床） 標榜診療科名の変更・追加 （内科→血液・腎臓内科、消化器科→消化器内科、循環器科→循環器内科、呼吸器科→呼吸器内科、リウマチ科、糖尿病・代謝内科、腫瘍内科）、リンパ浮腫ケア室開設
	25年	3月	1階外来棟改修、内視鏡室拡充
	25年	5月	標榜診療科名の追加（消化器外科）
	25年	11月	健診センター改修（乳房撮影室）
	25年	12月	健診センター改修（エックス線TV室）
	26年	2月	院内改修（院内喫茶店）
	26年	4月	院内改修（4階：リハビリテーション室、言語聴覚室、3階：第2処置室）
	26年	10月	健診センター改修（胸部撮影室）
	26年	12月	病棟再編（地域包括ケア病棟48床 開始）
	27年	4月	「能代厚生医療センター」へ病院名称変更 病棟再編 病床数473床（一般409床、精神60床、感染4床） 地域がん診療病院指定
	27年	7月	7対1看護基準取得／地域包括ケア病棟 辞退
	27年	8月	地域包括ケア病棟 取得
	27年	11月	病棟再編 病床数469床（一般405床、精神60床、感染4床）
	28年	2月	病棟再編 病床数456床（一般392床、精神60床、感染4床）／1F外来棟改修、血液・腎臓内科 拡充
	28年	5月	日本医療機能評価（一般病院2／精神病院）3rdG：Ver1.1認定
	29年	4月	標榜診療科名の廃止（心臓血管外科）
	29年	10月	認知症疾患医療センター設置
	29年	11月	精神病棟入院基本料 13：1 認可
	30年	4月	第3回日総研接遇大賞受賞
	30年	7月	患者支援センター設置
	31年	4月	標榜診療科名の追加（呼吸器外科） 病棟再編（科別病床増減） ※病床数456床（一般392床、精神60床、感染4床）に変更なし
令和	2年	1月	病棟再編（科別病床増減） ※病床数456床（一般392床、精神60床、感染4床）に変更なし
	3年	2月	病棟再編 病床数393床（一般329床、精神60床、感染4床）

組織概要

1. 経営主体

- (1) 名称 秋田県厚生農業協同組合連合会
- (2) 代表者 代表理事理事長 小野地 章一
- (3) 所在地 秋田市八橋南二丁目10番16号
- (4) 設立 昭和23年8月2日
- (5) 出資金 46億4,145万円／15会員（内連合会2）（令和4年3月31日現在）
- (6) 運営事業
 - 1. 医療に関する事業 …………… グループ病院（9病院）
 - 2. 保健に関する事業
 - 3. 老人の福祉に関する事業
 - 4. 前各号の事業に附帯する事業

2. 病院の概況

- (1) 名称 J A秋田厚生連 能代厚生医療センター
- (2) 代表者 院長 太田原 康 成
- (3) 所在地 能代市落合字上前田地内
- (4) 設立 平成元年8月18日
- (5) 開設者 秋田県厚生農業協同組合連合会
- (6) 面積

病院及び 附属施設 の 状 況	施設名	敷地面積(㎡)	建物延べ面積	備 考
	病 院	49,504.370	33,190.703	車庫、駐輪場、カルテ庫含む
			57.600	訪問看護ステーション 居宅介護支援事業所
	計	49,504.370	33,248.303	
	旧森岳診療所	1,830.480	－	
	職員駐車場	5,291.000	－	
	病院住宅	4,653.560	1,393.320	
	合 計	61,279.410	34,641.623	

- (7) 標 榜 科
 - 血液腎臓内科 ●精 神 科 ●神 経 内 科 ●呼吸器内科 ●消化器内科
 - 循環器内科 ●小 児 科 ●外 科 ●消化器外科 ●整 形 外 科
 - 形 成 外 科 ●脳神経外科 ●呼吸器外科 ●皮 膚 科 ●泌 尿 器 科
 - 産 婦 人 科 ●眼 科 ●耳鼻咽喉科 ●リハビリテーション科 ●放 射 線 科
 - 麻 酔 科 ●糖尿病代謝内科 ●腫 瘍 内 科 ●リウマチ科 （以上24科）

- (8) 許可病床及び基準看護

病 床 区 分	許可病床数
一 般 病 床	329床
一部 地域包括ケア病棟	(うち 48床)
感 染 病 床	4 床
精 神 病 床	60床
合 計	393床

(9) 主な医療設備 M R I、全身用C T（64ch）、ライナック、R I、血管連続撮影装置、超音波診断装置、人工透析装置、対外衝撃波結石碎装置

(10) 職 員 状 況 （令和4年3月31日現在）

職 種	常 勤	嘱 託	非 常 勤	合 計
医 師	40	10.4	7.3	57.7
臨 床 研 修 医 師	9			9
保 健 師	4			4
助 産 師	25		3	28
看 護 師	248		18.5	266.5
准 看 護 師	2		7.6	9.6
薬 剤 師	13			13
診療放射線技師	16			16
臨床検査技師	22		3	25
臨床工学技士	9			9
理学療法士	12			12
作業療法士	11			11
言語聴覚士	2			2
視能訓練士	1		1	2
管理栄養士	5		0.8	5.8
臨床心理士	2			2
事務職員	31		39	70
ケースワーカー	5		1	6
技能職員			1	1
助手職員			44.4	44.4
現業職員			7.6	7.6
合 計	457	10.4	134.2	601.6
※非常勤は常勤換算数				

施 設 認 定		
機 関 指 定	専門医・認定医等研修施設の認定	
救 急 告 示 医 療 機 関	日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	日本がん治療認定医研修施設
病 院 群 輪 番 制 病 院	日本周産期・新生児医学会補完研修施設	マンモグラフィ健診施設画像認定施設
災 害 拠 点 病 院	日本精神神経学会専門医制度研修施設	日本臨床細胞学会認定施設
地 域 が ん 診 療 病 院	日本脳神経外科学会専門医訓練施設	日本脳ドック学会認定施設
精 神 科 救 急 指 定 病 院	日本医学放射線学会放射線科専門医研修施設	日本脳卒中学会認定研修教育施設
臨床研修病院（協力型・基幹型）	日本消化器病学会専門医制度指導施設	日本リウマチ学会教育認定施設
第二種感染症指定医療機関	日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本呼吸器外科学会認定関連施設
労 災 保 険 指 定 医 療 機 関	日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本胸部外科学会関連施設
保 険 医 療 機 関	日本耳鼻咽喉科学会専門医制度研修施設	日本血液学会血液研修施設
指定自立支援医療機関（精神通院医療）	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設	
指定自立支援医療機関（育成・更生医療）	日本眼科学会学会専門医制度研修施設	
母 体 保 護 法 指 定 医 療 機 関		
精 神 保 健 指 定 医 療 機 関		
療 育 医 療 機 関 指 定		
肝 炎 治 療 指 定 医 療 機 関		
結 核 指 定 医 療 機 関		
身体障害者福祉法指定医療機関		

フロアマップ

1F

註冊部門

- | | | |
|----------|------------|-----------------|
| ● 眼科 | ● 呼吸器内科 | ● 脳神経外科/神経内科 |
| ● 整形外科 | ● 内臓臓器 | ● 外科/消化器外科 |
| ● 小児科 | ● 消化器内科 | ● 皮膚・性病内科/リウマチ科 |
| ● 中央放射線室 | ● 泌尿器・代謝内科 | ● 救急科 |

◎ 專業主理專門

- 監製料 ●監修料 ●リハビリテーション料 ●療養料

● 〇

- 書画文庫センター (大塚図書室・大塚図書室・大塚図書室センター・入国文庫センター)
● 料理研究家協会東京支部センター ● レストラン ● ドーナツコーヒ
● コンビニエンスストア (ローソン) ● 理容室 ● 美容室



2F

註冊部門

- 循環器内科
- 皮膚科
- 耳鼻咽喉科

◎ 專業直達部門

- 臨床検査科

● 中国

- 関節センサー



	診療部門	診療支援部門	病 床
7F	●ナースステーション		●7A病棟(40床) ●7B病棟(40床)
6F	●ナースステーション		●6A病棟(40床) ●6B病棟(40床)
5F	●ナースステーション	●訪問看護ステーション ●在宅介護支援センター	●5A病棟(50床) ●5B病棟(35床)
4F	●ナースステーション	●リハビリテーション室 ●高診読実室	●4A病棟(40床)
3F	●ナースステーション ●血液浄化センター ●外 科 化 療 病 室	●医療機器管理センター ●臨床科作業療法室	●精神科棟(60床) ●人間ドック(仮応接室) ●検診実室

-  総合受付、会計・お問合わせ口
  トイレ
  多目的トイレ
  おむつ交換所
-  エレベーター
  AED
  ATM
  出口

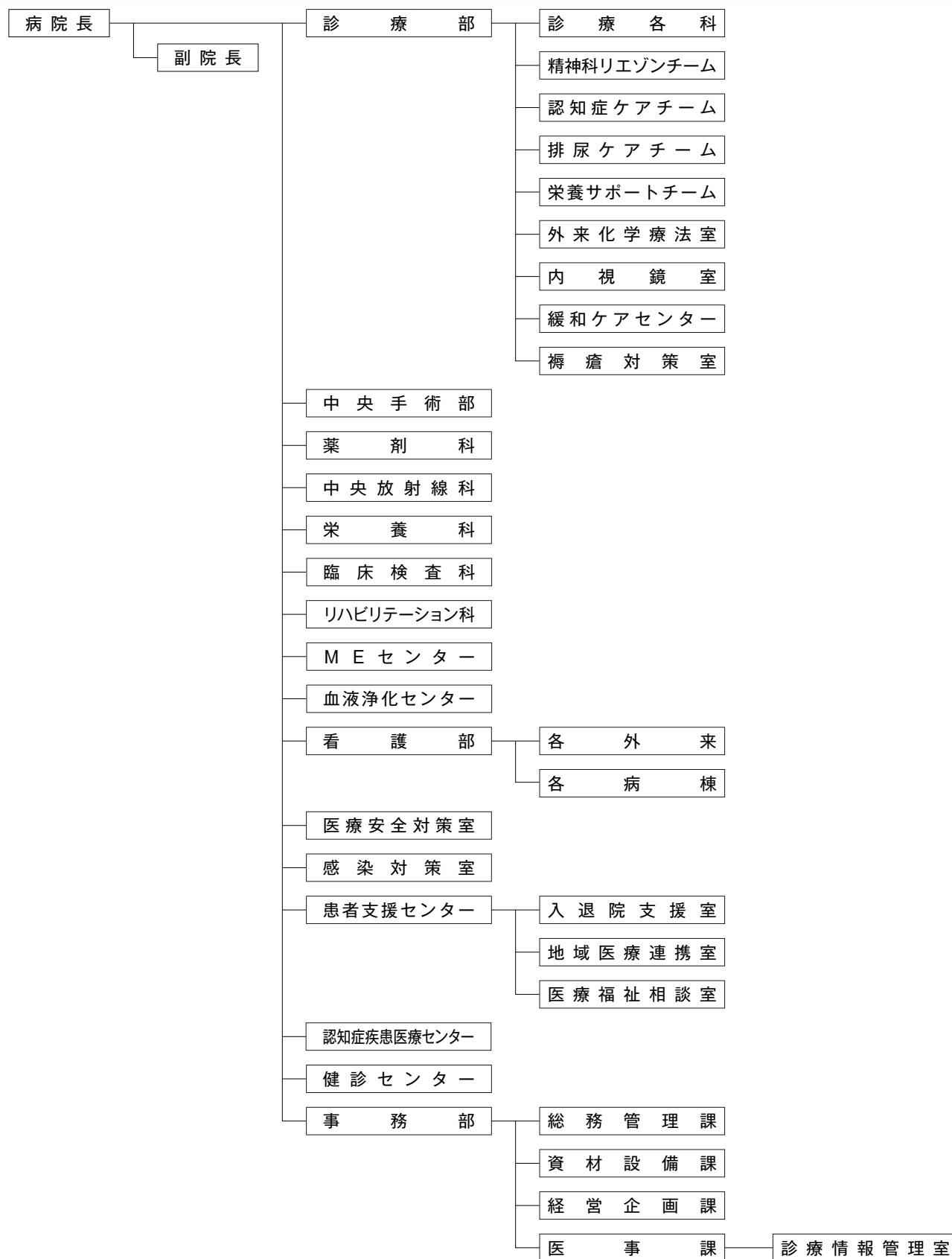
施設基準等の届出事項

令和3年度（令和3年12月1日時点）

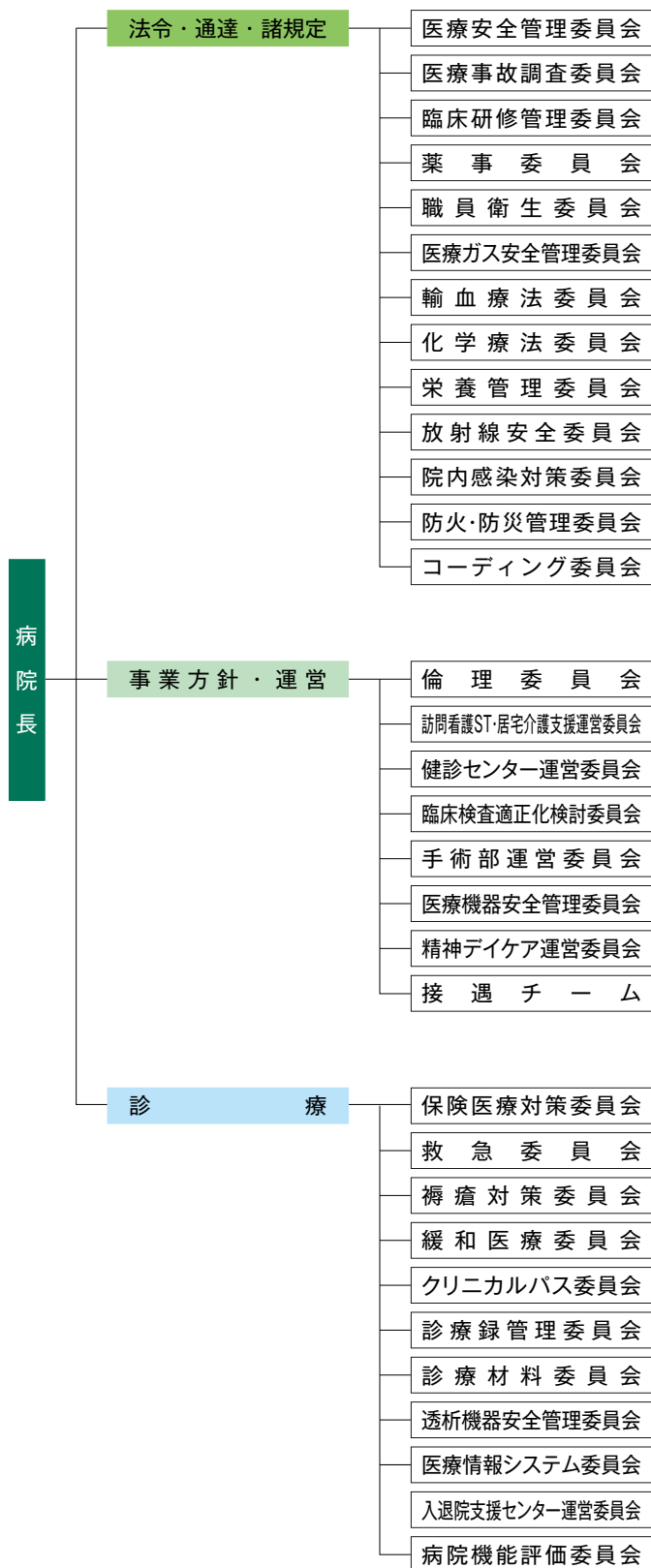
【基本診療料】 ○一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1） ○精神病棟入院基本料（13対1） ○臨床研修病院入院診療加算（基幹型） ○救急医療管理加算 ○妊産婦救急搬送入院加算 ○診療録管理体制加算1 ○医師事務作業補助体制加算1（15対1）（一般） ○医師事務作業補助体制加算1（50対1）（精神） ○急性期看護補助体制加算（50対1） ○看護職員夜間16対1配置加算1 ○療養環境加算 ○重症者等特別療養環境加算 ○無菌治療室管理加算1 ○精神科身体合併症管理加算 ○精神科リエゾンチーム加算 ○がん拠点病院加算（地域がん診療病院） ○医療安全対策加算1 ○医療安全対策地域連携加算1 ○感染防止対策加算1 ○感染防止対策地域連携加算 ○抗菌薬適正使用支援加算 ○患者サポート体制充実加算 ○褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ○ハイリスク妊娠管理加算 ○ハイリスク分娩管理加算 ※ ○精神科救急搬送患者地域連携受入加算 ○入退院支援加算注8に係る総合機能評価加算 ○後発医薬品使用体制加算1 ○病棟薬剤業務実施加算1 ○データ提出加算2 ○せん妄ハイリスク患者ケア加算 ○入退院支援加算1 ○入院時支援加算 ○認知症ケア加算1 ○精神疾患診療体制加算 ○精神科急性期医師配置加算 ○地域包括ケア病棟入院料2 （地域包括ケアに係わる看護職員配置加算） （地域包括ケアに係わる看護補助者配置加算） ○地域医療体制確保加算 ○超急性期脳卒中加算 ○排尿自立支援加算 ※ <table border="0"> <tr> <td>年間分娩件数</td> <td>396件</td> </tr> <tr> <td>配置医師数</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>配置助産師数</td> <td>19名</td> </tr> </table>	年間分娩件数	396件	配置医師数	4名	配置助産師数	19名	【特掲診療料】 ○夜間休日救急搬送医学管理料 ○救急搬送看護体制加算 ○ニコチン依存症管理料 ○がん治療連携計画策定料、がん治療連携管理料 ○肝炎インターフェロン治療計画料 ○外来排尿自立指導料 ○薬剤管理指導料 ○医療機器安全管理料1 ○医療機器安全管理料2 ○在宅患者訪問看護・指導料 ○同一建物居住者訪問看護・指導料 ○造血管腫瘍遺伝子検査 ○BRCA1/2遺伝子検査 ○HPV核酸同定検査及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定） ○検体検査管理加算（Ⅳ） ○植込型心電図検査 ○時間内歩行試験 ○ヘッドアップティルト試験 ○神経学的検査 ○小児食物アレルギー負荷試験 ○画像診断管理加算1 ○CT撮影及びMRI撮影 ○大腸CT撮影加算 ○抗悪性腫瘍剤処方管理加算 ○外来化学療法加算1 ○連携充実加算（外来化学療法） ○無菌製剤処理料 ○脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）・初期加算 ○運動器リハビリテーション料（Ⅰ）・初期加算 ○呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）・初期加算 ○がん患者リハビリテーション料 ○認知療法・認知行動療法2 ○精神科ショート・ケア（小規模なもの） ○精神科デイ・ケア（大規模なもの） ○精神科デイ・ケア（小規模なもの） ○抗精神病特定薬剤治療指導管理料 ○人工腎臓（慢性維持透析を行った場合1） ○導入期加算1 ○透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 ○下肢末梢動脈疾患指導管理加算 ○椎間板内酵素注入療法 ○乳がんセンチネルリンパ節加算2 ○ペースメーカー移植術及び交換術 ○大動脈バルーンパンピング法（IABP法） ○医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 ○胃瘻造設時嚥下機能評価加算 ○体外衝撃波胆石破碎術 ○腹腔鏡下肝切除術 ○早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 ○体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 ○腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの） ○腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 ○人工尿道括約筋埋込・置換術 ○医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術 ○輸血管理料（Ⅰ） ○輸血適正使用加算 ○貯血式自己血輸血管理体制加算 ○人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算 ○外来放射線治療加算 ○放射線治療専任加算 ○高エネルギー放射線治療 ○1回線量増加加算
年間分娩件数	396件						
配置医師数	4名						
配置助産師数	19名						
【食事療養費】 ○入院時食事療養費（Ⅰ） ○食堂加算 【特掲診療料】 ○外来栄養食事指導料（連携充実加算） ○遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料） ○喘息治療管理料 ○糖尿病合併症管理料 ○がん性疼痛緩和指導管理料 ○がん患者指導管理料Ⅰ ○がん患者指導管理料Ⅱ ○がん患者指導管理料Ⅲ ○がん患者指導管理料Ⅳ ○乳腺重症化予防ケア・指導料 ○婦人科特定疾患治療管理料 ○小児科外来診療料 ○院内トリアージ実施料							

組 織 図

R4.3.31



院内委員会組織図



資格所有者一覧

令和4年3月31日現在

診療部門	氏名	資格
診療部門（医師）		
脳神経外科	太田原 康 成	脳神経外科専門医
		脳卒中専門医
		日本脳卒中の外科学会技術認定医
		総合診療医
		DMA T 隊員
	南 波 孝 昌	脳神経外科専門医 脳卒中専門医
産婦人科	松 井 俊 彦	産婦人科専門医
	柴 田 悟 史	産婦人科指導医
		産婦人科専門医
		産婦人科専門医
		周産期専門医（母体・胎児）
整形外科	佐 藤 毅	整形外科専門医
		スポーツ認定医
		自己血輸血責任医師
	久保田 均	整形外科専門医
	伊 藤 博 紀	整形外科専門医
		リウマチ専門医
	佐々木 寛	整形外科専門医
		脊椎脊髄外科指導医
		DMA T 隊員
	阿 部 和 伸	整形外科専門医
血液・腎臓内科	藤 島 直 仁	血液専門医
		血液指導医
		日本内科学会認定内科医
		日本内科学会総合内科専門医
		日本輸血・細胞治療学会認定医
		造血細胞移植認定医
	伊 藤 貢	日本内科学会認定内科医 血液専門医
放射線科	眞 山 一 郎	放射線科（診断）専門医
		核医学専門医
		P E T 核医学認定医
		放射線科治療専門医
	岩 間 孝 英	核医学専門医
		がん治療認定医
		肺がん C T 検診認定医
		日本医学放射線学会研修指導者
呼吸器内科	金 田 浩 人	インфекションコントロールドクター（ICD）
呼吸器外科	松 崎 郁 夫	日本消化器外科学会認定医
		外科専門医
		日本医師会認定産業医
耳鼻咽喉科	江 戸 雅 孝	耳鼻咽喉科専門医
	辻 正 博	耳鼻咽喉科専門医
		耳鼻咽喉科専門研修指導医
		がん治療認定医
精神科	齋 藤 英 知	精神科専門医
		精神保健指定医
		精神科専門医制度指導医
	山 田 篤	精神科専門医
		精神保健指定医
		精神科専門医制度指導医
	佐 藤 優 真	精神保健指定医
皮膚科	矢 島 晴 美	皮膚科専門医

診療部門	氏名	資格
臨床検査科	村上正代	病理専門医
		細胞診指導医
		日本医師会認定産業医
消化器内科	藤島裕耕	肝臓専門医
		消化器病専門医
		消化器内視鏡専門医
		日本内科学会認定内科医
循環器内科	木村州孝	循環器専門医
	梅田有理	日本内科学会認定内科医
小児科	近野勇樹	小児科専門医
		小児科指導医
外科	西成悠	外科専門医
		消化器外科専門医
		消化器がん外科治療認定医
		ジオン注（四段階注射法）
		がん治療認定医
	石橋正久	外科専門医
泌尿器科	小峰直樹	泌尿器科専門医
		泌尿器科指導医
		がん治療認定医
	伊藤隆一	泌尿器科専門医
		泌尿器科指導医
糖尿病代謝内科	外山はな子	日本糖尿病学会専門医
		日本内科学会認定内科医
健診センター	畠山昇	日本消化器集団検診学会終身認定医
麻酔科	東海林圭	麻酔科指導医・専門医
	松本純一	麻酔科指導医

診療部門	氏名	資格
医療技術部門		
薬 剤 科	木 村 正 行	認定実務実習指導薬剤師
		生涯研修履修認定薬剤師
	工 藤 直 嗣	がん薬物療法認定薬剤師
		認定実務実習指導薬剤師
		日病薬病院薬学認定薬剤師
	大 原 正 之	がん薬物療法認定薬剤師
		生涯研修履修認定薬剤師
	斉 藤 匡 昭	がん薬物療法認定薬剤師
		認定実務実習指導薬剤師
		日病薬病院薬学認定薬剤師
		生涯研修履修認定薬剤師
診療放射線技師	伊 藤 浩	放射線治療品質管理士
		放射線治療専門放射線技師
	松 橋 忠 昭	放射線機器管理士
		胃がん健診専門技師
		X線C T 認定技師
		放射線管理士
	伊 藤 泰 伸	X線C T 認定技師
		胃がん健診専門技師
	丹 清 彦	放射線治療品質管理士
		放射線治療専門放射線技師
	金 子 大 輔	医療画像情報精度管理士
		胃がん健診専門技師
	八 木 勇 介	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師
		画像等手術支援認定診療放射線技師
		医療情報技師
		肺がんC T 健診認定技師
	石 山 隼 人	A i 認定診療放射線技師
		超音波検査士（消化器領域／血管領域）
		第一種放射線取扱主任者
		検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師
	成 田 公 輝	画像等手術支援認定診療放射線技師
		磁気共鳴専門技術者
		X線C T 認定技師
		A i 認定診療放射線技師
臨床検査技師	住 吉 未 有	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師
		超音波検査士（循環器領域）
	清 水 盛 也	細胞検査士
		有機溶剤作業主任者
	藤 嶋 正 人	超音波検査士（消化器領域）
		臨床検査技師臨地実習指導者
	成 田 淳 子	認定輸血検査技師
		超音波検査士（循環器領域）
	加 藤 亜有子	超音波検査士（体表臓器領域／消化器領域）
		細胞検査士
	藤 嶋 利 花	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者
		超音波検査士（消化器領域）
	川 端 寛 子	精度管理責任者
		二級臨床検査士（微生物学）
	佐々木 美利加	細胞検査士
		超音波検査士（消化器領域）
	山 田 利 信	細胞検査士
		有機溶剤作業主任者

診 療 部 門	氏 名	資 格
作 業 療 法 士	石 川 周	3学会合同呼吸療法認定士
臨 床 工 学 技 士	丸 山 広	血液浄化専門臨床工学技士
		透析技術認定士
	赤 坂 紀 之	透析技術認定士
	内 藤 恭 子	透析技術認定士
	佐々木 和 義	透析技術認定士
		医療機器情報コミュニケーター（MD I C）
		DMA T隊員
山 本 真 櫻	植込み型心臓デバイス認定士	
管 理 栄 養 士	高 橋 美 香	N S T専門療法士
	松 嶋 香 織	日本糖尿病療養指導士
		N S T専門療法士
看護部門		
	日 沼 ゆかり	認定看護師（認定看護管理者）
	出 雲 隆 子	認定看護師（認定看護管理者）
	袴 田 陽 子	認定看護師（感染管理）
	菅 原 俊 子	認定看護師（感染管理）
	伊 藤 郁 子	認定看護師（緩和ケア）
	小 林 真 紀	認定看護師（緩和ケア）
	工 藤 純 子	認定看護師（認知症看護）
	佐々木 伸 子	認定看護師（皮膚・排泄ケア）
	田 中 富三男	認定看護師（がん化学療法）
	工 藤 ゆき子	認定看護師（訪問看護）
内 藤 建 介	認定看護師（精神科）	
事務部門		
	高 杉 謙 祐	DMA T隊員
	佐々木 翔	DMA T隊員
	飛 澤 茉佑子	院内がん登録実務初級者認定
		診療情報管理士
	米 谷 明沙美	診療情報管理士
	工 藤 恵理華	院内がん登録実務初級者認定
		診療情報管理士
成 田 恵	院内がん登録実務初級者認定	

病院の主な行事

病院の主な行事

《4月》

- 1日(木) 定期人事異動辞令交付式（講堂）
新人職員辞令交付式（講堂）
- 2日(金) 新人職員研修会（講堂）
- 12日(月) キャンサーボード（大会議室）
- 21日(水) 管理者会議（講堂）
- 28日(水) 診療科長会議（講堂）
- 30日(金) 医局会議（医局ラウンジ）

《5月》

- 10日(月) キャンサーボード（大会議室）
- 17日(月) 病院機能向上委員会（講堂）
- 19日(水) 管理者会議（講堂）
- 25日(火) 診療科長会議（講堂）
- 26日(水) 医局会議（医局ラウンジ）

《6月》

- 14日(月) 病院機能向上委員会（講堂）
- 14日(月) キャンサーボード（大会議室）
- 16日(水) 管理者会議（講堂）
- 23日(水) 診療科長会議（講堂）
- 24日(木) 医局会議（医局ラウンジ）

《7月》

- 12日(月) キャンサーボード（大会議室）
- 14日(水) 病院機能向上委員会（講堂）
- 20日(火) 管理者会議（講堂）
- 28日(水) 診療科長会議（講堂）
- 29日(木) 医局会議（医局ラウンジ）

《8月》

- 16日(月) キャンサーボード（大会議室）
- 18日(水) 管理者会議（講堂）
- 25日(水) 診療科長会議（講堂）
- 26日(木) 医局会議（講堂）

《9月》

- 13日(月) キャンサーボード（大会議室）
- 15日(水) 管理者会議（講堂）

22日(水) 診療科長会議 (講堂)
24日(金) 医局会議 (講堂)

《10月》

1日(金) 接遇自慢大会 (講堂)
18日(月) BLS研修会 (講堂)
18日(月) キャンサーボード (大会議室)
20日(水) 管理者会議 (講堂)
22日(金) 感染業務改善発表会 (講堂)
26日(火) 診療科長会議 (講堂)
28日(木) 医局会議 (講堂)

《11月》

8日(月) キャンサーボード (大会議室)
11日(木) 上期監事監査 (講堂)
17日(水) 管理者会議 (講堂)
17日(水) 医療安全業務改善発表会 (講堂)
24日(水) 診療科長会議 (講堂)
25日(木) 医局会議 (講堂)

《12月》

13日(月) キャンサーボード (大会議室)
15日(水) 管理者会議 (講堂)
22日(水) 診療科長会議 (講堂)
23日(木) 医局会議 (講堂)
28日(火) 職域代表者会議 (講堂)
29日(水) 仕事納め式 (講堂)

《1月》

5日(水) 病院機能向上委員会 (講堂)
17日(月) キャンサーボード (大会議室)
19日(水) 管理者会議 (講堂)
25日(火) 職域代表者会議 (講堂)
26日(水) 診療科長会議 (講堂)
27日(木) 医局会議 (講堂)

《2月》

16日(水) 管理者会議 (講堂)
21日(月) キャンサーボード (大会議室)
22日(火) 職域代表者会議 (講堂)
24日(木) 診療科長会議 (講堂)
25日(金) 医局会議 (講堂)

《3月》

- 11日(金) 防火・防災訓練（講堂）
- 14日(月) キャンサーボード（大会議室）
- 16日(水) 管理者会議（講堂）
- 22日(火) 職域代表者会議（講堂）
- 23日(水) 診療科長会議（講堂）
- 24日(木) 医局会議（講堂）
- 31日(木) 定年退職者辞令交付式（講堂）

主な行事写真

4月



辞令交付式



新採用職員研修《消火訓練》



ワールドカフェ研修



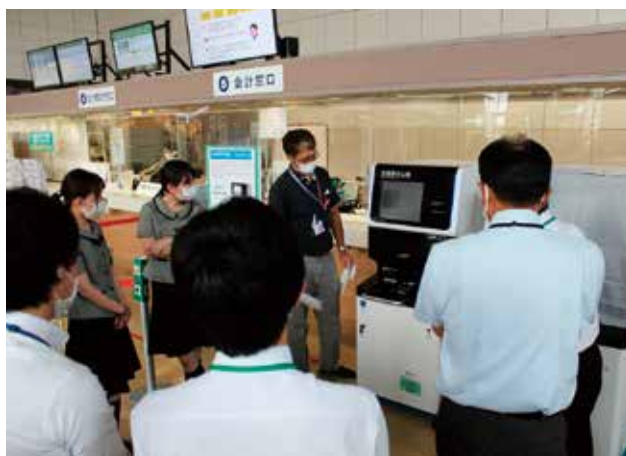
個人防護具着脱研修

9月



太田原院長オリンピック聖火ランナー

9月



自動精算機操作研修会

3月



防災訓練



研修医修了証授与式



定年退職者辞令交付式

臨床指標

当院は、医療の質の向上を目的として病院の様々な機能を測定・評価しております。平成30年度より日本病院会のQ Iプロジェクトに参加しており、当院独自のデータも含め入手できるデータから臨床指標を作成・公開しています。

なお、他の指標や実績については各診療科ならびに各部門の頁をご参照下さい。一部定義や算式が異なるものもあります。

1 病院全体に関する指標

項 目		実 績	
1	延べ患者数（入院）	2021年度	123,593人
定義／計算	実数	2020年度	118,158人
		2019年度	129,127人
2	延べ患者数（外来）	2021年度	183,063人
定義／計算	実数	2020年度	186,182人
		2019年度	205,639人
3	平均在院日数（一般病床）	2021年度	15.1日
定義／計算	在院患者数／（新入院患者数＋退院患者数）÷ 2	2020年度	15.6日
		2019年度	14.2日
4	平均在院日数（精神病床）	2021年度	60.1日
定義／計算	在院患者数／（新入院患者数＋退院患者数）÷ 2	2020年度	55.8日
		2019年度	64.3日
5	病床利用率	2021年度	86.2%
定義／計算	入院患者数延数／病床許可数×365日	2020年度	82.4%
		2019年度	77.3%

2 感染制御に関する指標

項 目		実 績	
1	血液培養実施時の2セット実施率	2021年度	87.4%
定義／計算	分母のうち血液培養を2セット提出した患者数／血液培養を提出した患者数	2020年度	91.4%
		2019年度	88.0%

3 救急医療に関する指標

項 目		実 績	
1	年間救急車受入数	2021年度	2,418件
定義／計算	①実数②救急車受入件数／救急車受入要請件数	2020年度	2,209件
		2019年度	2,261件
2	救急車応需率	2021年度	99.5%
定義／計算		2020年度	99.3%
		2019年度	99.3%

4 地域連携に関する指標

項 目		実 績	
1	紹介率	2021年度	22.4%
定義／計算	紹介患者数／初診患者数	2020年度	23.2%
		2019年度	24.3%
2	逆紹介率	2021年度	50.5%
定義／計算	逆紹介患者数／初診患者数	2020年度	41.4%
		2019年度	41.0%

5 検査に関する指標

項 目		実 績	
1	術中迅速検査数（組織診、細胞診）	2021年度	101件
定義／計算	実数（組織診、細胞診）	2020年度	94件
		2019年度	77件
2	超音波検査数	2021年度	12,205件
定義／計算	実数	2020年度	12,993件
		2019年度	12,171件

6 栄養に関する指標

項 目		実 績	
1	特別食比率	2021年度	35.7%
定義／計算	特別食数／全食事総数	2020年度	36.7%
		2019年度	32.7%

7 教育・研修に関する指標

項 目		実 績	
1	認定看護師数	2021年度	9 名
定義／計算	実数	2020年度	9 名
		2019年度	9 名

8 手術に関する指標

項 目		実 績	
1	手術件数	2021年度	1,765件
定義／計算	実数	2020年度	1,624件
		2019年度	1,753件
2	全身麻酔件数	2021年度	1,268件
定義／計算	実数	2020年度	1,202件
		2019年度	1,286件

患

者

統

計

年度別患者利用状況

外来

	平成29年度		平成30年度		令和1年度		令和2年度		令和3年度	
	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員
内 科	11,088	45.4	11,420	47.0	11,179	46.8	10,739	44.2	10,194	42.0
循 環 器 科	24,045	98.5	23,542	96.9	22,883	95.7	20,574	84.7	17,707	72.9
消 化 器 科	13,533	55.5	12,866	52.9	12,527	52.4	12,645	52.0	12,402	51.0
呼吸器内科	14,165	58.1	14,086	58.0	13,362	55.9	11,716	48.2	11,320	46.6
精 神 科	24,268	99.5	25,660	105.6	25,278	105.8	23,189	95.4	23,142	95.2
小 児 科	8,324	34.1	8,245	33.9	7,871	32.9	6,005	24.7	6,511	26.8
外 科	7,824	32.1	7,788	32.0	7,927	33.2	7,940	32.7	7,802	32.1
呼吸器外科	0	0.0	0	0.0	1,660	6.9	2,581	10.6	2,504	10.3
心 臓 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
脳 外 科	6,975	28.6	6,382	26.3	5,602	23.4	4,642	19.1	4,336	17.8
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
整 形 外 科	27,179	111.4	27,062	111.4	24,354	101.9	21,521	88.6	22,741	93.6
形 成 外 科	1,904	7.8	1,253	5.2	1,132	4.7	1,087	4.5	1,463	6.0
皮 膚 科	11,070	45.4	10,097	41.6	9,672	40.5	8,511	35.0	7,275	29.9
泌 尿 器 科	25,075	102.8	24,129	99.3	22,356	93.5	23,309	95.9	23,453	96.5
産 婦 人 科	14,996	61.5	13,290	54.7	13,088	54.8	12,356	50.8	12,527	51.6
眼 科	938	3.8	848	3.5	1,071	4.5	1,218	5.0	1,295	5.3
耳 鼻 咽 喉 科	11,828	48.5	12,058	49.6	12,142	50.8	10,846	44.6	10,839	44.6
放 射 線 科	2,026	8.3	1,550	6.4	1,579	6.6	1,380	5.7	1,518	6.2
神 経 内 科	1,186	4.9	1,138	4.7	1,196	5.0	1,204	5.0	1,146	4.7
糖尿病・代謝内科	5,183	21.2	4,907	20.2	5,076	21.2	4,575	18.8	4,651	19.1
腫 瘍 内 科	213	0.9	261	1.1	168	0.7	144	0.6	237	1.0
ド ッ ク	5,620	23.0	5,463	22.5	5,516	23.1	5,217	21.5	4,758	19.6
合 計	217,440	891.1	212,045	872.6	205,639	860.4	191,399	787.7	187,821	772.9
前 年 対 比	-1,904	-7.8	-5,395	-22.2	-6,406	-26.8	-14,240	-58.6	-3,578	-14.7

稼働日数	244	243	239	243	243
------	-----	-----	-----	-----	-----

入院

	平成29年度		平成30年度		令和1年度		令和2年度		令和3年度	
	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員
内 科	8,934	24.5	9,497	26.0	11,226	30.7	8,604	23.6	9,203	25.2
循 環 器 科	13,833	37.9	16,014	43.9	13,885	37.9	12,134	33.2	13,930	38.2
消 化 器 科	8,905	24.4	9,911	27.2	10,124	27.7	12,202	33.4	11,310	31.0
呼吸器内科	17,512	48.0	15,417	42.2	10,889	29.8	9,260	25.4	8,742	24.0
精 神 科	18,205	49.9	17,755	48.6	17,387	47.5	15,890	43.5	17,448	47.8
小 児 科	2,128	5.8	2,222	6.1	1,858	5.1	1,058	2.9	1,337	3.7
外 科	6,537	17.9	8,317	22.8	10,062	27.5	9,529	26.1	8,019	22.0
呼吸器外科					4,348	11.9	3,895	10.7	4,248	11.6
心 臓 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
脳 外 科	11,323	31.0	9,938	27.2	9,671	26.4	8,689	23.8	8,902	24.4
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
整 形 外 科	25,155	68.9	22,025	60.3	23,418	64.0	22,356	61.2	25,050	68.6
形 成 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
皮 膚 科	539	1.5	718	2.0	1,019	2.8	574	1.6	828	2.3
泌 尿 器 科	8,451	23.2	3,862	10.6	5,155	14.1	5,452	14.9	4,328	11.9
産 婦 人 科	10,210	28.0	9,799	26.8	7,390	20.2	6,485	17.8	8,451	23.2
眼 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
耳 鼻 咽 喉 科	2,647	7.3	2,550	7.0	2,591	7.1	2,029	5.6	1,797	4.9
放 射 線 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
神 経 内 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
糖尿病・代謝内科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
腫 瘍 内 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ド ッ ク	150	0.4	110	0.3	104	0.3	78	0.2	74	0.2
合 計	134,529	368.6	128,135	351.1	129,127	352.8	118,235	323.9	123,667	338.8
前 年 対 比	-1,014	-2.8	-6,394	-17.5	992	2.7	992	2.7	5,432	14.9

稼働日数	365	365	366	365	365
------	-----	-----	-----	-----	-----

退院患者統計

(令和3年度)

- ・診療情報管理システムにて集計した。
- ・転科がある場合は転科毎にカウントとした。
- ・大分類については、主病名を I C D - 10 (2013年版) に基づいてコーディングし、集計した。

1. 診療科別・月別・延退院患者数 (科別死亡数・剖検数)

2. 診療科別退院患者率

3. 診療圏別延退院患者数

4. 疾病別・診療科別・延退院患者数 (大分類)

5. 性別・年齢階層別延退院患者数

6. 年齢階層別延退院患者数 (死亡数・剖検数)

7. H29～R3年度診療科別延退院患者数推移

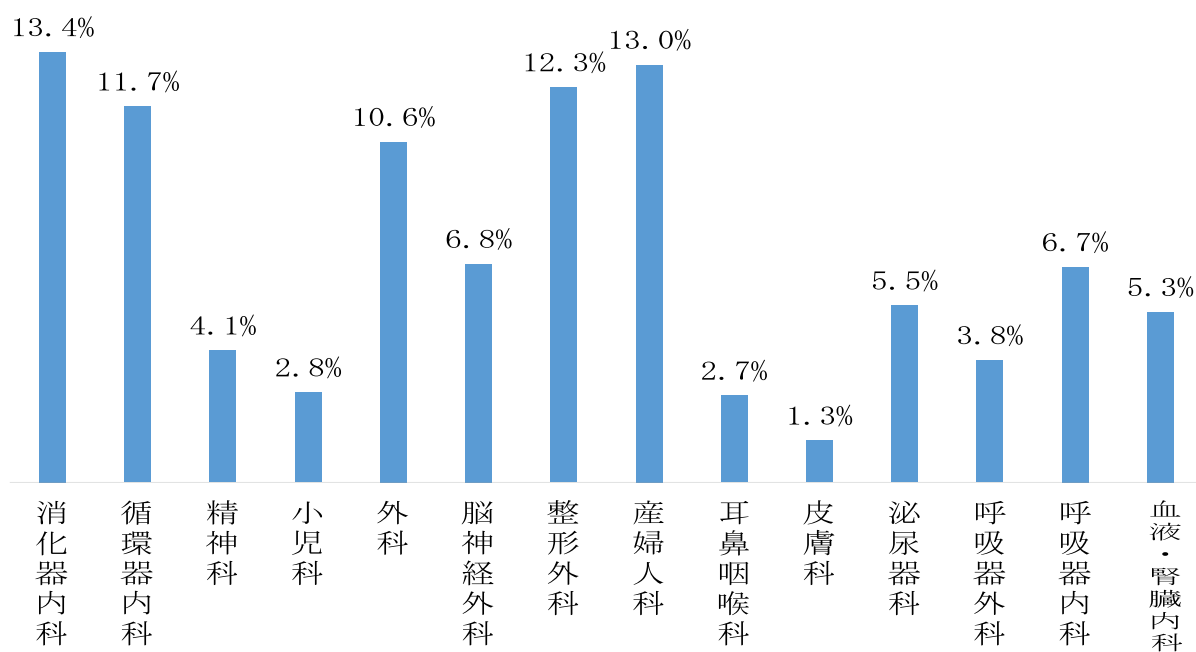
1. 診療科別・月別・延退院患者数（死亡数・剖検数）

能代厚生医療センター

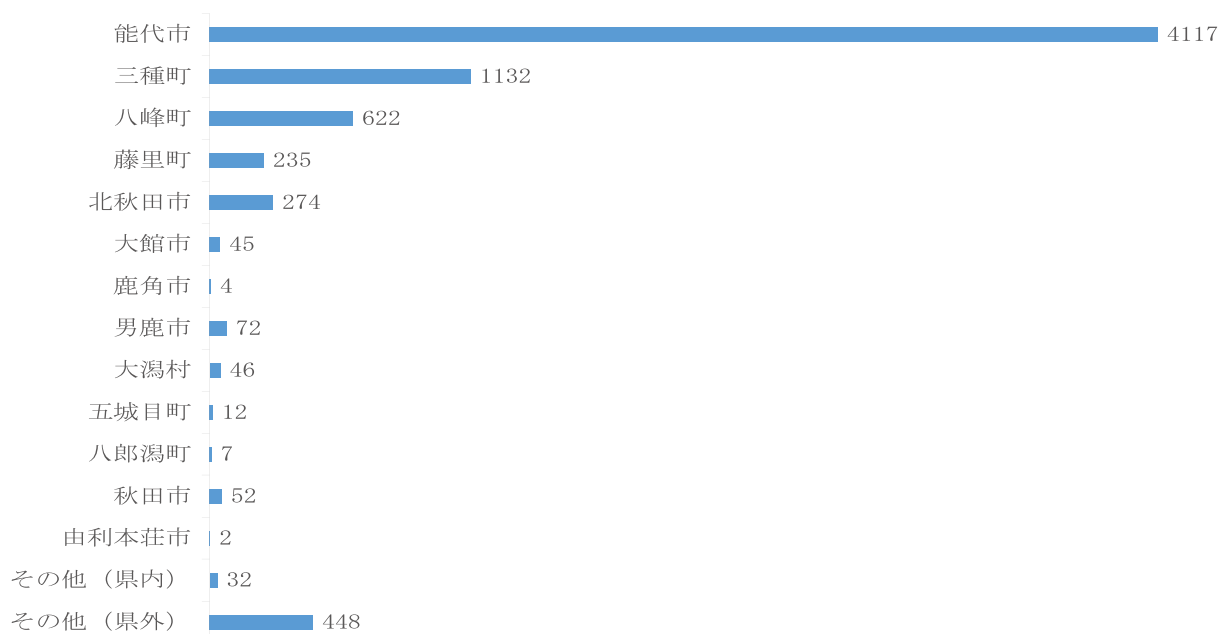
（単位：人）

		合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検
合 計	合計	7,100	587	542	627	607	620	551	593	550	668	545	556	654	513	1
	男	3,461	280	246	303	298	309	267	305	260	316	280	254	343	297	1
	女	3,639	307	296	324	309	311	284	288	290	352	265	302	311	216	
消 化 器 内 科	合計	953	80	79	82	82	72	70	75	76	109	80	66	82	63	
	男	539	50	40	46	44	36	44	48	42	55	50	38	46	31	
	女	414	30	39	36	38	36	26	27	34	54	30	28	36	32	
循 環 器 内 科	合計	828	87	57	74	78	74	65	60	53	72	76	50	82	85	
	男	502	49	35	49	44	50	41	36	31	43	46	33	45	45	
	女	326	38	22	25	34	24	24	24	22	29	30	17	37	40	
精 神 科	合計	292	15	26	23	26	32	27	23	20	29	26	23	22	16	
	男	119	7	13	9	8	13	8	10	7	13	11	11	9	9	
	女	173	8	13	14	18	19	19	13	13	16	15	12	13	7	
小 児 科	合計	198	12	11	18	23	20	23	20	8	22	6	20	15		
	男	110	7	7	8	15	13	11	11	4	11	2	10	11		
	女	88	5	4	10	8	7	12	9	4	11	4	10	4		
外 科	合計	755	61	63	65	66	59	50	74	60	63	65	64	65	51	
	男	454	40	36	38	41	44	28	45	34	38	42	31	37	33	
	女	301	21	27	27	25	15	22	29	26	25	23	33	28	18	
脳 神 経 外 科	合計	483	47	37	51	37	39	27	43	45	45	34	40	38	62	
	男	246	23	16	24	20	21	13	22	26	24	17	21	19	21	
	女	237	24	21	27	17	18	14	21	19	21	17	19	19	41	
整 形 外 科	合計	876	71	65	80	71	63	52	85	68	82	66	76	97	8	
	男	373	29	21	32	34	25	18	38	25	30	30	37	54	3	
	女	503	42	44	48	37	38	34	47	43	52	36	39	43	5	
産 婦 人 科	合計	923	82	78	72	72	86	78	72	87	81	61	79	75	7	
	男															
	女	923	82	78	72	72	86	78	72	87	81	61	79	75	7	
耳 鼻 咽 喉 科	合計	191	13	14	22	22	15	19	20	13	16	12	13	12	13	
	男	112	7	5	11	14	9	12	12	9	11	9	4	9	11	
	女	79	6	9	11	8	6	7	8	4	5	3	9	3	2	
皮 膚 科	合計	91	2	4	9	8	14	7	8	11	7	6	8	7	1	
	男	45	2	2	3	3	8	6	4	4	3	5	4	1	1	
	女	46		2	6	5	6	1	4	7	4	1	4	6		
泌 尿 器 科	合計	392	32	31	30	37	34	31	30	32	41	24	29	41	29	
	男	253	18	21	22	24	19	20	19	22	21	21	17	29	21	
	女	139	14	10	8	13	15	11	11	10	20	3	12	12	8	
呼 吸 器 外 科	合計	270	22	17	19	18	32	24	26	20	21	20	19	32	34	
	男	200	15	13	9	12	27	20	21	15	18	11	11	28	26	
	女	70	7	4	10	6	5	4	5	5	3	9	8	4	8	
呼 吸 器 内 科	合計	合計	474	46	40	47	33	43	45	33	24	38	35	38	52	94
	男	308	25	26	32	25	24	28	20	18	30	25	21	34	64	1
	女	166	21	14	15	8	19	17	13	6	8	10	17	18	30	
血 液 ・ 腎 臓 内 科	合計	374	17	20	35	34	37	33	24	33	42	34	31	34	50	1
	男	200	8	11	20	14	20	18	19	23	19	11	16	21	32	1
	女	174	9	9	15	20	17	15	5	10	23	23	15	13	18	

2. 診療科別退院患者率



3. 診療圏別延退院患者数



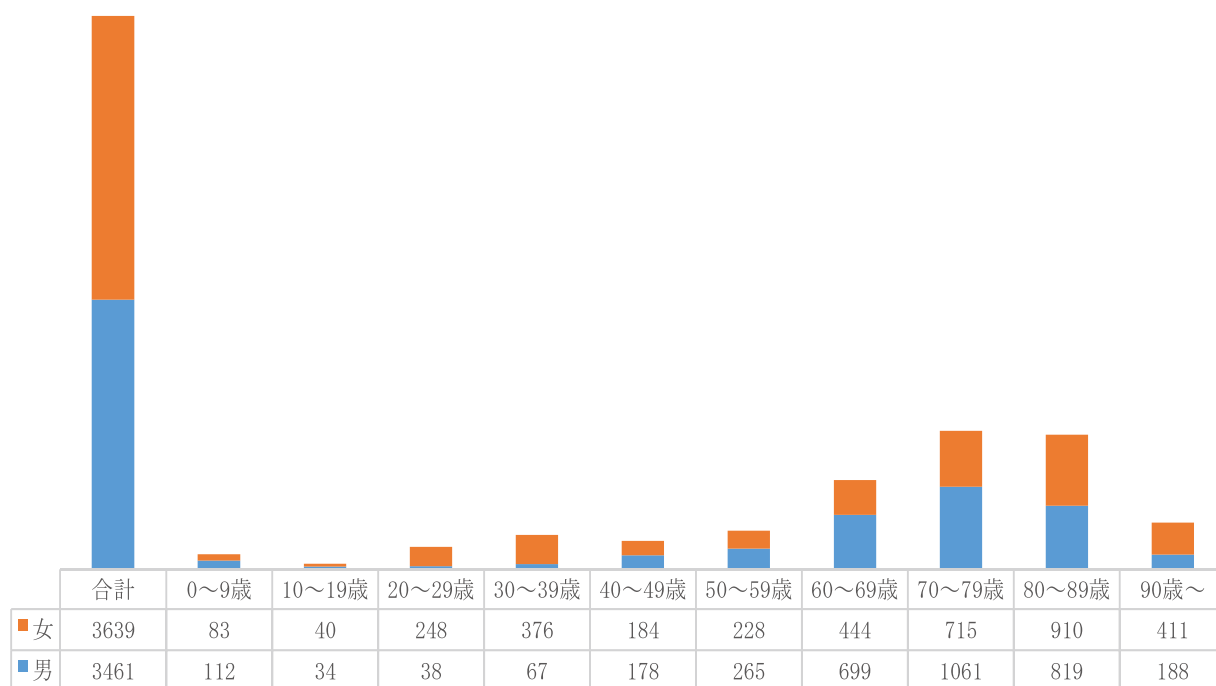
4. 疾病別・診療科別・延退院患者数（大分類）

能代厚生医療センター

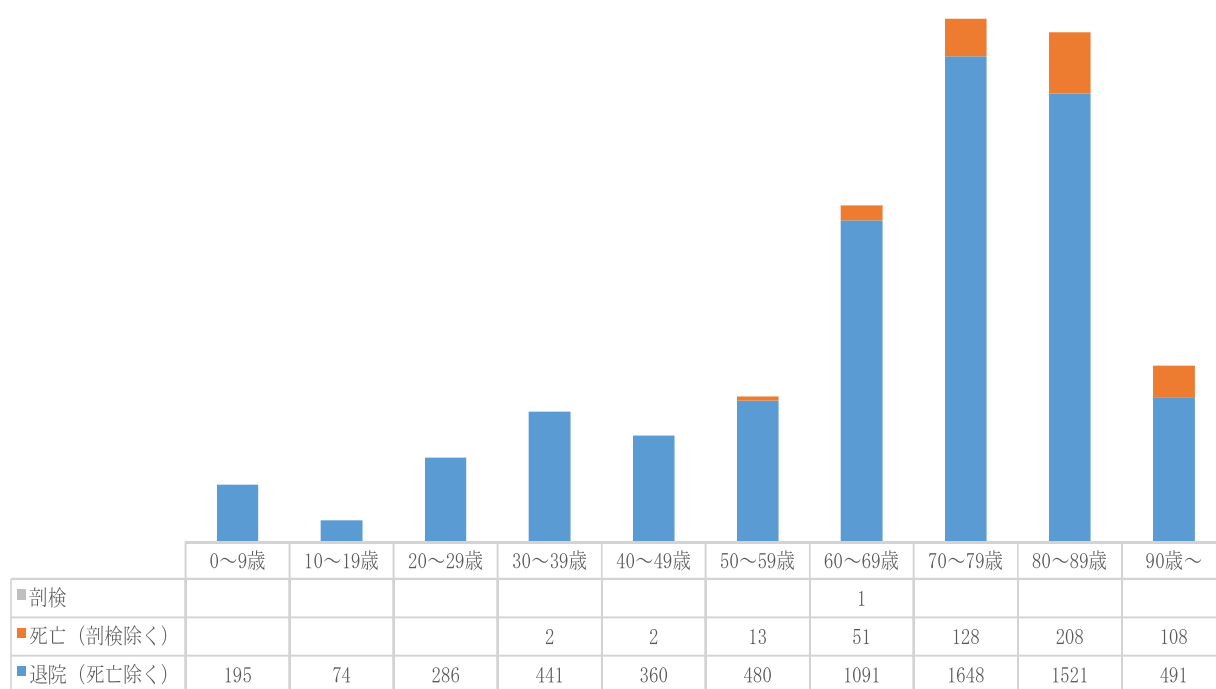
（単位：人）

		合 計	消化器 内 科	循環器 内 科	精神科	小児科	外科	脳神経 外 科	整 形 外 科	産婦人 科	耳 鼻 咽喉科	皮膚科	泌尿器 科	呼吸器 外 科	呼吸器 内 科	血液・腎 臓内科
合計	合計	7,100	953	828	292	198	755	483	876	923	191	91	392	270	474	374
	男	3,461	539	502	119	110	454	246	373		112	45	253	200	308	200
	女	3,639	414	326	173	88	301	237	503	923	79	46	139	70	166	174
01：感染症及び寄生虫 症	合計	152	35	8		28	5	2	2	2	3	32		5	16	14
	男	66	15	2		11	4				1	13		3	11	6
	女	86	20	6		17	1	2	2	2	2	19		2	5	8
02：新生物＜腫瘍＞	合計	1,993	385	5		2	488	15	12	315	50	4	127	175	213	202
	男	1,115	254	3		1	300	4	6		43	2	117	123	141	121
	女	878	131	2		1	188	11	6	315	7	2	10	52	72	81
03：血液及び造血器の 疾患並びに免疫機 構の障害	合計	44	10	4		1	1		1				1	1	1	24
	男	21	2	3		1	1		1					1		12
	女	23	8	1									1		1	12
04：内分泌、栄養及び 代謝疾患	合計	108	32	19		2	1	7	6			1	4	1	9	26
	男	52	15	10		1		4	3			1	2		4	12
	女	56	17	9		1	1	3	3				2	1	5	14
05：精神及び行動の障 害	合計	208		1	206				1							2
	男	73			73											1
	女	135		1	133				1							1
06：神経系の疾患	合計	155		5	80	3		37	25		1		1			3
	男	82		3	44	2		20	11		1					1
	女	73		2	36	1		17	14				1			2
07：眼及び付属器の疾 患	合計	46	1					1			44	1				
	男	14						1			13	1				
	女	32	1								31					
08：耳及び乳様突起の 疾患	合計	907	10	533			4	333	8		3	1	3	3	3	6
	男	502	7	319				165			2	1	2	2	2	2
	女	405	3	214			4	168	8		1		1	1	1	4
09：循環器系の疾患	合計	503	22	46		52	8	5	11	3	53	1	15	70	194	23
	男	332	16	31		32	3	4	3		31	1	9	59	133	10
	女	171	6	15		20	5	1	8	3	22		6	11	61	13
10：呼吸器系の疾患	合計	655	408	4		8	220		2	10			1		1	1
	男	349	213	1		4	127		1				1		1	1
	女	306	195	3		4	93		1	10	24		7	8	84	16
11：消化器系の疾患	合計	55	1	4		1	2	1	7	1	1	31	3			3
	男	28	1	1			2	1	4		1	14	3			1
	女	27		3		1			3	1		17				2
12：皮膚及び皮下組織 の疾患	合計	344	3	3		2	1	2	304				1		1	27
	男	151	1	3				2	131						1	13
	女	193	2			2	1		173				1			14
13：筋骨格系及び結合 組織の疾患	合計	358	12	10		6	4	1		73			222		2	28
	男	137	2	5		4	2	1					110			13
	女	221	10	5		2	2			73			112		2	15
14：腎尿路生殖器系の 疾患	合計	505								505			250	1	5	30
	男												132			16
	女	505								505			118	1	5	14
15：妊娠、分娩及び産 じょく（褥）	合計	69				69										
	男	40				40										
	女	29				29										
16：周産期に発生した 病態	合計	20	1			2	5		1	2	5		3	1		
	男	13	1			1	5		1		5					
	女	7				1				2			3	1		
17：先天奇形、変形及 び染色体異常	合計	126	16	31	1	13	11	14		1	21		8	3	3	4
	男	65	3	18		9	6	7			8		7	2	3	2
	女	61	13	13	1	4	5	7		1	13		1	1		2
18：症状、徴候及び異常臨 床所見・異常検査所見 で他に分類されないもの	合計	639	15	11	5	7	3	61	472	8	10	21	2	9	2	13
	男	290	8	4	2	3	2	36	198		7	13	1	8	2	6
	女	349	7	7	3	4	1	25	274	8	3	8	1	1		7
19：損傷、中毒及びそ の他の外因の影響	合計	181	2	143			2	4	24	3			1	2	2	8
	男	119	1	98			2	1	14				1	2	1	4
	女	62	1	45				3	10	3	1	4		1	1	4
20：傷病及び死亡の外 因	合計	32		1		2									29	
	男	12		1		1									10	
	女	20				1									19	
21：健康状態に影響を 及ぼす要因及び保 健サービスの利用	合計	12													12	
	男	6													6	
	女	6													6	
22：特殊目的用コード	合計	2													2	
	男	1													1	
	女	1													1	

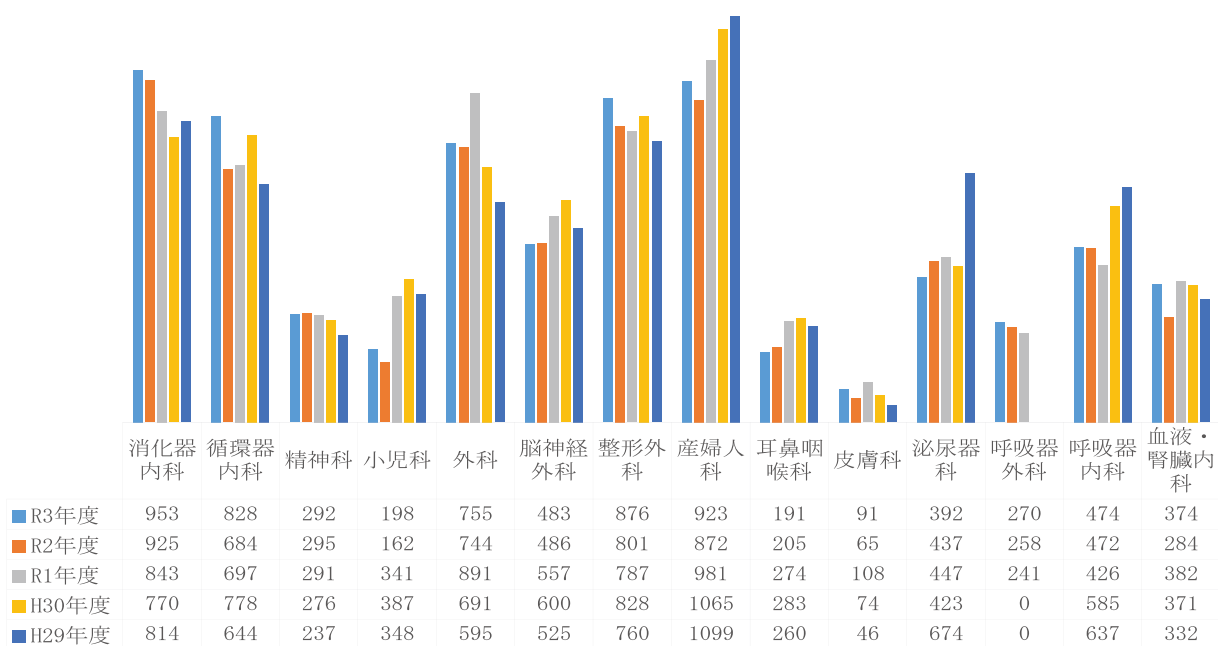
5. 性別・年齢階層別延退院患者数



6. 年齢階層別延退院患者数（死亡数・剖検数）



7. 診療科別延退院患者数推移



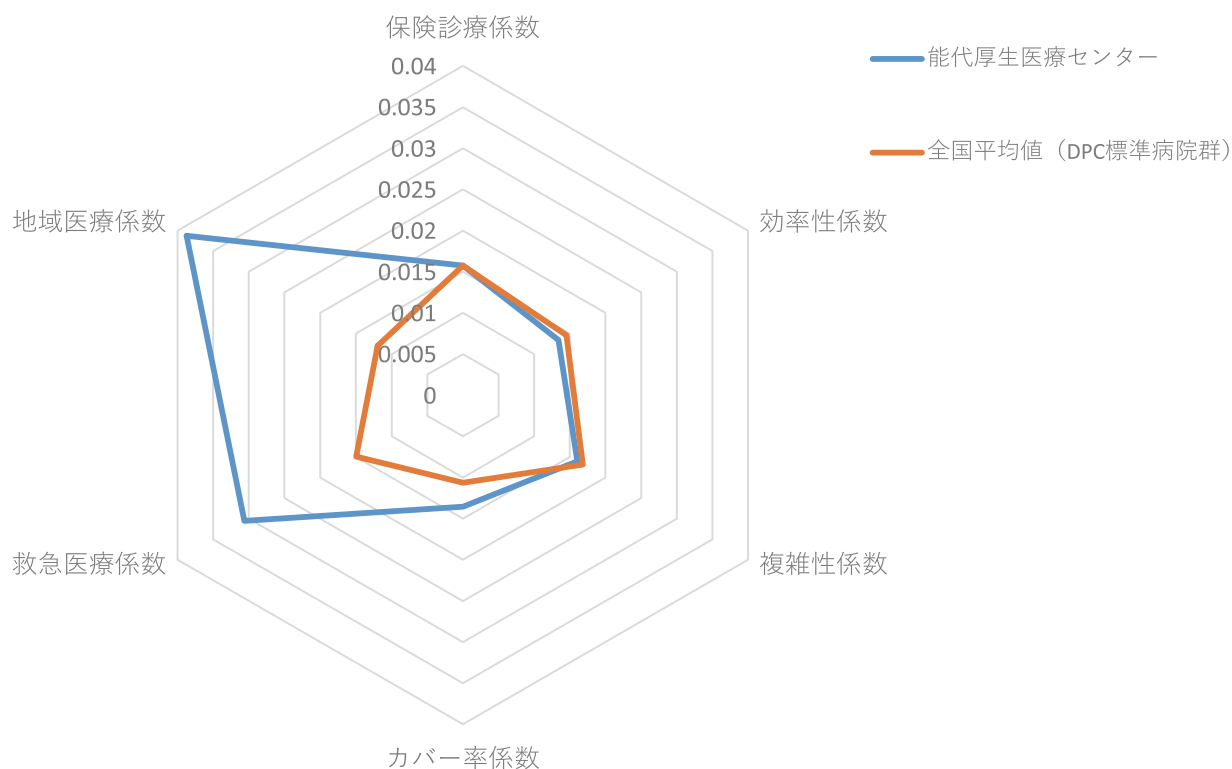
D P C 医療機関別係数

1. 令和3年度D P C 医療機関別係数：1.4475

2. 令和3年度D P C 医療機関別係数内訳

- 1) 基 礎 係 数：1.4040 ※D P C 標準病院群の診療機能を評価した係数
- 2) 機能評価係数Ⅰ：0.27900 ※施設基準の取得状況により設定される係数
- 3) 機能評価係数Ⅱ：0.12810

3. 令和3年度機能評価係数Ⅱの内訳



	保険診療係数	効率性係数	複雑性係数	カバー率係数	救急医療係数	地域医療係数
能代厚生医療センター	0.01575	0.01338	0.01606	0.01356	0.03059	0.03873
全国平均値 (DPC標準病院群)	0.01571	0.01451	0.01684	0.01067	0.01496	0.01195

* 令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で機能評価係数Ⅱは据え置き

各係数の説明

保険診療係数：D P C 対象病院における、適切なD P C データの提出などを評価

効率性係数：各医療機関における在院日数短縮の努力を評価

複雑性係数：1入院あたりの医療資源投入の観点から見た患者構成への評価

カバー率係数：様々な疾患に対応できる総合的な耐性についての評価

救急医療係数：救急医療（緊急入院）の対象となる患者治療に要する資源投入の解離を評価

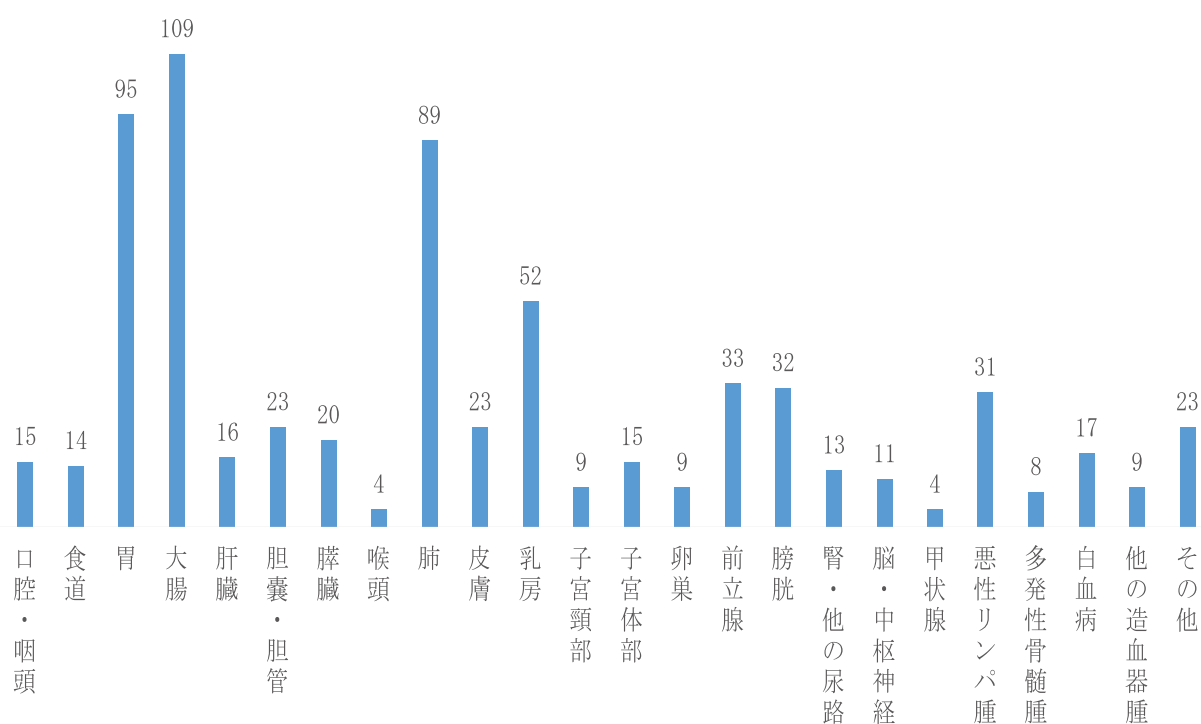
地域医療係数：地域医療への貢献を評価

院内がん登録

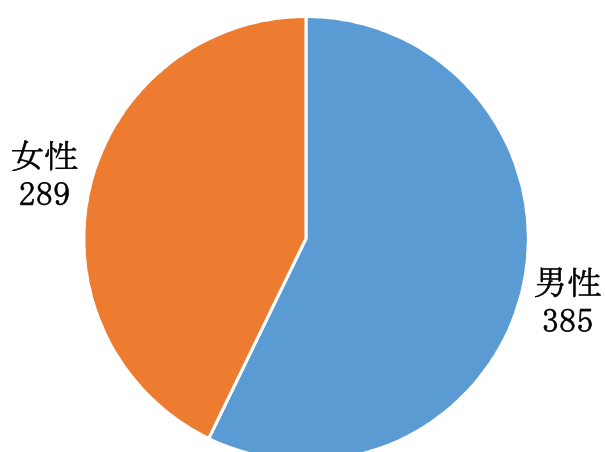
- ・「がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 標準登録様式 2016年版」に基づき登録・集計した。
- ・部位及び組織診断コードについては I C D - O - 3 (international classification of Diseases for Oncology, Third Edition) により分類した。
- ・1腫瘍1登録で、入院・外来共通登録対象とした。
- ・登録にあたってはレセプト病名及びD P C病名から登録候補を抽出した。
- ・登録・集計は、院内がん登録システム (Hos-CanR Next) にて行った。
- ・2021年が診断年となるもので集計した。
(自施設診断：診断日、他施設診断：当院への初診日)
- ・部位分類は国立がん研究センターの院内がん登録調査「部位分類コード対応」に基づき分類した。

1. 部位別登録件数
2. 性別登録件数
3. 地域別登録件数
4. 年齢階層別登録件数
5. 部位別・性別登録件数 (上位10部位)
6. 主要5部位性別登録件数
7. 主要5部位年齢階層別登録件数
8. 主要5部位組織別登録件数

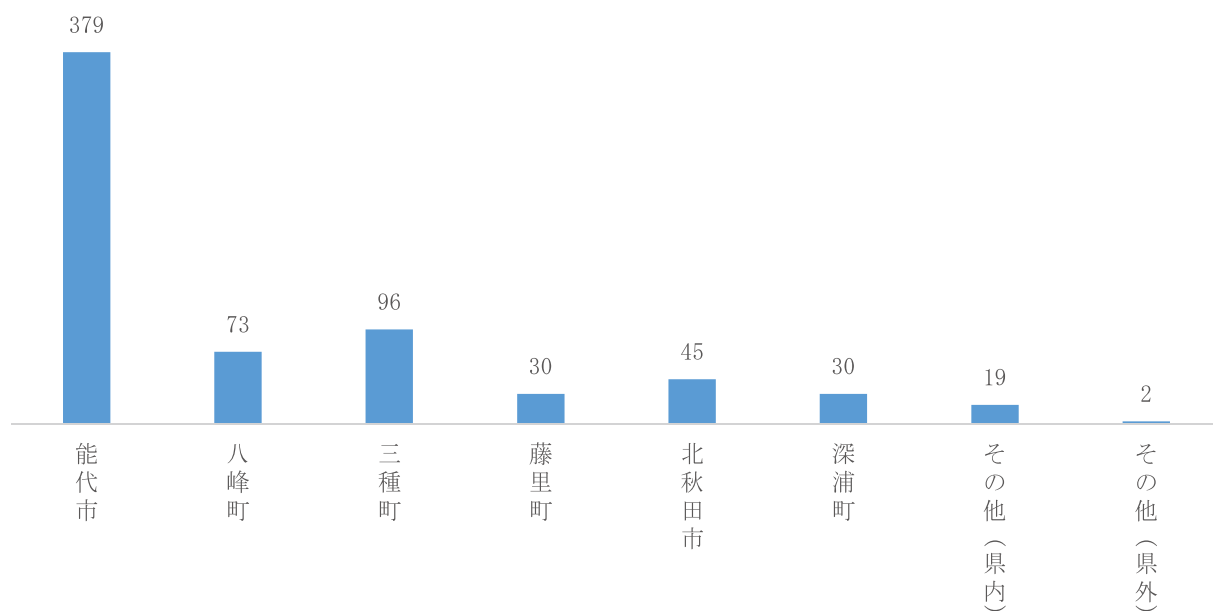
1. 部位別登録件数



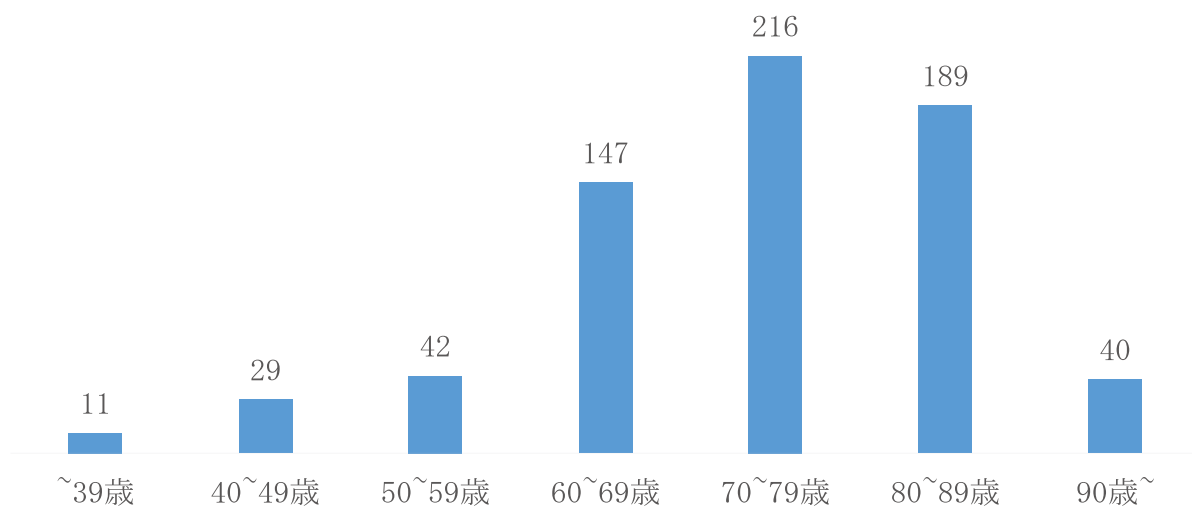
2. 性別登録件数



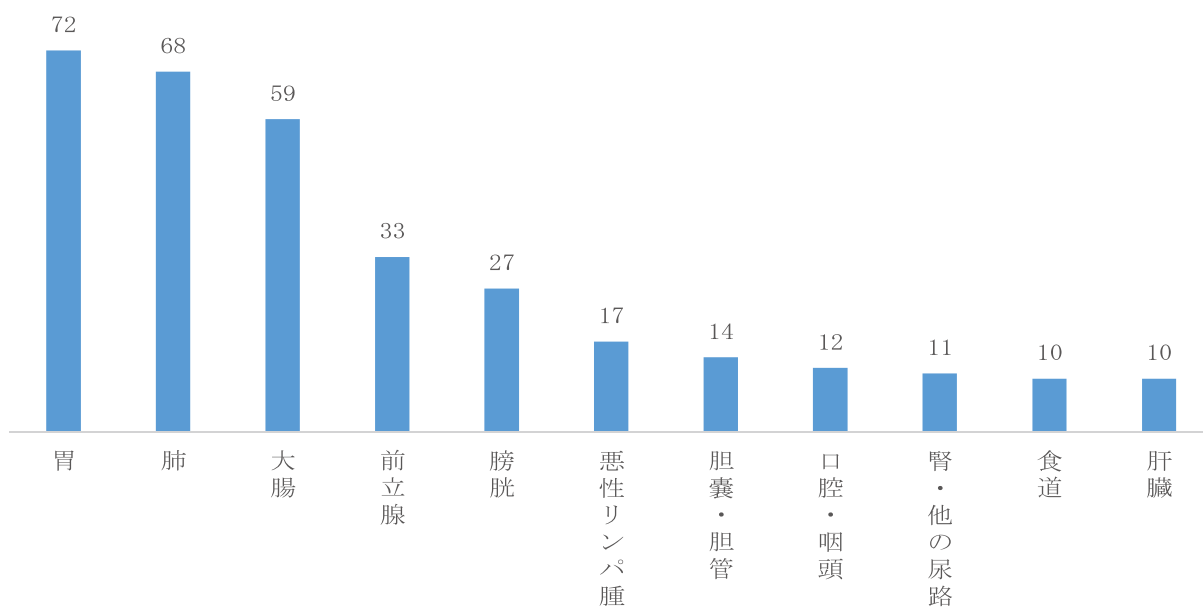
3. 地域別登録件数



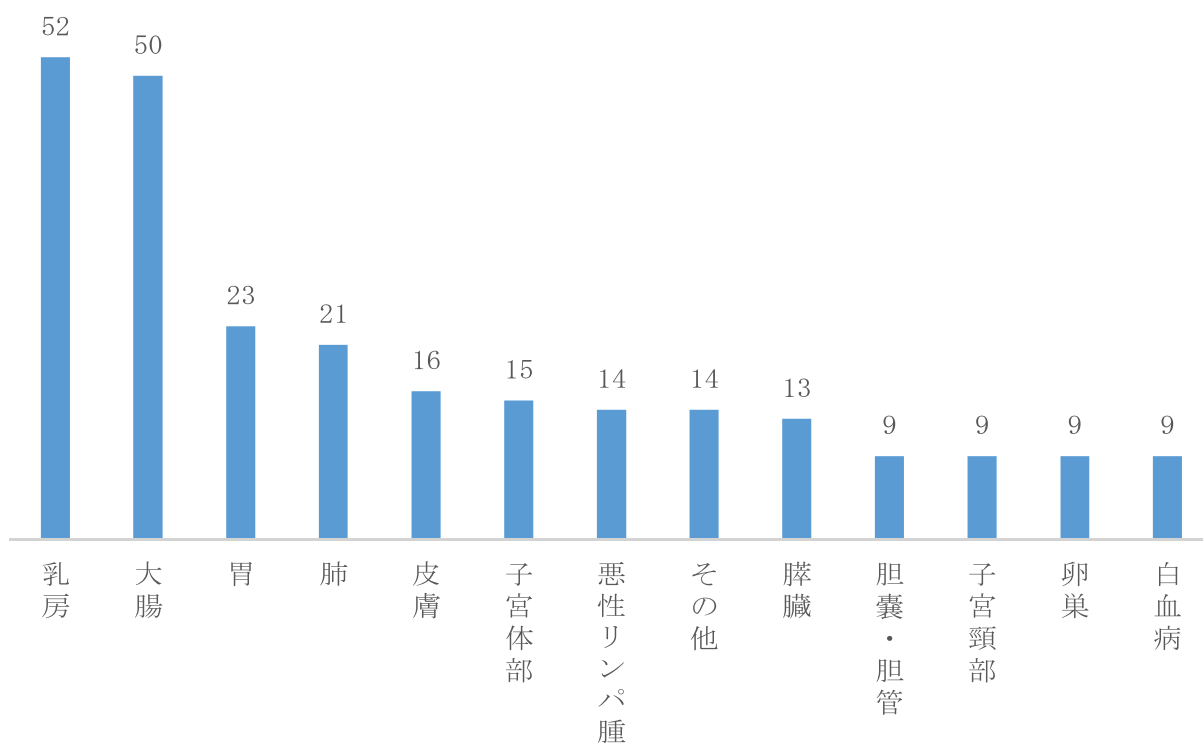
4. 年齢階層別登録件数



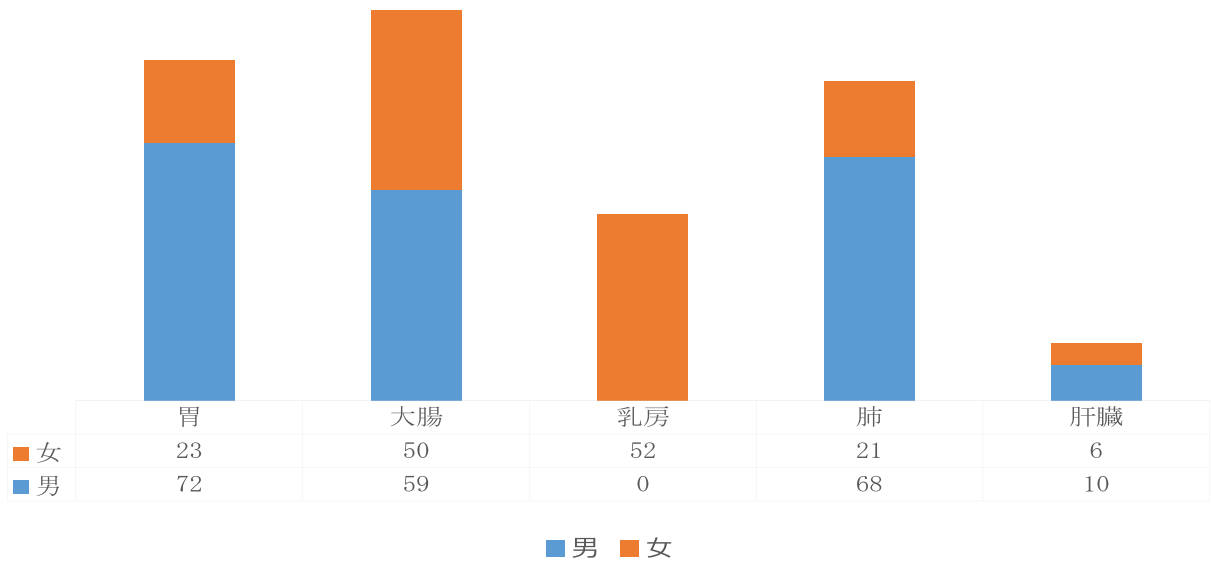
5. 部位別・性別登録件数（男性） 上位10部位



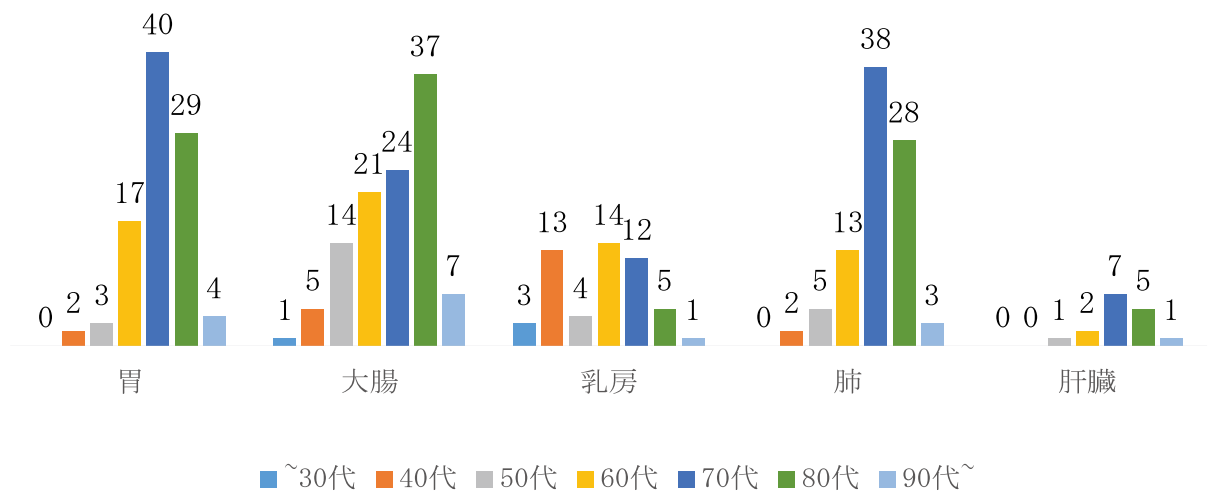
5. 部位別・性別登録件数（女性） 上位10部位



6. 主要5部位性別登録件数



7. 主要5部位年齢階層別登録件数



8. 主要5部位組織別登録件数

局在名称	組織コード	組織診断名	男性	女性	計
胃	8211／3	管状腺癌	46	14	60
	8140／3	腺癌	23	6	29
	8480／3	粘液腺癌	1		1
	8490／3	印環細胞癌		2	2
	8000／3	新生物、悪性		1	1
	8936／3	胃腸管間質腫瘍、悪性	2		2
大腸	8211／3	管状腺癌	31	23	54
	8140／3	腺癌	14	11	25
	8140／2	上皮内腺癌	12	9	21
	8480／3	粘液腺癌	1	1	2
	8000／3	新生物、悪性	1	1	2
	8490／3	印環細胞癌		1	1
	8211／2	上皮内管状腺癌		3	3
	8480／2	上皮内粘液腺癌		1	1
乳房	8500／3	浸潤性導管癌		41	41
	8500／2	導管内癌、日浸潤性		7	7
	8000／3	新生物、悪性		3	3
	8480／3	粘液癌		1	1
肺	8140／3	腺癌	17	7	24
	8070／3	扁平上皮癌	21	3	24
	8041／3	小細胞癌	6	3	9
	8550／3	腺房型腺癌		1	1
	8260／3	乳頭状腺癌	11	4	15
	8253／3	細気管支肺胞上皮癌、粘液性		2	2
	8000／3	新生物、悪性	6	1	7
	8072／3	非角化型扁平上皮癌	2		2
	8230／3	充実型腺癌	3		3
	8250／3	置換型腺癌	1		1
	8480／3	コロイド腺癌	1		1
肝臓	8170／3	肝細胞癌	9	4	13
	8160／3	肝内胆管癌	1	1	2
	8000／3	新生物、悪性		1	1

診

療

科

紹

介

血液・腎臓内科 リウマチ科

文責 波多野善明

【スタッフ紹介】

2021年4月～2022年3月の担当

役 職	医師氏名	資 格	専 門
副 院 長	波多野善明	日本内科学会 総合内科専門医 日本内科学会 内科専門医 日本血液学会 血液専門医	血液内科
診療部長	藤島 直仁	日本内科学会 総合内科専門医 日本内科学会 内科専門医 日本血液学会 血液専門医 日本輸血・細胞治療学会 認定医 日本造血細胞移植学会 造血細胞移植認定医	血液内科 輸血医学
科 長	伊藤 貢	日本内科学会 内科専門医 日本血液学会 血液専門医	血液内科
医 員	戸沢 風	日本内科学会 内科専門医	血液内科
医 員	高橋 照子		血液内科

【診療科紹介】

当科は血液疾患、腎疾患、膠原病を主に担当している。現在の常勤医は血液内科を専門としている。血液専門医が複数所属する秋田県北部で唯一の医療機関であり、白血病、リンパ腫、骨髄腫などの血液がん、再生不良貧血や特発性血小板減少症など骨髄不全症といった多様な血液疾患を診療している。秋田県の医育機関である秋田大学医学部と連携し血液・腎臓・膠原病内科学講座から非常勤医師の派遣応援を受け、毎週月曜日と木曜日の腎臓内科・膠原病専門外来、毎週金曜日の血液専門外来を開設している。

【診療実績】

2021年4月から2022年3月における入院患者の主な疾患名を示す。血液がん、腎疾患、膠原病・自己免疫疾患および総合診療的な内科系疾患を診療している。

※2019年4月～2022年3月データ

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	11,226	8,604	9,203
《1日平均》	30.8	23.6	25.2
外来患者数	11,179	10,739	10,194
《1日平均》	46.8	44.2	42.0
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別 ※一般病棟のみ			
非ホジキンリンパ腫	89	48	103
骨髄異形成症候群	29	20	34
多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	25	24	13
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	23	9	10
肺炎等	21	14	19
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	17	10	17
ネフローゼ症候群	12	8	—
急性白血病	11	12	32
体温異常	10	3	3
慢性白血病、骨髄増殖性疾患	9	—	—
腎臓又は尿路の感染症			12

【学会発表、論文、講演、その他発表、研修会など】

《学会発表》

- ①尿路感染が原因の高アンモニア血症で意識障害をきたした1例

中川健治、高橋照子、伊藤貢、藤島直仁

第225回日本内科学会東北地方会、2022年2月19日Web

《論文・執筆》

- ①藤島直仁. 網状赤血球著減を伴う正球性貧血. *Medicina* 2021; 58: 2124-2128.
 ②藤島直仁. 赤血球系疾患 赤芽球癆. 専門医のための血液病学 (2022年3月、医学書院).
 ③藤島直仁. 赤芽球癆. 今日の治療指針2022 (2022年1月、医学書院).

【学 会 活 動】

波多野善明：日本内科学会認定医制度教育関連病院 教育責任者

日本内科学会 指導医

日本血液学会 指導医

藤島 直仁：日本内科学会認定医制度教育関連病院 教育責任者

日本内科学会 指導医

日本血液学会 指導医、評議員、問題作成委員

日本輸血・細胞治療学会 評議員、出版活動委員、I & A視察員

伊藤 貢：日本血内科学会 指導医

日本血液学会 指導医

【地域における活動】

波多野善明：秋田県厚生連臨床研修協議会 副会長

秋田県臨床研修協議会 委員

日本骨髓バンク 調整医師

藤島 直仁：秋田県山本地域保健医療福祉協議会 専門委員

秋田県合同輸血療法委員会 世話人

秋田大学医学部 臨床准教授

日本骨髓バンク 調整医師

【ま と め】

令和3年（2021年度）は、2022年2月19日に開催された第225回日本内科学会東北地方会で初期研修医の中川健治が発表した演題が若手奨励賞に輝いた。これからも血液内科領域を主軸として県北地域における内科診療の充実に努めるとともに研修医や専攻医の教育・指導に全力で励みたい。

循環器内科

文責 木村 州孝

秋田大学循環器内科より派遣された医師5名で外来・入院診療を行っております。

午前の外来診療については、秋田大学第循環器内科より応援医師に来ていただき3診体制で行い、午後は主に検査・手術を予定しています。

入院診療で扱う疾患としては、心筋梗塞、狭心症、洞不全症候群、房室ブロック、心房粗細動、心室頻拍、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心筋炎、末梢動脈病変、深部静脈血栓症が主にあげられます。

令和2年度より急性冠症候群に対する緊急PCIを施行させていただいております。

令和3年4月1日から令和4年3月31日までの主な検査・手術件数は以下になっております。

【診療実績】

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	13,885	12,134	13,930
《1日平均》	37.9	33.2	38.2
外来患者数	22,883	20,574	17,707
《1日平均》	95.7	84.7	72.9
ペースメーカー新規植え込み	21	22	35
ペースメーカー電池交換	30	24	24
心臓カテーテル検査	197	164	225
新規入院患者数 主な内訳 MDC6別 ※一般病棟のみ			
心不全	172	146	185
狭心症、慢性虚血性心疾患	155	154	189
徐脈性不整脈	59	50	52
閉塞性動脈疾患	43	32	28
頻脈性不整脈	43	50	84
肺炎等	34	21	23
弁膜症（連合弁膜症を含む。）	32	27	39
誤嚥性肺炎	12	12	16
解離性大動脈瘤	9	8	6
急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	8	37	42

【主な検査・手術件数】

心臓カテーテル検査	224件	経食道エコー	9件
冠動脈インターベンション	119件	心筋シンチ	32件
内 緊急PCI	46件	冠動脈CT	154件
待機PCI	73件	心臓MRI	19件
ペースメーカー植込み術	35件	PWV／ABI	1148件
ジェネレーター交換術	23件		
末梢血管形成術（PPⅠ）	22件		
IVCフィルター	6件		
心臓超音波検査	4161件		

消化器内科

文責 藤島 裕耕

【スタッフ紹介】

診療部長：藤島 裕耕

科 員：岡本 卓也

科 員：青川 真樹

科 員：安達 香帆（～令和3年9月）

科 員：久米井 智（令和3年10月～）

【診療実績】

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	10,124	12,020	11,310
《1日平均》	27.7	32.9	31.0
外来患者数	12,527	12,645	12,402
《1日平均》	52.4	52.0	51.0
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別 ※一般病棟のみ			
小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	154	36	16
胆管（肝内外）結石、胆管炎	80	129	98
ヘルニアの記載のない腸閉塞	42	24	18
胃の悪性腫瘍	40	72	69
胆嚢水腫、胆嚢炎等	38	32	26
ウイルス性腸炎	33	26	23
胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	29	31	41
食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	29	32	23
膵臓、脾臓の腫瘍	27	22	25
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	24	29	18
胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	—	—	33
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	—	—	33
肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	—	—	22
穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	—	—	21
主な手術（入院）			
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	148	27	8
内視鏡的胆道ステント留置術	47	50	61
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	34	47	43
内視鏡的消化管止血術	31	49	51
内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	24	47	37
内視鏡的胆道結石除去術（胆道碎石術を伴うもの）	17	15	10
内視鏡的乳頭切開術（胆道碎石術を伴う）	14	15	14
下部消化管ステント留置術	10	11	6
内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	10	13	7
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	9	7	7
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（その他のもの）	—	—	16

《学会発表》

2021年7月31日 能代市・北秋田市学術講演会 座長 藤島裕耕

2022年2月16日 第6回秋田HCC治療カンファレンス ディスカッション 藤島裕耕

《論文・執筆》

佐藤有里子, 藤島裕耕 他. 長期間の腹痛が先行した成人のIgA血管炎の1例. 皮膚科の臨床. 2021, 63巻, 8号, p.1260-1264

呼吸器外科

文責 松崎 郁夫

【スタッフ紹介】

診療部長／ 松崎 郁夫
科 員／ 4月～ 小林 未来
10月～ 高橋 秀悟

【診療実績】

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	4,348	3,895	4,248
《1日平均》	11.9	10.7	11.6
外来患者数	1,660	2,581	2,504
《1日平均》	6.9	10.6	10.3
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別 ※一般病棟のみ			
肺の悪性腫瘍	156	179	149
気胸	12	11	22
肺炎等	12	8	9
間質性肺炎	8	1	12
播種性血管内凝固症候群	5	—	4
肺・胸部気管・気管支損傷	5	12	8
縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	4	2	4
誤嚥性肺炎	3	4	10
呼吸器系の良性腫瘍	3	8	3
縦隔の良性腫瘍	3	—	1
肺・縦隔の感染、膿瘍形成	—	—	7
胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	—	—	7
胸水、胸膜の疾患（その他）	—	—	7
主な手術（入院）	—	7	4
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）	40	37	28
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	7	6	15
胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））	7	4	5
胸腔鏡下肺切除術（その他）	4	—	4
胸腔鏡下試験切除術	3	6	6
気管切開術	3	2	2
胸腔鏡下良性胸壁腫瘍手術	2	—	2
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	1	—	—
肺縫縮術	1	—	1
肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）	1	1	—
胸腔鏡下肺縫縮術	—	—	5
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	—	—	5
肺・胸部気管・気管支損傷	—	156	179
縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	—	12	11
誤嚥性肺炎	—	12	8

呼吸器内科

文責 金田 浩人

【スタッフ紹介】

診療部長／I C D 金田 浩人
科 員／4月～ 佐々木奈保
10月～ 泉谷 有可

【診療実績】

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	10,889	9,260	9,203
《1日平均》	29.8	25.4	25.2
外来患者数	13,362	10,739	10,194
《1日平均》	55.9	44.2	42.0
新規入院患者数 主な内訳 M D C 6 別 ※一般病棟のみ			
肺の悪性腫瘍	116	156	196
肺炎等	82	68	57
間質性肺炎	49	34	35
喘息	27	8	4
慢性閉塞性肺疾患	25	19	11
胸水、胸膜の疾患（その他）	14	16	11
肺・縦隔の感染、膿瘍形成	14	8	5
誤嚥性肺炎	11	35	39
体温異常	9	—	—
体液量減少症	8	3	2
その他の感染症（真菌を除く。）	—	—	27

精神科

文責 齋藤 英知

【スタッフ紹介】

精神科外来 計9名

医師4名、看護師1名、外来クラーク2名、事務2名

診療部長：齋藤 英知（精神保健指定医、専門医、指導医、精神保健判定医）

科 長：山田 篤（精神保健指定医、専門医、指導医）

医 長：佐藤 優真（精神保健指定医）

科 員：工藤 瑞樹

【部門紹介】

主な疾患として統合失調症、気分障害（躁うつ病など）、アルコール依存症、認知症などの治療をおこなっています。また能代・北秋田地域の精神科救急医療を担っており、夜間休日の緊急入院にも対応しています。退院後のスムーズな地域移行を目指し、入院診療、病棟作業療法、精神保健福祉士による退院 支援、精神科デイケアとの連携による継続的な支援を行っています。

【入院診療】

病状安定までの保護及び安静のため病棟は閉鎖病棟となっております。うつ病、躁うつ病、統合失調症、行動・心理症状を伴った認知症、神経症などの患者さんが入院治療を行っております。

精神科薬物治療法と入院精神療法が中心ですが、薬物難治例や精神症状により食事も取れない状態の方など適応のある患者さんに対しては麻酔科医の協力のもと、修正型電気けいれん療法(m-ECT)を行っております。病状の安定化、対人交流・社会性の改善、日常生活の援助などを目的としてH23年11月より病棟作業療法が開始となりました。

【その他の治療】

- ・コンサルテーション・リエゾン精神医学
- ・緩和ケアにおける精神的なケア
- ・精神科救急（能代・北秋田精神科救急医療圏拠点病院、身体合併症対応病院）
- ・クロザピンによる治療（血液腎臓内科医などの協力による）
- ・認知症疾患医療センター

【臨床心理士による心理面接・心理検査】

医師からの依頼に応じて、臨床心理士が心理面接、心理検査を実施しています。当科における心理面接、心理検査は精神科医師による治療を受けている患者が前提であり、検査の目的や面接目標、経過について、主治医や外来・病棟スタッフと情報を共有しながら行っています。最近は、小児科や神経内科からの依頼で心理検査を実施する例も増えています。

【診療実績：R3／4～R4／3】

	1日平均人数	備 考
外来患者人数	95.2名	※稼働日数のほとんどが1日100名以上。多い日は1日150名を超える。

精神科デイケア

文責 齋藤 英知

【スタッフ紹介】

精神科デイケア	計4名
専従看護師	1名
専従作業療法士	1名
専従臨床心理技術者	1名
専任臨床心理技術者	1名

【部門紹介】

H22年12月から精神科デイケア（小規模）、H23年4月から精神科デイケア（大規模）として開設。毎週月曜日から金曜日（土日・祝日を除く）まで活動しています。『今よりもっと、自分らしく、いきいきと生活できる』ことを目的とし、安心して病気や対人関係などについて相談できる環境の提供、手工芸や季節の行事などのレクリエーションを通した余暇活動の提供、料理や体力作りなどの生活技能訓練、精神疾患や障害に配慮した就労支援活動を行っています。

【稼働実績：R3／4～R4／3】

	1日平均人数	備 考
デイケア参加人数	8.9名	※新型コロナウイルス流行に伴い、1日の参加者を12名に制限している

【学会発表、論文、その他発表、講演実績、研修会など】

《講演会・研修会》

名 称	テ ー マ	講 師	開 催 日	会 場	事務局
新人教育 メンタル研修	①マシュマロ・チャレンジ (コミュニケーションゲーム)	齋藤 知裕	R3年4月12日	4 B	副師長会
	②自分の心のバランスを知ろう	齋藤 知裕	R3年5月14日	4 B	副師長会
	③メンタルヘルス	齋藤 知裕	R3年6月18日	4 B	副師長会
	④クレーム対応について	澤田 尚子	R3年7月9日	4 B	副師長会
	⑥-1、⑥-2 コラージュ	澤田 尚子	R3年9月10日 R3年9月13日	4 B	副師長会
	⑦コミュニケーション (アサーション)	澤田 尚子	R3年11月12日	4 B	副師長会
2年目 フォローアップ研修	①コロナ渦のメンタルヘルス について	澤田 尚子	R3年7月20日 R3年7月21日	4 B	継続教育 委員会
	②リラクゼーション技法を体 験しよう	澤田 尚子	R3年9月15日 R3年9月17日	4 B	継続教育 委員会
	③メタ認知について	齋藤 知裕	R3年11月19日 R3年11月21日	4 B	継続教育 委員会
3年目 フォローアップ研修	①就職3年目について	澤田 尚子	R3年8月18日 R3年8月20日	4 B	継続教育 委員会
	②コミュニケーションについて ～あなたの得意な感覚はどれ?～	澤田 尚子	R3年10月13日 R3年10月15日	4 B	継続教育 委員会
看護補助者研修	コロナ渦のメンタルヘルスに ついて	澤田 尚子	R3年8月25日	4 B	
湖東厚生病院 職員メンタルヘルス研修	コロナ渦のメンタルヘルスに ついて	澤田 尚子	R3年10月25日	湖 東 厚 生 病 院	湖 東 厚 生 病 院

《出前講座など 地域における活動》

題 名	演 者 名	開 催 日	開 始 時 間	会 場	依 頼 者
保健所相談	医師 齋藤 英知	毎月 1 回	14時～15時	保 健 所	保 健 所

小 児 科

【スタッフ紹介】

科 長 近野 勇樹
科 員 小林 壮（令和3年4月～9月）
山本 達彦（令和3年10月～）

【診療実績】

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	1,858	1,058	1,337
《1日平均》	5.1	2.9	3.7
外来患者数	7,871	6,005	6,511
《1日平均》	32.9	24.7	26.8
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別 ※一般病棟のみ			
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	52	44	68
ウイルス性腸炎	48	14	19
上気道炎	47	17	22
急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	46	3	22
喘息	18	4	7
熱性けいれん	17	8	9
てんかん	16	2	4
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	14	—	—
その他の感染症（真菌を除く。）	9	8	5
腎臓または尿路の感染症	8	4	3

外科

文責 西成 悠

【スタッフ紹介】

役 職	医師氏名	資 格	専 門
科 長	西成 悠	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 マンモグラフィ読影認定医	消化器外科（胃） 内視鏡外科 一般外科 胃癌化学療法
科 長	石橋 正久	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 マンモグラフィ読影認定医	消化器外科 内視鏡外科 一般外科 化学療法
科 員	棚橋 洋太	日本外科学会 専門医	消化器外科 内視鏡外科 一般外科 消化器癌化学療法

【診療科紹介】

2021年度の当科のスタッフは、西成悠、石橋正久、棚橋洋太の3人体制で診療を行いました。今年度も手術・化学療法をはじめ前年度と同等の質の高い集学的治療を提供しております。感染症は変わらず蔓延をしていたものの昨年と比較し病院機能も落ち着き始め、当科の手術件数は昨年よりやや減少しましたがほぼ例年通りに落ち着いた傾向に至りました。

今年度の総手術件数は399例で、腹部全身麻酔329例のうち、腹腔鏡下手術が295例で89.6%を占め、鏡視下手術率は例年通り高い水準で維持しております。全胃癌手術は例年よりも高齢者・進行癌での発見が多く14%と低下をしましたが、大腸癌手術自体に関して98%は鏡視下で維持をしておりました。緊急手術は例年よりもかなり減少に転じており46例ではありましたが、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、ヘルニア嵌頓およびイレウス、消化管穿孔は、初回は全症例鏡視下で開始し、腹腔鏡下手術の完遂率は99.3%と非常に高い水準を維持しました。大腸、胆嚢症例、GISTに対して引き続き単孔式・Reduced Portでの腹腔鏡下手術も施行し、例年に引き続き肝胆膵脾領域においては岩手医科大学外科学講座の協力のもと、腹腔鏡下肝切除、十二指腸温存膵頭十二指腸切除、膵体尾部切除を施行することにより、根治手術の安定性に関しましても満足いく結果が得られております。昨年同様病院受診の遅延に伴い局所進行癌や切除不能進行癌が胃癌・大腸癌共に増加傾向にあり、若年者に対して術前化学療法による腫瘍縮小を試み、より根治度の高い手術を提供することが可能となりました。内痔核に関して、引き続き内痔核硬化療法剤ジオン（ALTA）注手術を施行しております。元来の痔核結紮切除術が必要な症例もあるものの、切除よりも疼痛の軽減がある硬化療法で治療が可能になり、早期退院が可能になりました。

【診療実績】

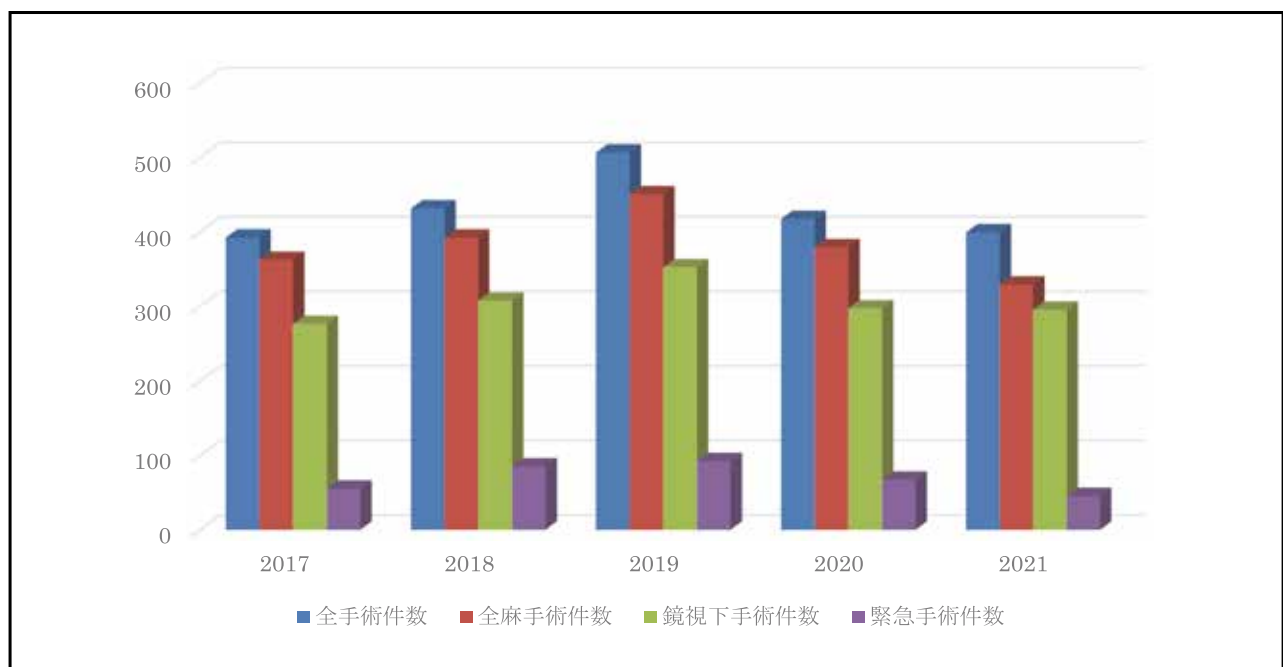
患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	10,062	9,529	8,019
《1日平均》	27.6	26.1	22.0
外来患者数	7,927	7,940	7,802
《1日平均》	33.2	32.7	32.1
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別 ※一般病棟のみ			
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	197	153	172
直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍	134	83	144
胃の悪性腫瘍	66	70	60
鼠径ヘルニア	57	48	53
胆嚢水腫、胆嚢炎等	54	54	46
虫垂炎	34	36	36
乳房の悪性腫瘍	32	—	23
ヘルニアの記載のない腸閉塞	30	14	13
膵臓、脾臓の腫瘍	23	13	11
痔核	17	23	8
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	—	—	12
胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	—	—	12
主な手術（入院）			
腹腔鏡下胆嚢摘出術	76	82	66
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	49	45	47
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	29	23	22
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	28	38	30
腹腔鏡下人工肛門造設術	23	20	16
腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）	21	13	11
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）	16	8	8
抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	16	2	19
腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	14	7	16
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	12	13	15
胃切除術（悪性腫瘍手術）	—	—	13
腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	16	14	7
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	7	12	13

	2017	2018	2019	2020	2021
全手術件数	392	431	506	417	399
全麻手術件数	362	392	450	379	329
鏡視下手術件数	276	307	352	297	295
緊急手術件数	55	85	92	67	46

癌種別件数

	2017	2018	2019	2020	2021
甲状腺癌	4	1	3	1	1
乳癌	35	25	15	13	18
胃癌	33	36	34	35	41
大腸・直腸癌	74	59	85	57	77
肝癌	11	10	11	12	10
胆道・膵癌	10	7	9	6	11

手術件数の推移



【学会発表、論文、その他発表、講演実績、研修会など】

《学会・研究会》

第33回日本内視鏡外科学会総会

Yutaka Nihsinari. An experience of reduced port surgery for Laparoscopic leocecal resection.

第19回日本ヘルニア学会学術集会

石橋 正久. 嵌頓ヘルニアに対する緊急手術でのメッシュ留置に関する検討.

第29回日本消化器関連学会週間

石橋 正久. 直腸癌に対する腹腔鏡手術の治療成績 開腹手術との比較検討.

第34回日本内視鏡外科学会総会

石橋 正久. 当院におけるLaparoscopic Hartmann Reversalの手術の治療成績.

第46回日本外科系連合学術集会

棚橋 洋太. O2-1 Peutz-Jeghers 症候群を背景に腸重積を発症した1例.

脳神経外科

文責 太田原康成

【スタッフ紹介】

太田原康成
南波 孝昌

【診療科紹介】

令和3年度の脳神経外科は、医師2名で診療しました。外来診療は秋田県循環器脳脊髄センターと秋田大学脳神経外科から診療応援を頂きました。

当科の特徴は、患者数に比べて医師数が少ない事です。この状況で救急対応も含めた患者さんの診断治療を維持するために、外来のスリム化に力を入れています。診断と急性期治療が終了して外来通院を要する患者さんは、かかりつけ医に紹介しています。これにより救急対応や手術も含めた急性期治療に時間をかけることが出来ます。患者さんにご家族には時間をかけた説明によりご理解頂いています。

【診療実績】

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	9,671	8,689	8,902
《1日平均》	26.5	23.8	24.4
外来患者数	9,137	4,642	4,336
《1日平均》	38.2	19.1	17.8
新規入院患者数 主な内訳 MDC6別 ※一般病棟のみ			
脳梗塞	251	217	233
頭蓋・頭蓋内損傷	68	63	46
非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	62	50	69
てんかん	41	41	23
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	17	17	16
一過性脳虚血発作	12	13	10
脳腫瘍	10	7	11
肺炎等	7	4	4
誤嚥性肺炎	6	3	3
脳卒中の続発症	5	1	2
主な手術（入院）			
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	20	16	22
脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	7	7	7
水頭症手術（シャント手術）	3	—	2
頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜下）	2	9	—
穿頭脳室ドレナージ術	2	2	4
頭蓋骨形成手術（頭蓋骨のみ）	1	1	2
頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	1	1	1
頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜外）	1	1	—
試験開頭術	1	1	—
減圧開頭術（その他）	—	—	2
脳動静脈奇形摘出術	—	—	—
脳動脈瘤頸部クリッピング（2箇所以上）	—	1	—
頭蓋内血腫除去術（開頭）（脳内）	—	—	4

整形外科

文責 佐藤 毅

【スタッフ紹介】

役 職	医師氏名	資 格
整形外科 診療部長	佐藤 毅	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本自己血輸血学会自己血責任医師
リハビリテーション科 診療部長	久保田 均	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医
整形外科 科長	伊藤 博紀	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本リウマチ学会専門医
整形外科 科長	佐々木 寛	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病専門医
整形外科 医長	高橋 靖博	日本整形外科学会専門医
整形外科 医長	阿部 和伸	日本整形外科学会専門医

【診療科紹介】

整形外科は頭部以外の疾患、つまり部位では四肢（上肢は肩～手指・下肢は股関節～足趾）・体幹（脊椎や骨盤）、疾患の内訳は外傷・炎症性疾患・先天性疾患から変性疾患まで、年齢層では乳児から高齢者までを幅広く扱う科です。

低侵襲手術として、手関節鏡の使用、小切開による脊椎固定術、内視鏡や顕微鏡を用いた腰椎椎間板ヘルニア手術などを行っています。より低侵襲に手術を行うことで、患者さんの早期退院や早期社会復帰が可能となるように努力しています。さらに、椎間板ヘルニアに対する椎間板酵素注入療法（注射によるヘルニア溶解治療、商品名：ヘルニコア）を導入し、治療の選択肢を広げています。そして、骨粗鬆症性椎体骨折による痛みを早期に改善できる治療として、経皮的椎体形成術（Balloon kyphoplasty）も開始しています。また、関節周囲の粉碎骨折や開放骨折の治療にはイリザロフ創外固定を導入しながら、常に患者さんの生活の質（QOL）の改善を考えて治療にあたっています。大腿骨頸部骨折地域連携パスや骨粗鬆症地域連携を推進し、回復期病院や地域診療所との連携強化を図っています。

毎朝、医師全員で、前日の整形外科外来受診患者、整形外科入院患者、整形外科関連の救急外来患者の単純X線写真・MRI・CTなどを見直し、診断や治療の統一化を図っています。また、月曜日の朝には、手術前カンファレンスを行い、同週に予定されている手術症例について、検討しています。

【診療実績】

(令和3年4月～令和4年3月)

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	23,418	22,356	25,050
《1日平均》	64.2	61.2	68.6
外来患者数	24,354	21,521	22,741
《1日平均》	101.9	88.6	93.6
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別 ※一般病棟のみ			
股関節・大腿近位の骨折	104	88	107
胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	70	53	57
脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）腰部骨盤、不安定椎	68	77	59
椎間板変性、ヘルニア	44	46	62
前腕の骨折	40	26	20
脊椎骨粗鬆症	34	27	57
足関節・足部の骨折・脱臼	24	24	34
股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	22	15	22
肩関節周辺の骨折・脱臼	19	15	21
膝関節周辺の骨折・脱臼	18	22	25
膝関節症（変形性を含む。）			30
主な手術（入院）			
骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	82	73	96
骨折観血的手術 前腕、下腿、手舟状骨	37	31	36
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）椎弓形成	28	63	38
人工骨頭挿入術 肩、股	27	14	27
人工関節置換術 肩、股、膝	27	21	41
骨折観血的手術 鎖骨、膝蓋骨、手（舟状骨を除く。）、足、指（手、足）その他	17	11	13
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）後方椎体固定	14	22	25
骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他）	14	31	26
関節内骨折観血的手術 胸鎖、手、足	14	22	22
椎間板摘出術（後方摘出術）	14	8	3
内視鏡下椎間板摘出（切除）術（後方摘出術）			23
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）後方椎体固定			18

【手術実績】

外来・入院合わせて639件

主な手術の内訳

(令和2年4月～令和3年3月)

		手術総数 694件
脊椎手術 (117件)	代表的な手術	
	椎間板ヘルニア摘出術・開窓術	56件
	脊椎固定術	40件
	頸椎後方拡大術	12件
	(内視鏡下・顕微鏡下手術)	21件
上肢手術 (261件)	代表的な手術	
	骨折手術	96件
	腱縫合・神経縫合・動脈吻合など	12件
	手根管開放術 (鏡視下含む)	25件
下肢手術 (248件)	代表的な手術	8件
	骨折手術	154件
	人工関節手術	44件
	人工関節手術	20件

【学会発表】

発表日	学会名	演題名	発表者
2021年5月	第118回東北整形災害外科学会	大腿骨転子部骨折骨接合術後のインプラント周囲骨折の治療経験	佐藤 毅ほか
2021年10月	第74回秋田県整形外科学会	体幹ギプス包帯の積極的活用により骨粗鬆症性椎体骨折の治療成績は向上するか	阿部和伸ほか
2021年10月	第74回秋田県整形外科学会	手根管症候群に対する鏡視下手根管解放術の治療成績	伊藤博紀ほか

皮膚科

文責 矢島 晴美

【スタッフ紹介】

役 職	医師氏名	資 格
診療部長	矢島 晴美	日本皮膚科学会専門医
	堀江 咲織	

【診療科紹介】

当院皮膚科は、大潟村以北の秋田県北部と深浦町までの青森県日本海沿岸を診療圏とし、皮膚疾患の全般にわたって、正確な診断と個々の患者さんのQOLを重視した適切な治療を目指して診療を行っております。また、日本皮膚科学会などが推奨する診断・治療ガイドラインに準じた標準的治療を心掛けております。乳児から高齢者までの幅広い年齢の患者さんがいらっしゃいますが、近年は在宅介護を受けていたり施設に入所されている高齢の患者さんが増加しています。患者さんへの負担をより少なくし、より満足の得られる治療効果を挙げられるよう努めています。皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCナース）の佐々木伸子さんとともに、薬剤師・栄養士・作業療法士を含めた多職種のチームを編成し、外来・病棟での褥瘡や皮膚トラブルのある患者さんの治療を協力して行っています。

令和3年度は、秋田大学皮膚科医局より赴任した佐藤晴香医師との2診体制で診療しました。

【診療実績】

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	1,019	574	828
《1日平均》	2.8	1.6	2.3
外来患者数	9,672	8,511	7,275
《1日平均》	40.5	35.0	29.9
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別 ※一般病棟のみ			
带状疱疹	34	18	27
熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	15	1	5
膿皮症	14	18	23
詳細不明の損傷等	10	2	2
薬物中毒（その他の中毒）	6	2	2
湿疹、皮膚炎群	4	—	—
痒疹、蕁麻疹	4	1	—
食物アレルギー	3	2	3
2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全あり。）	2	2	1
薬疹、中毒疹	2	2	2

外来診療（R 3 年 4 月～R 4 年 3 月）		膿瘍	2
外来患者数	7,275名	血管炎	2
1 日当患者数	29.9名	带状疱疹後肉芽腫	1
		サルコイドーシス	1
入院診療（R 3 年 4 月～R 4 年 3 月）		強皮症	1
蜂窩織炎	29	外陰部壊疽性膿皮症	1
水疱性類天疱瘡	2	癬痕化結節	1
带状疱疹	28	炎症後色素沈着	1
ツツガムシ病	1	粉瘤	2
アナフィラキシーショック	11	脂肪腫	1
薬疹	3	化膿性肉芽腫	1
皮膚潰瘍	1	日光角化症	3
熱傷	8	ボーエン病	2
うつ滞性皮膚炎	1	SCC in situ	1
白血球破碎性血管炎	1	有棘細胞癌	1
COPD（レスパイト）	1	基底細胞癌	2
ボーエン病	1	乳房外パジェット病	2
有棘細胞癌	1	未分化大細胞型リンパ腫	1
基底細胞癌	1	腎癌皮膚転移	1
悪性黒色腫	1	肺癌皮膚転移	1
	計90名		
		良性腫瘍切除術	6 件
検査・手術（R 3 年 4 月～R 4 年 3 月）		線維腫	2
生検	46件	脂肪腫	1
皮膚炎	13	血管脂肪腫	1
結節性紅斑	2	化膿性肉芽腫	1
水疱性類天疱瘡	3	脂漏性角化症	1

【学会発表】

発表日	学会名	演題名	発表者
2021年 7月17日	日本皮膚科学会秋田地方会第395回例会	D P P 4阻害薬投与に生じた汗疱様類天疱瘡の1例	佐藤 晴香、 能登 舞、 小松 真人、 河野 通浩
2021年 10月2日	日本皮膚科学会秋田地方会第369回例会	播種性血管内凝固症候群と深部静脈血栓症を合併したツツガムシ症の1例	佐藤 晴香、 矢島 晴美、 梅田 有理
2022年 2月19日	日本皮膚科学会秋田地方会第367回例会	带状疱疹後肉芽腫の1例	佐藤 晴香、 矢島 晴美、 藤島 直仁

泌尿器科

文責 小峰 直樹

【スタッフ紹介】

役 職	氏 名	出 身 医 局	資 格
科 長	小峰 直樹	秋田大学	泌尿器科専門医 同指導医
医 長	伊藤 隆一	秋田大学	泌尿器科専門医 同指導医
医 員	山口 剛史	岩手医科大学	

【診療実績】

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	5,155	5,452	4,328
《1日平均》	14.1	14.9	11.9
外来患者数	22,356	23,309	22,453
《1日平均》	93.5	95.9	92.4
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別 ※一般病棟のみ			
腎臓または尿路の感染症	83	71	56
前立腺の悪性腫瘍	83	67	58
上部尿路疾患	67	85	105
膀胱腫瘍	57	54	53
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	50	49	40
下部尿路疾患	15	13	3
腎盂・尿管の悪性腫瘍	9	8	5
前立腺肥大症等	8	3	5
腎腫瘍	7	6	8
誤嚥性肺炎	7	9	7
主な手術（入院）			
経尿道的尿管ステント留置術	29	49	56
経尿道的尿路結石除去術（レーザー）	27	41	33
膀胱腫瘍摘出術	21	6	5
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	18	25	31
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（一連につき）	14	8	3
内シャント設置術	9	18	17
膀胱結石、異物摘出術 経尿道的手術	6	5	1
前立腺悪性腫瘍手術	4	3	2
連続携帯式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	3	—	—
膀胱内凝血除去術	3	—	1
腎臓または尿路の感染症	83	56	83
前立腺の悪性腫瘍	96	90	83
上部尿路疾患	149	72	67
膀胱腫瘍	48	54	57

【診療科紹介】

前年に引き続き、秋田大学泌尿器科より2名・岩手医科大学泌尿器科より1名の計3名の医師で診療を行った。

コロナ禍において、若干の手術件数の減少をみたが、引き続き大学病院・周辺医療機関とも連携し地域の患者様に、より良い医療を提供できるよう診療を行っていく。

【スタッフ紹介】

副院長 松井 俊彦 診療部長 柴田 悟史
医 長 今野めぐみ 医 員 坂口 太一

【診療科紹介】

当院産婦人科は、能代山本地区で唯一の分娩可能施設である。北秋田市、男鹿地域、青森県深浦町からの分娩希望の患者もおり、里帰り分娩希望の患者も多い。当院での対応が不可能な妊婦（妊娠34週未満あるいは胎児の予想体重が1800g未満の場合）に関しては、秋田赤十字病院あるいは秋田大学附属病院への母体搬送の方針としている。また婦人科患者（子宮および卵巣腫瘍患者など）に対しての治療は、手術、化学療法、緩和ケアなど多岐にわたっている。広汎子宮全摘術、リンパ節郭清術など手間のかかる悪性腫瘍手術は秋田大学病院に依頼しているが、手術後に当院での化学療法、緩和治療を希望する患者については積極的に受け入れている。近隣の産婦人科開業医との連携は良好に保たれている。常勤医4名体制で診療に当たっている。

【診療実績】

ここ数年の診療実績は次のとおりである。分娩数の減少に関しては全国的な少子化の流れだけでなく、コロナ禍の影響を受けたことが大きいと思われる。里帰り分娩は特に規制を設けなかったが、2週間前に帰省した後での受診を徹底させた。コロナの妊婦感染を数例認めたが、母子ともに重篤な患者はいなかった。

手術に関しては、ほぼ例年と大きな変動を認めなかった。腹腔鏡手術が定着しているものと思われるが、これから更に症例数を増やしていくことが必要である。

患 者 数 実 績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	7,390	6,485	8,451
《1日平均》	20.2	17.8	23.2
外来患者数	13,088	12,356	12,527
《1日平均》	54.8	50.8	51.6
分娩件数（死産除く）	415	368	345
帝王切開術	53	47	52
化学療法	222	187	174
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別 ※一般病棟のみ			
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	170	151	163
子宮頸・体部の悪性腫瘍	120	105	79
胎児及び胎児付属物の異常	80	60	60
分娩の異常	68	75	58
早産、切迫早産	47	38	66
卵巣の良性腫瘍	37	37	25
子宮の良性腫瘍	33	25	41
妊娠中の糖尿病	31	22	26
妊娠高血圧症候群関連疾患	27	18	28
流産	16	19	8

手術件数《産科》			
吸引娩出術	43	46	33
帝王切開術（選択帝王切開）	37	37	36
帝王切開術（緊急帝王切開）	16	10	16
会陰（腔壁）裂創縫合術（分娩時）（筋層に及ぶ）	29	40	20
会陰（腔壁）裂創縫合術（分娩時）（膣門蓋に及ぶ）	5	2	1
会陰（腔壁）裂創縫合術（分娩時）（肛門に及ぶ）	5	1	4
流産手術（妊娠11週まで）（手動真空吸引法）	15	14	8
帝王切開術（緊急帝王切開）	14	10	16
手術件数《婦人科》			
子宮内膜掻爬術	25	20	26
子宮頸部（腔部）切除術	24	22	16
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）	21	21	10
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（開腹）	18	18	15
子宮全摘術	18	15	35
子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）	9	4	3
子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	6	8	6
子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮全摘術）（腔式、腹式）	5	0	7
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	4	3	0
子宮筋腫摘出（核出）術 腔式	4	5	6
子宮悪性腫瘍手術			9

【学会発表、論文など】

1. 学会発表

2021年10月16日、能代（湯らくの宿）

令和3年度秋田県医師会県北医学会並びに医師卒後研修講座

妊娠中に発症した薬剤性痙攣発作の1例 今野めぐみ

2. 論文

坂口太一、松井俊彦、今野めぐみ、柴田悟史：術前に卵巣腫瘍と診断した低異型虫垂粘液性腫瘍の1例 秋田県産科婦人科学会誌. 2022；27：43－47

以下に論文の概要を記載する。

症例は78歳、女性。尿漏れを主訴に近医を受診したところ卵巣腫瘍を指摘され当院産婦人科を紹介受診した。30年前に子宮脱に対して腔式子宮全摘術を施行されていたが、以降婦人科検診を受けていなかった。骨盤部造影MRIで骨盤右側に内部に充実成分を伴う12cm大の嚢胞性腫瘍を認めた。血液検査でCEA 28.1と高値を認めたため、消化管原発腫瘍も疑い上下消化管内視鏡検査を施行したが異常所見を認めなかった。右卵巣腫瘍の術前診断のもと、開腹下に両側付属器切除術の予定で手術を開始した。術中所見では卵巣は両側とも正常であった。嚢胞性腫瘍は虫垂の腹側に隣接していた。悪性腫瘍の可能性も否定できないため回盲部切除術を施行した。病理診断で低異型度虫垂粘液性腫瘍と診断された。

3. その他

性教育講演

2021年7月20日 能代科学技術高校 今野めぐみ

耳鼻咽喉科

文責 江戸 雅孝

【スタッフ紹介】

診療部長 江戸 雅孝（耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医）
科 長 辻 正博（耳鼻咽喉科学会専門医、がん治療認定医）

【診療実績】

患者数実績	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	2,591	2,029	1,797
《1日平均》	7.1	5.6	4.9
外来患者数	12,142	10,846	10,839
《1日平均》	50.8	44.6	44.6
新規入院患者数 主な内訳 MDC6別 ※一般病棟のみ			
前庭機能障害	99	51	51
頭頸部悪性腫瘍	27	18	33
慢性副鼻腔炎	14	13	17
扁桃、アデノイドの慢性疾患	13	8	6
肺炎等	10	—	2
鼻中隔湾曲症	9	4	8
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	9	8	13
上気道炎	9	6	4
誤嚥性肺炎	6	6	2
耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	5	7	8
主な手術（入院）			
内視鏡下鼻中隔手術1型（骨、軟骨手術）	11	11	19
口蓋扁桃手術 摘出	11	7	7
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	6	6	10
鼻中隔矯正術	6	—	—
内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型（汎副鼻腔手術）	5	10	7
内視鏡下鼻腔手術1型（下鼻甲介手術）	5	2	16
喉頭・声帯ポリープ切除術 直達喉頭鏡又はファイバースコープによるもの	5	—	1
喉頭腫瘍摘出術（直達鏡）	5	1	6
気管切開術	3	2	4
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	3	1	1

【診療科コメント】

外来の診療体制は耳鼻咽喉科専門医2名で変わりありません。クラーク、事務、看護師はそれぞれ1名です。毎週水曜日の午前中は手術のため、外来は大学病院より応援をいただいています。

例年、診療実績は医事課での統計が示されますが、診療報酬上の分類を基準にしていると思われ、実際の病名、診療内容（術式）や件数とは必ずしも一致はしていません。

ここ数年、高齢者の悪性腫瘍患者が増加している印象です。進行がんが多く、治療自体、困難な例も多く、死亡患者も多かった1年でした。

【学会発表、論文、その他発表、講演実績、研修会など】

《学会発表、研修会、地域の講演会など》

年 月 日	研 修 会	内 容	参 加 者
R 3 年11月 6 日	大館地域緩和ケア研修会 (大館市立総合病院)	講師・ファシリテーター	江戸 雅孝

部

門

紹

介

薬 剤 科

文責 木村 正行

【スタッフ紹介】

薬 剤 長	木村 正行	薬 剤 師	永井 里実
副薬剤長	佐々木真則	薬 剤 師	島田 健汰
副薬剤長	工藤 直嗣	薬 剤 師	細田 優萌
薬剤主任	大原 正之	薬 剤 師	工藤 裕太
薬剤主任	斉藤 匡昭	薬 剤 師	佐藤 匠
薬剤主任	加賀谷明日美	薬剤助手	吉田 裕美
薬 剤 師	石川 孝仁	薬剤助手	星 智子
薬 剤 師	田村 直斗	薬剤助手	松田 早紀



令和3年度は、採用予定者が入社できず薬剤師13人でスタートした。1月より順次病棟の配薬セットを開始した。また、医師のタスクシフト・シェアの一環として、処方代行入力を定期に対し積極的に対応した。配薬セット開始に伴い、対人業務である薬剤管理指導および退院時薬剤情報管理指導等の目標達成が出来なかった。今後は、薬剤師の業務をタスクシフト・シェアして、対人業務を充実したい。

1. 人 員 体 制

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
薬 剤 師	13名											→
助 手 職	3人											→

2. 取得施設基準等

薬剤管理指導料 無菌製剤処理加算 病棟薬剤業務実施加算 がん患者指導管理料3
薬学生実務実習受け入れ施設 日本病院薬剤師会プレアボイド報告施設

3. 専門・認定薬剤師

日本病院薬剤師生涯研修履修認定薬剤師 日本病院薬剤師研修センター認定薬剤師
認定実務実習指導薬剤師 日本糖尿病療養指導士（日本糖尿病療養指導士認定機構）
NST専門療法士（日本静脈経腸栄養学会・JSPEN） がん薬物療法認定薬剤師
抗菌化学療法認定薬剤師

4. 業務集計

(1) 調剤業務に関する事項

外来処方箋枚数	5705枚／年（平均 475枚／月）
注射処方箋枚数	65664枚／年（平均5472枚／月）
入院処方箋枚数	58988枚／年（平均4915枚／月）
院外処方箋発行率	94.7%

(2) 医療安全に関する事項

C L I P - R 報告件数	37件（ 3 件／月）
プレアボイド報告件数	18件／年

(3) 感染対策に関する事項

抗菌剤使用数（A U D）	145.5
無菌製剤（T P N）処理件数	338件（ 28.1件／月）
T D M（抗M R S A剤）実施件数	40件（ 3.3件／月）

(4) 診療支援等に関する事項

入院薬剤管理指導患者数	4190人／年（ 349.1人／月）
入院薬剤管理指導率	42%
病棟薬剤業務実施時間（h）	7627 h（ 635.6 h／月）
外来抗癌剤無菌調製実施数	1266件（ 105件／月）
入院抗癌剤無菌調製実施数	1563件（ 130件／月）
外来吸入指導件数	248件（ 20件／月）
インスリン・S M B G 導入外来指導数	282件（ 23件／月）
オピオイド外来指導件数	7 件
入院患者持参薬鑑別件数	5528件（ 460件／月）
入院支援センター鑑別件数	2056件（ 171件／月）
再調剤件数	3082件（ 256件／月）
がん患者指導料	51件（ 4.2件／月）
薬剤師外来	220件（ 18件／月）
薬剤情報提供料（外来）	3858件（ 321件／月）
手帳加算	2654件（ 221件／月）

(5) 薬物適正使用に関する事項

医薬品情報誌発行件数	29件（ 2.4件／月）
院内副作用報告件数	36件（ 3 件／月）

(6) 収益性に関する事項

①薬剤管理指導 2（ハイリスク）件数	3313件（ 276件／月）
②薬剤管理指導 3	2706件（ 225件／月）
薬剤管理指導請求件数（合計①＋②）	6019件（ 501件／月）
退院時指導数	2392件（ 199件／月）
麻薬指導加算	259件（ 21件／月）
病棟薬剤業務実施加算件数	15781件（ 1315件／月）

(7) 教育・研修に関する事項

薬学生長期実務実習受け入れ	2名
見学者受け入れ	0名
高校生インターシップ受け入れ	0名

●学会、講演会での発表

学 会 ・ 講 演 会	発 表 タ イ ト ル	発 表 者
病院薬剤師会 令和3年度薬剤 業務研修会（WEB）	プレアボイド報告症例 様式3 偽性高カ リウム血症の一症例	斉藤 匡昭

●所属学会

日本医療薬学会 日本化学療法学会 日本緩和医療薬学会 日本静脈経腸栄養学会

中央放射線部

文責 伊藤 浩

【スタッフ紹介】

放射線科医師 2 名、診療放射線技師16名、
助手 2 名 合計20名



【業 務 内 容】

○放射線診断部門（1 階フロア）

一般撮影装置 3 台、X 線 TV 装置 2 台、バイプレーン血管撮影装置（II-DR）、シングプレーン血管撮影装置（FPD）、128列マルチスライス CT、1.5T MRI 装置、ポータブル撮影装置 3 台、手術室イメージ 2 台。

○放射線診断部門（健診センターフロア）

一般撮影装置、X 線 TV 装置、マンモグラフィー装置が整備されており、胸部・胃・マンモグラフィーの放射線検査が完結できるようになっております。
マンモグラフィーは女性技師のみで対応しております

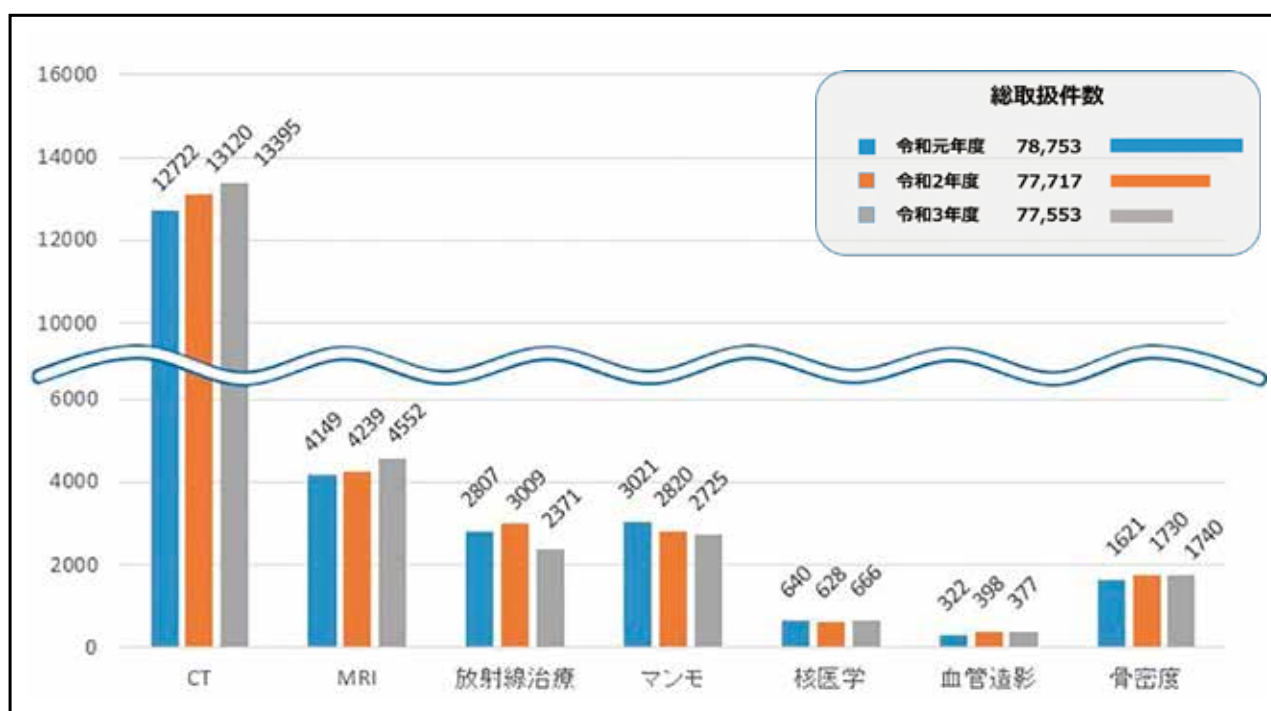
○核医学検査部門

体内に投与した放射性医薬品が臓器や組織などに集まる様子を画像化し、疾病の診断、病期や予後の確認、治療効果の判定などに利用されております。

○放射線治療部門

治療装置はシーメンス社製 ONCOR Impression（X 線エネルギー：6 MV、電子線エネルギー：4～14MeV）、治療計画用マルチスライス CT 装置、治療計画装置（ピナクル）の組合せにより、放射線治療が行われております。

【業 務 実 績】



【部外講師による勉強会 8回開催】

【部内講師による勉強会 6回開催】

【認定放射線技師】

放射線管理士	1名	放射線機器管理士	1名
放射線治療専門放射線技師	2名	放射線治療品質管理士	2名
画像等手術支援等認定診療放射線技師	2名	医療画像情報制度管理士	1名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	3名	磁気共鳴専門技術者	1名
X線C T認定技師	3名	肺がんC T検診認定技師	1名
胃がん検診専門技師	3名	A i 認定診療放射線技師	2名
超音波検査士	1名	医療情報技師	1名
第1種放射線取扱主任者	1名		

臨床検査科

文責 清水 盛也

【スタッフ紹介】

臨床検査科 総員34名

内訳 科長 1 名（医師）

臨床検査技師26名（臨時技師 4 名含）

（内、超音波検査士 6 名・細胞検査士 4 名・認定輸血検査技師 1 名・秋田県糖尿病療法指導士 2 名・二級臨床検査士 1 名）

看護師（採血担当） 2 名＋補助看護師 1 名
検査補助員 5 名



【部門紹介】

コロナ禍の終息が見えない中、その対応に暗中模索状態で切り盛りしていた当初に比べ少し落ち着きを取り戻した一年ではありましたが、それでもなお検査試薬不足や検査スタッフ人員不足など、その対応に苦慮した一年でした。昨年同様、コロナの院内発生を防ぐための I C T 対策では中軸を担い、入院時前コロナ抗原定量検査で鼻咽頭ぬぐい液の採取や、コロナウイルス検出のための P C R やランブによる核酸増幅検査、感染症病棟での心電図検査など、今年も多岐にわたって臨床検査技師がコロナ対応に関与しました。その中ではありましたが、基本理念である「わたしたちは、チーム医療の一員として常に向上心を持ち、質の高い検査結果を提供します。」を忘れず、34名のスタッフが一丸となって活躍した一年であったと思います。

通常業務においても滞ることなく次に示す業務体制をとっています。検査科では検査結果の迅速報告のために、朝の病棟検体収集や、外来患者様の採血を検査科内の採血室で行っています。採血業務については、混み具合により午前中の採血担当を最大 6 名で行っています。採血された検体は速やかに各部門に搬送され、検査結果の迅速な報告に努めています。

これら検体検査の解析の中核を担っているのが血液、一般、生化学、免疫・血清の検体部門です。24時間急性期医療に対応した検査業務体制をとっており、迅速で正確な検査結果の報告に務めています。また、検査科内で院内の輸血業務を24時間体制で一元管理しています。輸血療法委員会の事務局は検査科内に置かれ、その一翼を担っています。生理検査部門には、5名の超音波検査士が配属されており、腹部、心臓、表在臓器、頸動脈、四肢動静脈等、各領域の分野をカバーしています。また、心電図、脳波、肺機能等、様々な生理検査に対応しています。細菌検査室では、院内感染対策に力を入れて感染症の情報発信基地として頑張っています。病理検査部門には3名の細胞検査士が配属されており、病理組織標本の作製や、細胞診、術中迅速組織診断、術中迅速細胞診、剖検介助等を行っています。

さらには、チーム医療の一員として各種委員会や、地域総合健診や事業所健診にも積極的に参画し、心電図や眼底写真撮影、尿検査を行っています。

臨床検査の精度管理にも努めており、外部精度管理調査に積極的に参加しています。それぞれの評価は、日本医師会（総合評価：98.4%）、日本臨床衛生検査技師会（総合評価：98.4%）、秋田県臨床検査技師会（総合評価：98.7%）となっており、さらなる精度向上に向けて努力していきます。

【業務内容】

- ・採血業務（各科外来患者）
- ・検体検査部門（一般・血液、免疫・血清、生化学、輸血、微生物、他）
- ・生理検査部門（循環機能、超音波、呼吸機能、脳・神経機能、聴力、他）
- ・病理検査部門（組織診断、術中迅速組織診断、細胞診、術中迅速細胞診、解剖、他）
- ・チーム医療関係（耳鼻科聴力、輸血一元管理、新生児聴力、健診、負荷シンチ、他）
- ・健康管理関係（心電図、超音波、眼底、骨密度、他）

【検査科内の勉強会状況】

※コロナ感染予防対策のため、本年度は書面の回覧による勉強会とした。

- ・2021年6月1日（火）参加者：29名
「カルボキシヘモグロビン」
- ・2021年7月6日（木）参加者：27名
「末梢血塗抹標本 うまく作製できていますか？」

【学会発表】

- ・Web開催 2021年11月1日～30日 第9回北日本支部医学検査学会
小山田晴香 「凍結保存検体で組織型判定が有用であった胸壁腫瘍の一例」

【その他】

- ・秋田しらかみ看護学院講義
当検査科 臨床検査技師5名で担当
2021年 9月3日（金）・10日（金）・17日（金）・10月13日（水）・20日（水）

【更新機器】

- ・病理検査 10月18日 密閉式自動固定包埋装置 SAKURA社 Tissue-Tek VIP 6 AI
- ・微生物検査 9月24日 血液培養自動分析装置 日本B.D社（FX40システム）



密閉式自動固定包埋装置
SAKURA社 Tissue-Tek VIP 6 AI



血液培養自動分析装置
日本B.D社 FX40

リハビリテーション料

文責 嶋田 誠司

【スタッフ（計27名）】

常勤医師 1名
理学療法士 12名
作業療法士 11名
言語聴覚士 2名
診療助手 1名

（秋田県糖尿病療養指導士…………… 3名）
（3学会認定合同呼吸療法認定士… 1名）
（福祉住環境コーディネーター………… 4名）
（Neuro Development Therapist… 1名）



【部門紹介】

整形外科疾患や脳血管疾患を中心に、全科を対象としたリハビリテーションを早期から開始し、同地域の療養型病院と連携したリハビリテーションを提供しています。能代市と連携して転倒予防や健康維持のための運動プログラムを紹介したり、能代支援学校での自立支援活動、訪問リハビリテーションなど地域と密接に結びついたりリハビリテーションサービスの提供に努めています。

【業務内容】

施設基準
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション（Ⅰ）

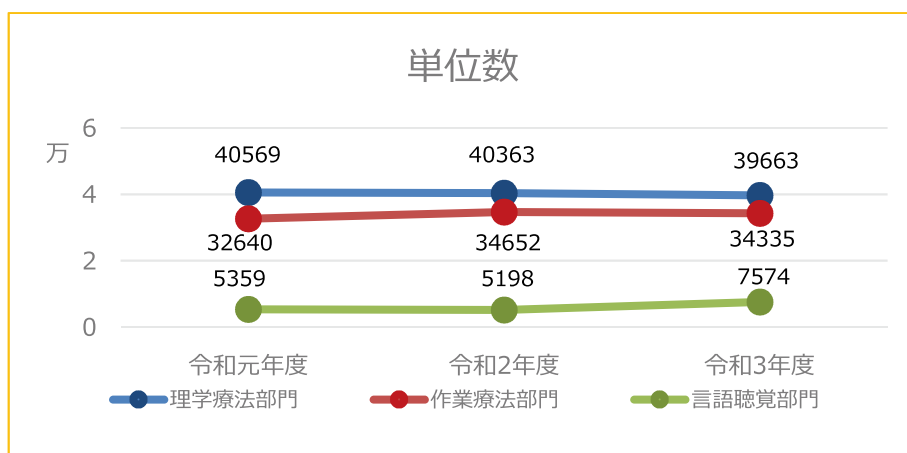
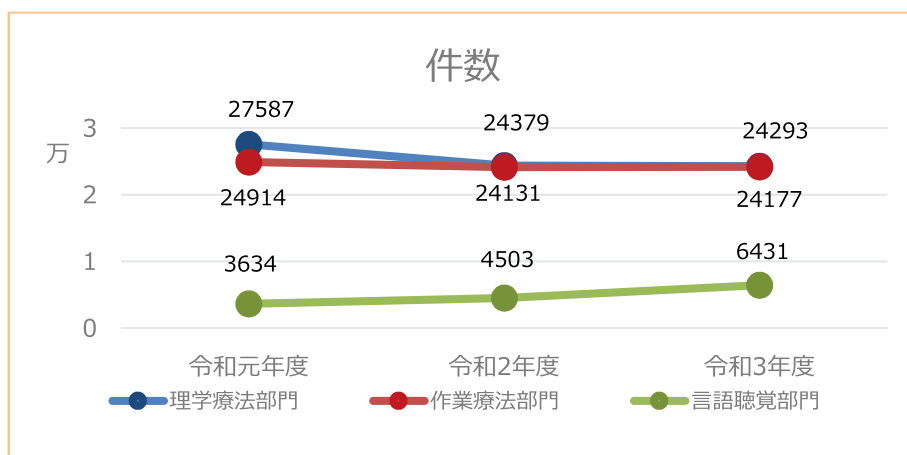
地域保健福祉活動内容	回数
能代市地域活動支援センター機能訓練支援（とらいあんぐる）	11回
能代市介護予防ゆうあい健康教室（特養しのめ）	6回
能代支援学校教育支援	3回
向能代地区寿大学	1回
家族介護者の集い・ドリームの会	1回

講師活動	担当者
4～10月	しらかみ看護学院講師
6月25日	院内勉強会講師
	伊藤あずさ（3回）、菅 祐典（2回） 佐藤 嘉寿（1回）

臨 床 実 習 受 け 入 れ			
R 3. 4～6月	秋田大学医学部保健学科 青森県立保健大学	P T (4年) P T (4年)	
5～7月	東北福祉大学	O T (4年)	
6～7月	秋田リハビリテーション学院	P T (4年)	
〃	秋田リハビリテーション学院	P T (4年)	
8～10月	秋田大学医学部保健学科	O T (4年)	
R 4. 1～2月	〃	P T (3年)	
2月	秋田リハビリテーション学院	P T (3年)	

※他2校からの実習はコロナ禍で中止となった。

【業務実績】



栄 養 科

文責：栄養技師長 高橋 美香

【スタッフ紹介】

管理栄養士 6 名、調理員 36 名、事務職員 1 名、合計 43 名

【部門照会】

患者さんへ安心・安全な食事提供を目的とし、J A や地元業者からも食材を購入し地産地消の推進をしています。

【業務内容】

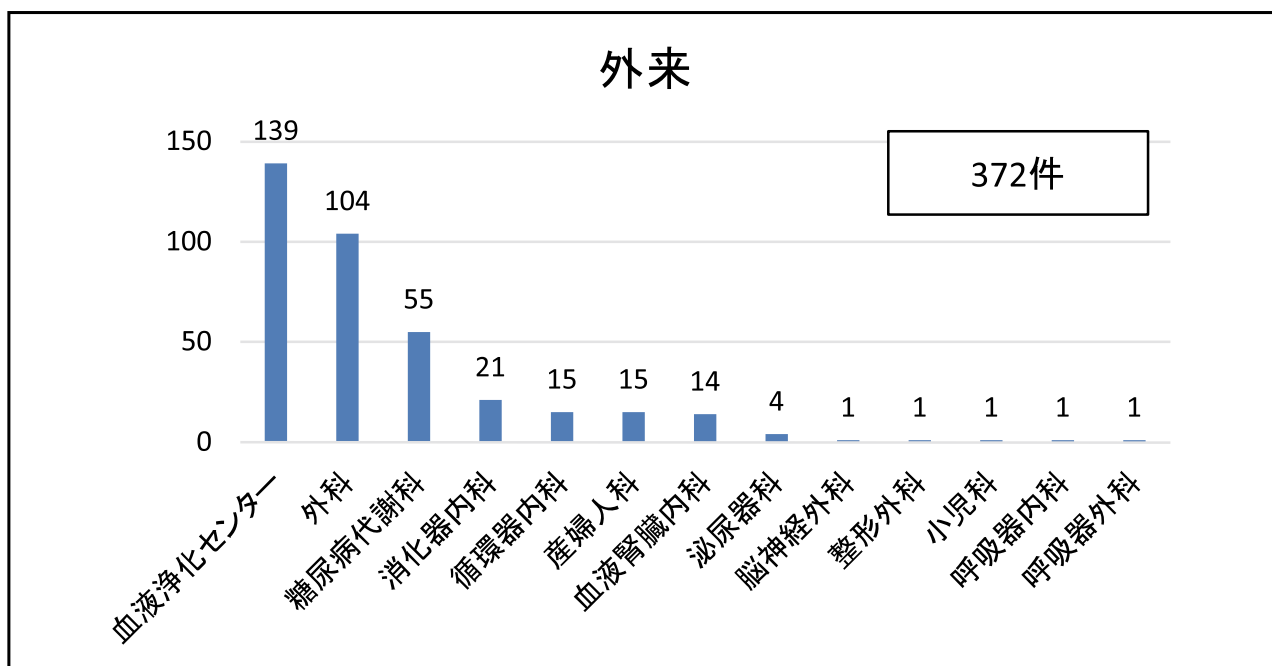
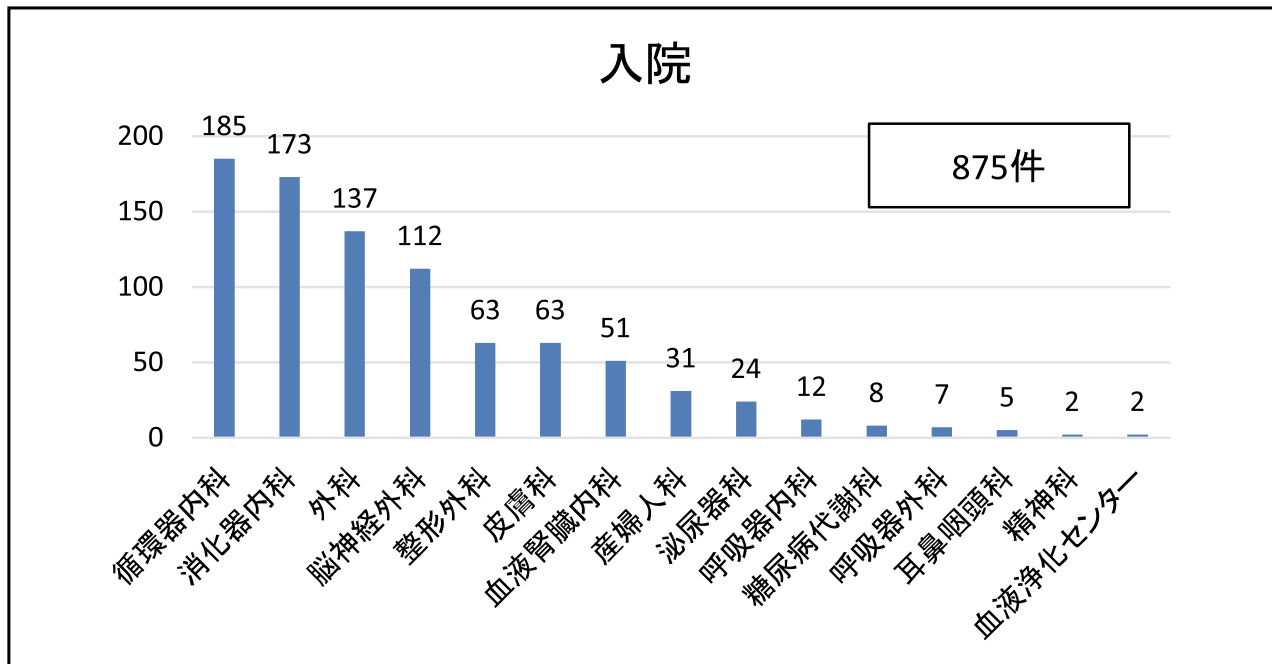
- (1) 入院患者への食事提供
院内約束食事箋に基づき、患者さんの病態や要望を含め多種多様なオーダーに対応
- (2) 栄養指導
個別栄養指導（入院・外来）
特定保健指導
- (3) 入院患者の栄養管理
入院患者の栄養スクリーニングを実施し栄養評価を行い、栄養管理計画書を作成し、低栄養や食事摂取不良等の患者に対して栄養管理を実施

【業務活動】

（令和 3 年度 食事提供数）

食 種	食 数	食 種	食 数
常 食	92,388	糖 尿 病 食	39,549
軟 菜 食	34,180	心 臓 病 食	46,122
と ろ み 食	12,796	高 血 圧 食	9,451
流 動 食	856	脂 質 異 常 症 食	11,912
小児・学童・学生食	821	腎 臓 病 食	1,601
妊 産 婦 食	6,146	肝 臓 病 食	2,752
出 産 祝 膳	344	術 後 食	2,982
精 神 デ イ ケ ア 食	1,652	胃 切 後 5 回 食	1,696
嚥 下 調 整 食	1,850	濃 厚 流 動 食	11,049
潰 瘍 食	2,482	検 査 食 ・ そ の 他	12,091
妊娠高血圧症候群食	1,194	合 計	303,882
腎 臓 病 食	11,620		

(令和3年度 科別栄養指導件数)



【研 修 会】

名 称	開催月	参加者
第72回秋田県病院給食協議会総会・研修会	10月1日	高橋 美香
令和3年度公益社団法人秋田県栄養士会県北地区会研修会	中 止	

リンパ浮腫ケア室

文責 日諸 千春

【スタッフ紹介】

セラピスト（看護師）
大塚 聖子（中級）
火曜日13：00～17：00

日諸 千春（上級）
木曜日13：00～17：00



【診療体制】

- ① 医師の診断後
ケア介入
- ② 完全予約制
- ③ 一日2名まで
- ④ 保険外診療

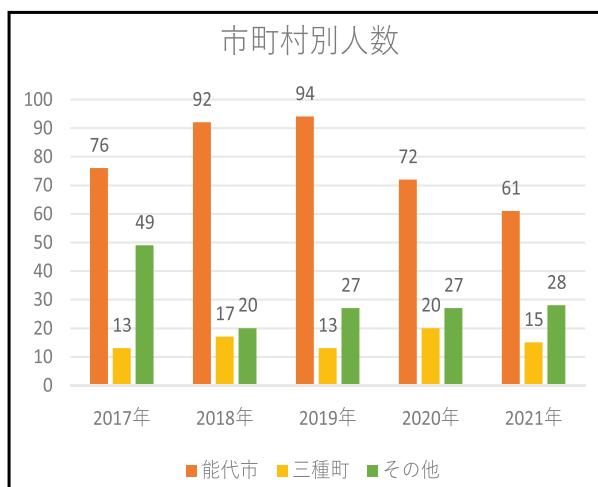
【活動内容】

リンパ浮腫ケア室は2012年能代市の依頼を受け、セラピストを育成し開設しました。

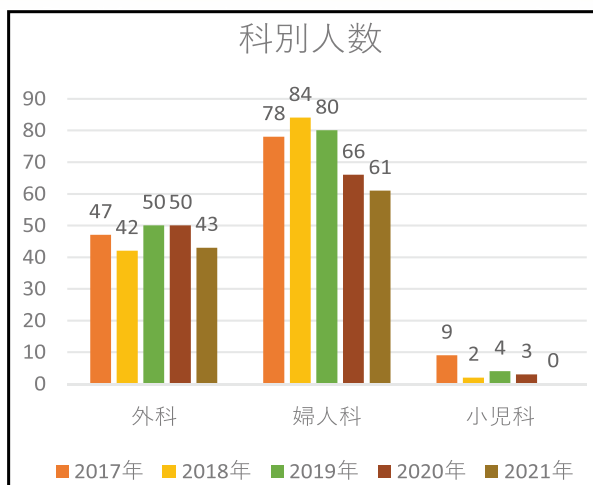
リンパ浮腫ケア室では、複合的理学療法である①医療徒手リンパドレナージ・②スキンケア指導・③弾性着衣の指導・④運動療法指導の他に⑤生活指導を行っています。

上記は浮腫の軽減・症状の緩和を目的とした保存的療法となります。

【活動実績】



科別人数



リンパ浮腫は完治が難しいとされ、当院リンパ浮腫ケア室においても必ずしも完治や著しい効果を保障するものではありません。

しかし患者さんからは楽になった。

細くなった等のお喜びの声は頂く事もあります。

コロナ禍で患者数の減少はありますが、患者さんへの感染対策はICTと相談しながら最大の配慮をしております。

楽になります。
気持ちいいですね。



ストッキングの選択は
患者さんと相談しながら
選びます

【スタッフ紹介】

臨床工学科科長：泌尿器科科長 1 名

臨床工学技士：9 名

【部門紹介】

臨床工学科は医療機器の中央管理を行うとともに、循環器・血液浄化・手術室・内視鏡業務と広範囲にわたって業務を行っている。院内での医療機器に関する研修会の開催と共に、医療機器安全のための情報発信として「MEつうしん」を発行し、医療機器の安全使用と信頼性の確保に努めている。臨床業務と管理医療機器は病院からの依頼を可能な限り受け、年々増加している状況である。

循環器業務では、昨年度より A C S に対する緊急 P C I を開始したが、件数は徐々に増えてきている。又、消化器内視鏡業務でも昨年度より拘束業務に対応し始めている。多様化する業務に対応できるようスタッフのスキルアップに努めている。

人員は正職員 9 名体制となった。

【業務内容】

医療機器管理部門

医療機器管理センターで人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、A E D 等を管理している。始業点検や定期点検を行うと共に、部門設置機器は日々使用中点検を行っている。

医療機器研修は、例年と同様に各部署へアンケート調査を行い要望に沿った内容で病棟毎に開催した。又、今年も医療ガス安全研修はセーフティプラスを利用した開催とした。

血液浄化部門

血液透析全般と透析効率の評価や透析液水質管理を行い、透析の質向上に努めている。オンライン H D F が今後増えてくると思われ、水質管理はとても重要になってくると思われる。

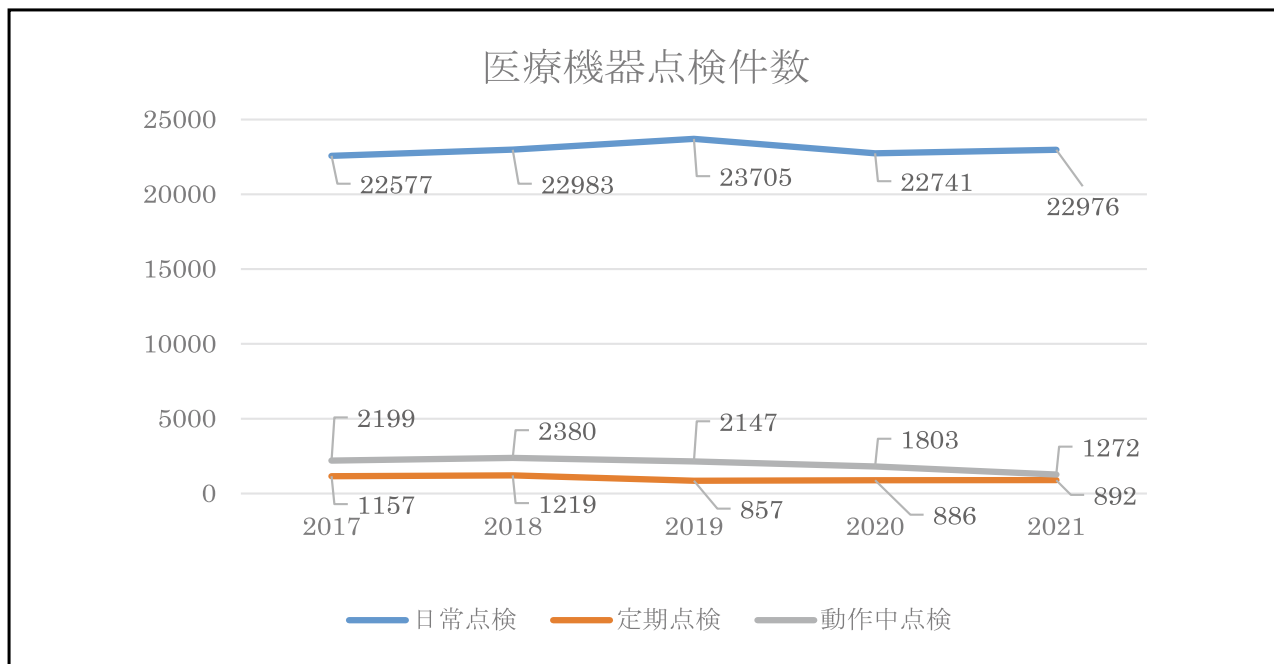
循環器部門

心臓カテーテル検査・P C I 時のポリグラフ操作、I V U S ・F F R 操作、ペースメーカー植込・交換時のプログラマー操作、ペースメーカークリニック等を行っている。ペースメーカーの M R I ・C T ・手術時のモード変更にも対応している。

手術室部門

手術室には 1 名常駐しており、麻酔器等の手術前日常点検と定期点検の他、機器セッティング等も行っており、故障の予防と修繕費の圧縮に努めている。その他にラジオ波焼灼術時の機器操作、尿管ステント時の機器操作も行っている。

【業務実績】



【特殊血液浄化法件数】（令和3年4月～令和4年3月）

・腹水濾過濃縮再静注法	16件	・血漿交換・吸着	17件
・CHDF	47件	・GCAP	20件
・エンドトキシン吸着	1件	・出張透析	3件

【研修会実施状況】（令和3年4月～令和4年3月）

・安全使用の為の研修	59回	828人
・MEつうしん発行	4回	

【専門・認定資格】

・血液浄化専門臨床工学技士	1名：丸山 広
・透析技術認定士	4名：丸山 広、赤坂紀之、佐々木和義、内藤恭子
・呼吸療法認定士	1名：内藤恭子
・植込み型心臓デバイス認定士	1名：山本真櫻
・医療機器情報コミュニケーター（MDIC）	1名：佐々木和義
・医療安全管理責任者	1名：丸山 広

血液浄化センター

文責 小峰 直樹

【スタッフ紹介】

泌尿器科医師 3 名 看護師長 1 名
看護主任 1 名 看護師 7 名
臨床工学技士 2 名 看護補助員 1 名

【部門紹介】

当センターでは、医師、看護師、臨床工学技士、看護補助員が密接な協力の元にチームとして機能し、安全性・専門性・迅速性を重視し、患者さんにとって最善の医療の提供を心がけています。慢性腎不全の透析導入・維持透析が中心ですが、その他、急性腎不全や重症疾患で血液浄化療法を必要とする患者さんに常時対応できる設備・体制を整えております。

また透析導入の原因の第一位は糖尿病性腎症であり、下肢末梢疾患（PAD）を合併する患者様が多く、最終的には下肢の切断に至る方もいます。そこで患者様全員に下肢末梢動脈管理を行うとともに糖尿病の患者様には糖尿病合併症疾患管理を行うことで足病変を早期発見、予防し患者様のADL維持向上につながる様、取り組んでおります。

現在、ベッド数は29床（うち2床個室）を有しており、能代山本地域の透析拠点病院として他施設と連携をとりながら、地域の患者さんへのより良い医療の提供を目指しています。

【部署目標】

仲間を理解し、許し支えあう職場風土をつくり、安全で安心な治療環境を提供する。

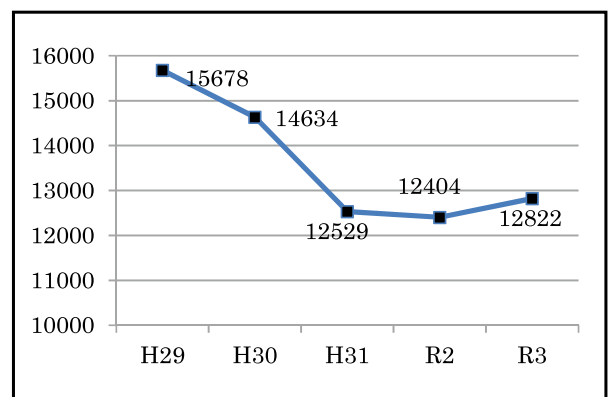
【業務内容】

- 慢性腎不全患者の透析導入・維持透析
- 各種急性血液浄化：持続緩徐式血液透析濾過（CHDF）・血液吸着療法（PMX）・血漿吸着療法（PA）血漿交換療法（PE）・血球成分除去療法（GCAP）
- 腹水濾過濃縮再静注法
- シャントPTA（経皮的血管形成術）



【診療実績】

令和3年度 血液浄化療法総件数 12822件



透析・その他血液浄化療法・シャントPTA件数

透析件数	12725件	腹水濾過濃縮再静注	13件
CHDF	46件	血液吸着	12件
血症交換	7件	血球成分除去	19件
シャントPTA	19件		

フットケア関連加算件数

糖尿病合併症加算	107件	下肢末梢動脈疾患管理	941件
----------	------	------------	------

【学会・研修会等】

令和3年11月28日 第25回秋田腎不全研究会
発表者 大高 葉子

「充填ヘパリン濃度が長期留置型透析用
カテーテル内の血栓体積に及ぼす影響」

令和3年12月1日

秋田県糖尿病療養指導士取得

平川 朋子 山田 忍

健診センター

【スタッフ紹介】

健診センター長 医師 三木一伸

保健師 4 名、看護師 1 名、視能訓練士 2 名、事務職員 5 名

【部 門 紹 介】

当センターは、健康診断・人間ドックをはじめとした健康管理活動、健康教育、啓蒙活動により、地域住民の健康増進を図り、疾病を予防することを、目的としています。

【業 務 内 容】

・人間ドック、事業所健診、特定健診

現在の健康状態を明らかにし、疾病の早期発見及び健康保持を目的としています。精検受診率を上げるための取り組みとして、保健師から電話や手紙などで受診勧奨や健康相談を実施しています。

健診の種類	実施数
人間ドック（日帰り）	2,733
人間ドック（宿泊）	43
協会けんぽ健診	1,970
事業所健診	1,957
特定健診	162
総計	6,865

* 令和3度人間ドック・検診における精密検査受診率とがん発見率

	A	B	B / A	C	C / B	D	D / A
	受診者数	要精検数	要精検率	精 検 数	精 検 受 診 率	癌発見数	癌発見率
胃・食道がん	3,693	508	13.8%	371	73.0%	16	0.43%
大腸がん	5,428	244	4.5%	149	61.1%	7	0.13%
乳がん	2,678	131	4.9%	102	77.9%	0	0.00%
子宮がん	1,888	166	8.8%	131	78.9%	3	0.16%
前立腺がん	1,705	139	8.2%	67	48.2%	2	0.12%
肺がん	6,562	160	2.4%	123	76.9%	3	0.05%
総計	21,954	1,348	6.1%	943	70.0%	31	0.14%

・その他の検診

事業所健診、人間ドックのオプション健診として各種検査を実施しています。受診者の希望に応じた個別性を重視した幅広い検診を目指しています。受診者へ丁寧な検査説明を行い、随時、保健師からの健康相談も実施しております。

検診の種類	実施数
脳ドック	132
肺ドック	31
電離放射線検診	22
有機溶剤検診	24
特定化学物質検診	2
風疹抗体検査	32
腫瘍マーカー	671
CAVI(動脈硬化検査)	145
乳腺エコー	305
B N P (心不全検査)	238
骨密度検診	137
A B C 検診 (ピロリ菌)	65
合計	1,804

・予防接種

当職員の他、一般患者、事業所、消防、警察からの依頼を受けて、予防接種を実施しています。令和2年度からは、带状疱疹の予防として実施している水痘ワクチンが、自治体の助成対象となり実施しています。また、風疹の抗体価が低い成人男性に対して、自治体より無料クーポン券が配布され、抗体検査と、抗体価が低い方を対象にワクチンを実施しています。

予防接種の種類	実施数
インフルエンザ	970
B型肝炎	210
水痘・带状疱疹	18
おたふく	43
麻疹・風疹	98
麻疹	11
風疹	11
合計	1,361

・特定保健指導

生活習慣病のリスクが高く、生活習慣の改善により予防効果が期待できる方に対し、保険者からの依頼を受けて、保健師及び管理栄養士が食事や運動などのサポートを行っています。保健師は、3名が人間ドック健診情報管理指導士を取得しております。令和3年度は、21名の特定保健指導を実施いたしました。

保険者	動機付支援	積極的支援	合計
	8,286円	29,891円	
協会けんぽ	2	3	5
スズキ健保	0	0	0
農林健保	4	3	7
市町村共済	4	2	6
地方職員共済	0	0	0
能代市	1	1	2
三種町	0	0	0
八峰町	0	0	0
藤里町	0	0	0
警察共済	1	0	1
	12	9	21

入退院支援センター

文責 進藤 恵子

【スタッフ紹介】

- ・センター長：整形外科科長 伊藤博紀医師
- ・副センター長：木村正行薬剤師
- ・看護師：佐藤ひとみ師長、野呂江津子師長、石川えり子主任、進藤恵子主任、荒川裕美子主任、齋藤福見、大高玲子、福丸千恵、佐々木順子、鈴木美喜子、田中尚子、鈴木幸美
- ・社会福祉士：佐藤里花子、三浦真己子、佐藤希、佐々木凜生
- ・薬剤師：齊藤匡昭
- ・事務：高崎真理子、芹田真由子



【部門紹介】

入院される患者さんが安心して治療を受け、住み慣れた地域で生活が送れるよう、入院前から退院まで地域や多職種と連携して関わり支援しています。

令和3年度は、せん妄リスクの高い患者さんが安全な入院生活のため、認知症看護認定看護師と入院前から連携を強化しました。また、オンラインでの退院前カンファレンスを導入し入院中コロナ禍で面会制限があっても、意思決定がスムーズに行えるように取り組みました。

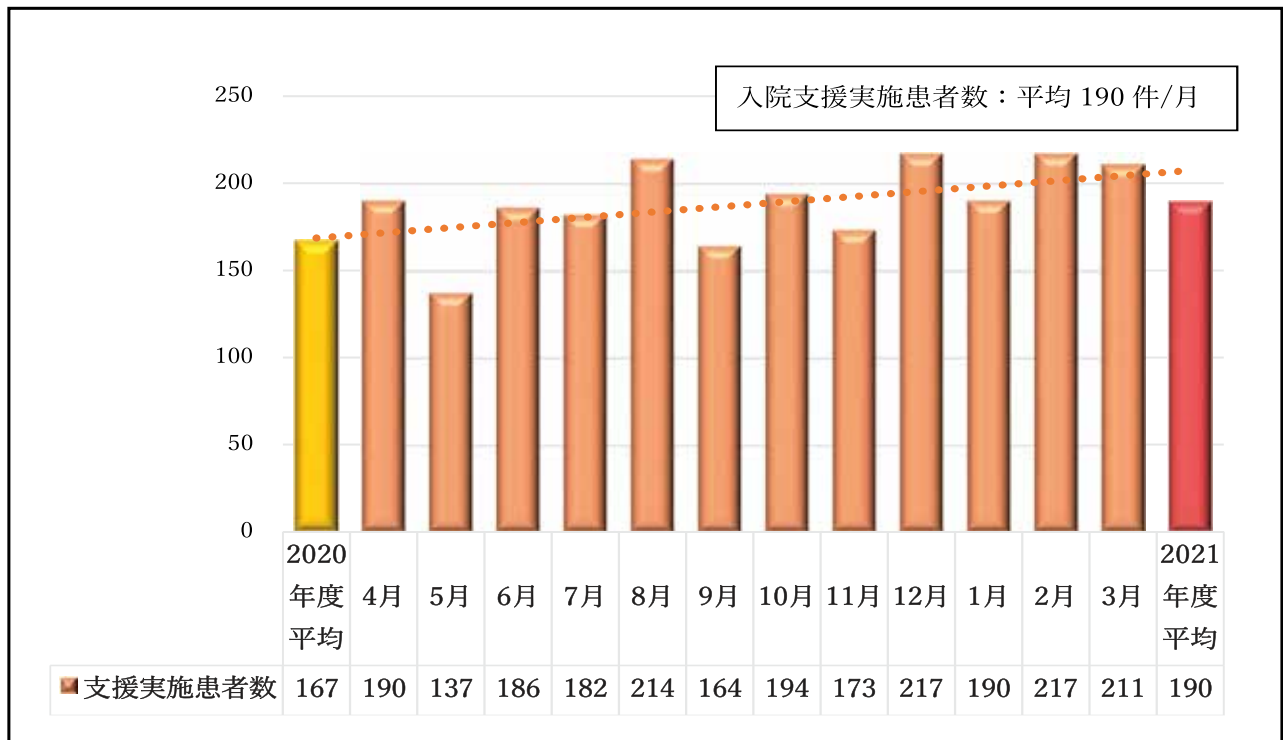
病気・仕事・介護・入院・医療費等の不安や悩みについては、医療福祉相談室、地域医療連携室と情報共有し、患者さんやご家族の相談対応やサポートをしています。

【業務内容】

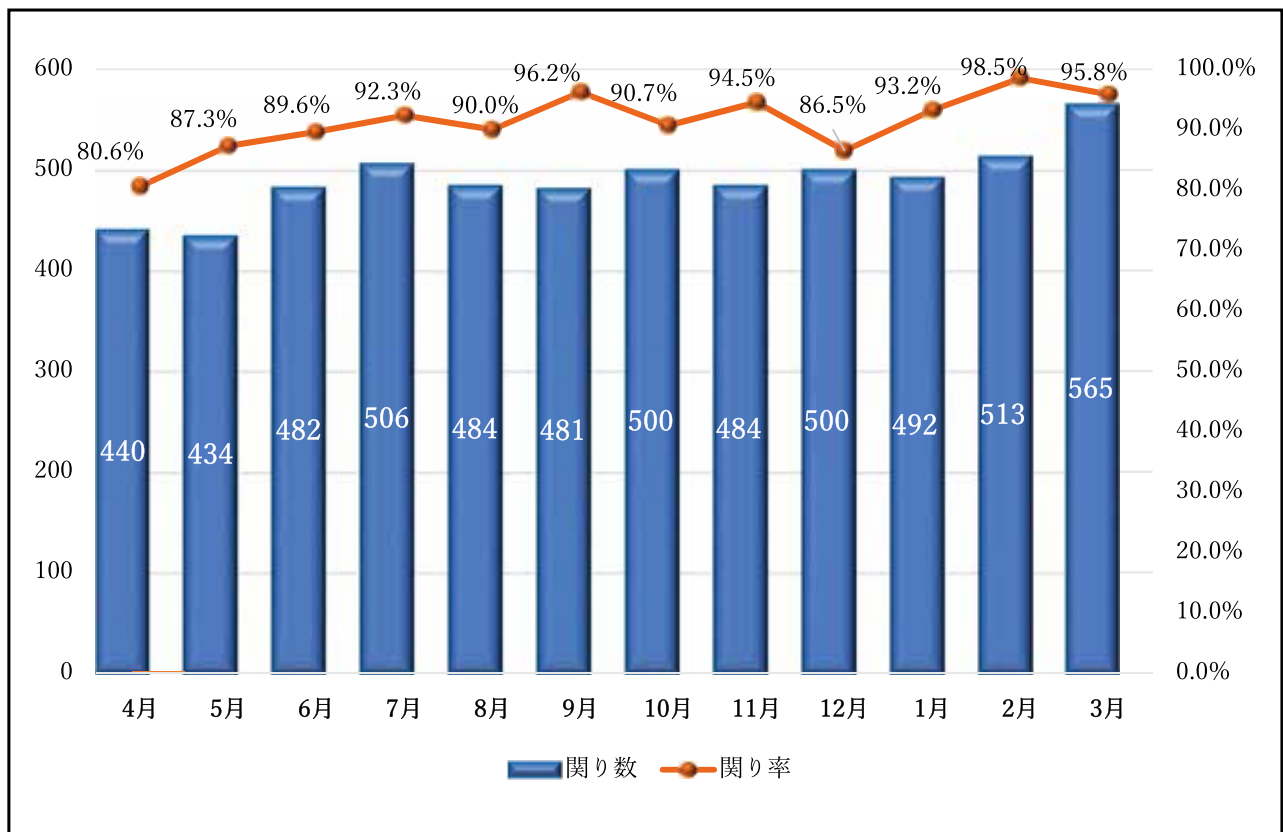
- ・予約入院患者さんの入院案内、入院前オリエンテーション、クリニカルパスなどの説明
- ・患者プロフィール等のデータベース作成
- ・各種スクリーニングによる、リスクアセスメント
- ・薬剤科や栄養科など多職種と連携した情報収集・患者指導の実施
- ・退院支援・調整（転院調整）
- ・在宅療養や介護申請、訪問看護利用についての相談対応や説明
- ・退院前カンファレンスの開催（オンライン含む）
- ・退院前訪問・退院後訪問の実施

【入院支援】実績（令和3年4月～令和4年3月）

予定入院患者に対する入院支援実施患者数



【退院支援】実績（令和3年4月～令和4年3月）



地域医療連携室

文責 阿部 綾華

【スタッフ紹介】

地域医療連携室長	佐藤 毅（医師）	M S W	阿部 綾華（兼務）
看護師長	野呂江津子	M S W	松尾 拓哉（兼務）
看護師	伊藤美穂子	事務	西坂美加子

【部門紹介】

地域医療連携室は平成18年8月に開設され、平成30年5月に入退院支援や医療相談室と統合して患者支援センターになった。切れ目のない医療の提供と地域医療連携の充実に目的として活動しており、病院の前方連携を担う部門である。

新型コロナウイルス感染症の影響で親睦会や研修会は開催出来なかったが、感染予防策を取りながらがんパス協力医への開業医回り・当院のPRリーフレットを開業医へ郵送する等、コロナ化でも出来ることを模索して取り組んだ1年だった。

【業務内容】

- 1) 紹介患者診察予約・案内
- 2) 病病連携・病診連携・歯科連携に関する連絡調整と相談
 - ①救急患者搬送時の連絡対応
 - ②転入院の連絡調整
 - ③PET-CT等の予約調整
 - ④逆紹介患者の予約
 - ⑤歯科医院の予約
 - ⑥診療相談の窓口
- 3) 紹介・逆紹介患者の情報管理（各種報告書管理・借用物管理・統計資料作成）
- 4) 連携室だより作成
- 5) 院内関係部門との協働（①地域連携機関との親睦会・情報交換会 ②講師派遣窓口）
- 6) 地域連携パス運用協力（①秋田県統一5大がんパス ②脳卒中パス ③骨粗鬆症連携）
- 7) 医院・施設等への訪問
- 8) 受託検査・分娩予約・レスパイト入院の窓口
- 9) かかりつけ医制の患者説明

【実績】（令和3年4月～令和4年3月）

紹介数（紹介率）	2334件（22%）
逆紹介数（逆紹介率）	5265件（50%）
歯科連携	232件
返書率	99%
受託検査（CT・MRI等）	397件
放射線治療の受け入れ	29件
レスパイト入院受け入れ	15件
5大がん地域連携パス	新規11件（330件運用中）

医療福祉相談室

文責 松尾 拓哉

【スタッフ紹介】

社会福祉士 2 名 社会福祉士・精神保健福祉士 4 名 合計 6 名

【部門紹介】

社会福祉、精神保健福祉の立場から、患者さんやそのご家族の抱える社会的問題解決、院内外調整支援を行っております。患者支援センター内に設置され、退院支援・地域医療連携・認知症疾患医療センター・がん相談・就労支援と多職種連携の元業務にあたっております。

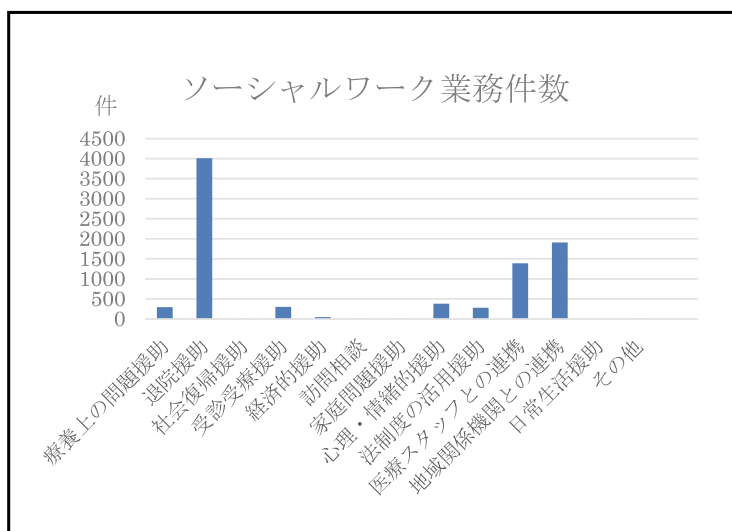
【業務内容】

- 1) 医療福祉相談…①医療費等経済的問題②身体障害者福祉、介護保険等③その他各種相談
- 2) 地域医療連携…①紹介予約受付②逆紹介業務等
- 3) 退院支援…退院支援部門と協働
- 4) 認知症疾患医療センター…①予約受付②認知症に関する相談
- 5) がん相談…がんに関する相談
- 6) 就労支援…病気を抱えながら就労するための相談

【診療実績】

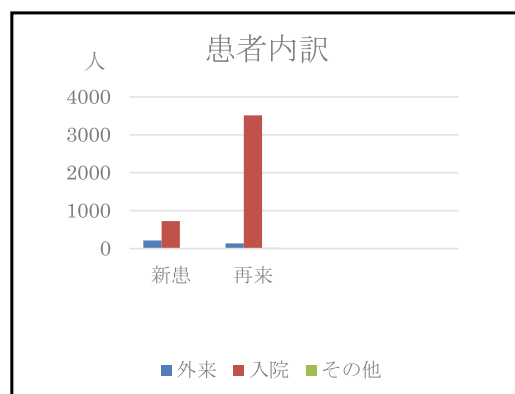
＜ソーシャルワーク業務件数＞

ソーシャルワーク業務	件数
①療養上の問題援助	295件
②退院援助	4011件
③社会復帰援助	6件
④受診受療援助	302件
⑤経済的援助	47件
⑥訪問相談	5件
⑦家庭問題援助	5件
⑧心理・情緒的援助	381件
⑨法制度の活用援助	286件
⑩医療スタッフとの連携	1389件
⑪地域関係機関との連携	1909件
⑫日常生活援助	4件
⑬その他	7件
合 計	8647件



＜患者内訳＞

	外来	入院	その他
新患	214人	725人	3人
再来	136人	3513人	18人



訪問看護ステーション

文責 工藤ゆき子

【スタッフ紹介】

看護師：5名
理学療法士：1名（専従）
事務職：1名（居宅と兼務）

【部門紹介】

主治医から発行された訪問看護指示書を基に、訪問計画を作成し、看護師・理学療法士等の医療専門職が定期的にご自宅等へ伺います。療養生活を送っている本人やご家族、介護される方の意思決定の支援、自立した生活を送るための体制及び在宅療養チームを整備するために活動しています。

『0才から100才まで』をモットーに、多様な年代・多様な病態の方々へ訪問をしております。

【訪問エリア】

能代市・山本郡内（1市・3町）
※緊急時は24時間対応が可能な体制※

【訪問体制】

- ① 24時間対応体制加算（緊急連絡）
- ② 特別管理加算（医療機器管理等）
- ③ 看護体制強化加算（事業所加算）
- ④ 生活保護法指定医療機関
- ⑤ 指定自立支援医療機関
- ⑥ 難病医費助成指定医療機関
- ⑦ 小児慢性特定疾病医療機関



【業務内容】

- 療養上の世話
- 医師の指示による医療処置
- 病状の観察
- 医療機器の管理・指導
- ターミナルケア
- 創傷処置、予防等
- 在宅リハビリテーション
- 認知症ケア、指導
- ご家族等への介護支援・相談
- 介護予防… 他

【実績報告】

訪問総数 4,326件（リハビリ1,150件）
新規利用者数 61人（5.08人／月）
終了者数 69人
平均訪問件数 18.0人／日
平均単価 9,149円

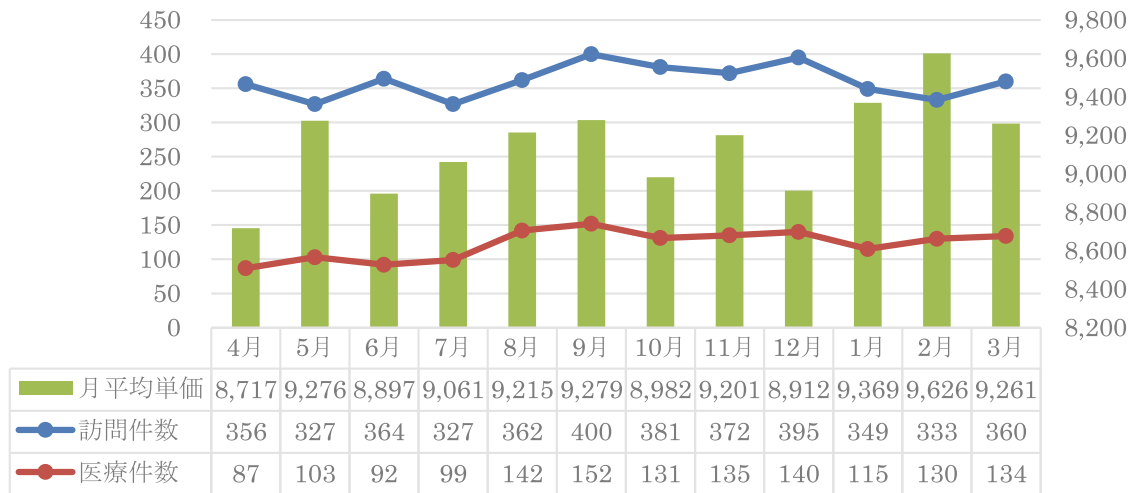
【地域貢献】

- ◎精神科訪問看護の実践
- ◎要支援認定者の生活支援
- ◎在宅看護論臨地実習受け入れ
 - ・あきた白神看護学院
 - ・秋田県看護協会
- 訪問看護師養成講習会 実習
- ◎リハビリテーション科学生他の実習受け入れ
- ◎グループホームとの医療連携：4事業所

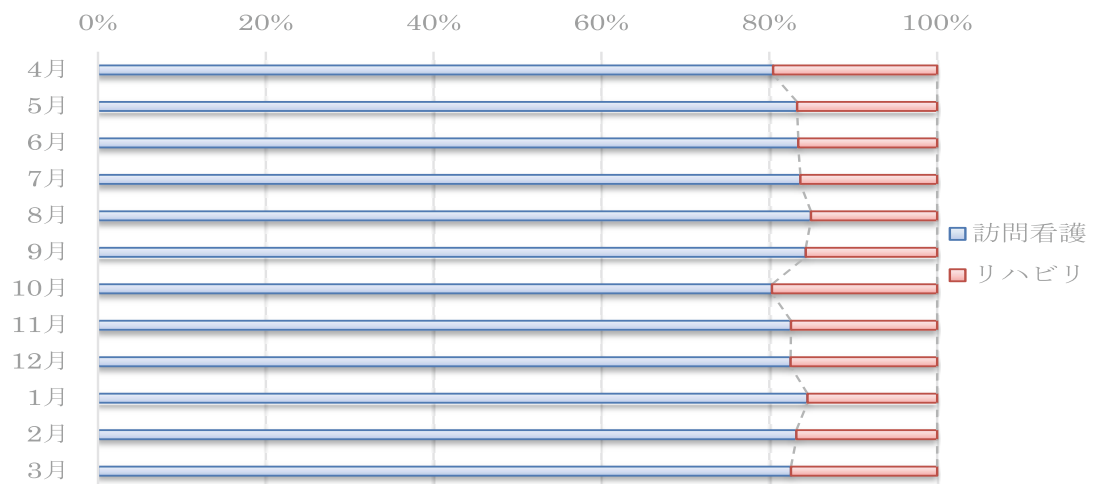
【講義、講演等】

1. 令和3年度訪問看護師養成講習会
「急変時の対応」講義
令和3年6月25日（金）9：00～12：00
於：秋田県総合保健センター
2. 令和3年度訪問看護実践力向上研修
令和3年9月17日（火）14：00～16：00
講師：工藤ゆき子
於：能代市中央公民館

令和3年度訪問件数・単価比較



令和3年度 収入割合



居宅介護支援事業所

文責 成田 友子

【スタッフ紹介】

成田 友子（管理者、主任介護支援専門員）
堀内 光子（主任介護支援専門員）
加賀谷光子（主任介護支援専門員）
田畑 郁美（介護支援専門員）

【部門紹介】

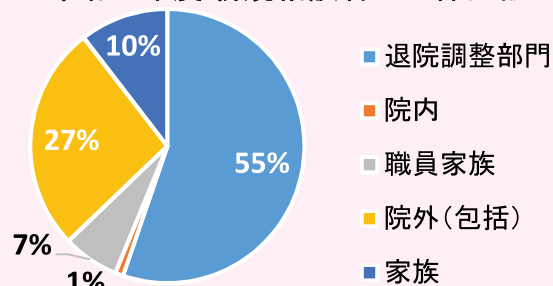
能代市・山本郡の地域で介護を要する方、並びにご家族へ介護保険サービスの提供（ケアプランの作成）を通じて、ご自宅での安定した生活が送れるよう支援しております。重度でも在宅でQQLが維持できる地域福祉を目指します。

特定事業所加算Ⅱを取得し、24時間連絡体制を取っています。

【業務内容】

1. 利用者や家族からの介護相談業務
2. 要介護認定の書類作成および申請・更新代行
3. 課題分析(アセスメント)、ケアプラン作成
4. サービス担当者会議の開催
5. モニタリング、介護サービスの再調整
6. 利用者与各サービス事業所との連絡調整
7. 給付管理
8. 包括支援センターや市町村役場への相談や連携調整
9. 老人福祉サービス等の申請代行
10. 新規利用者や困難事例への対応
11. 各事業所へのサービス提供票等の配布

令和3年度 新規相談者 105件内訳



【業務活動状況】

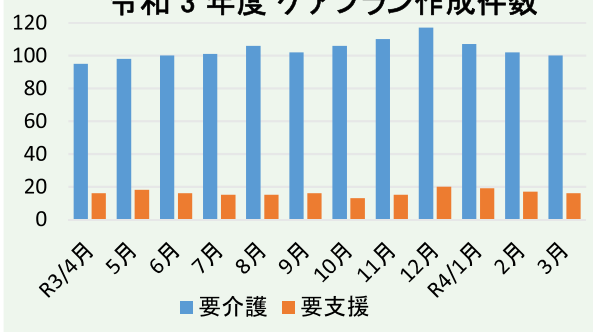
- ・ケアプラン作成件数は要介護1244件、要支援196件。内新規利用者68人、終了者51人。
- ・新規相談者数105人。内ケアプランに繋がった人数53名（50%）。

【教育活動】

- ・介護支援専門員実務研修における実習受け入れ
- ・計画的な教育計画で研修会
主任介護支援専門員更新研修
日本ケアマネジメント学会スキルアップ研修
日本ケアマネジメント学会21周年記念シンポジウム
高次脳機能障害講演会、権利擁護について等



令和3年度 ケアプラン作成件数



看護部

【看護部紹介】

1. 【看護部理念】

私たちは、地域中核病院として患者さんの安全を確保し、人間尊重に基づき豊かな心と感性を持ちながら安心できる看護を提供します。

2. 【看護部目標】

- 1) まあるい心・まあるい笑顔・まあるいことばで働きやすい職場風土を保ちます。
- 2) 質の高い看護を提供し続けられる看護部を目指します。
 - ① あいさつの徹底と習慣化～接遇と管理観を磨き再び現場力へ
 - ② 確認の徹底とルール遵守
 - ③ 質の高い看護の提供
 - ④ 楽しい職場環境づくり

3. 【看護部の取り組み】

【認定取得】令和2年度

認定名	取得人数	累計
看護管理者 ファーストレベル	4人	53人
セカンドレベル		15人
サードレベル	0人	2人
医療安全管理者	1人	15人
医療クオリティーマネージャー（QM）	2人	3人
※認定看護師 （特定1名含む）	0人	11人

【地域における活動】

講師活動

- ・能代市、八峰町主催マミークラスにおけるベビータッチングケアの方法について講師活動
- ・しらかみ看護学院・認定看護師、講師活動
- ・秋田看護福祉大学（助産科）・講師活動、その他

看護学生実習

- しらかみ看護学院
- 秋田看護福祉大学（助産科）
- 日本赤十字秋田看護大学
- 東北福祉看護学校

新型コロナワクチン集団接種活動

能代市・二ツ井・三種町・八峰町・藤里町

【新任看護師長のメンタル支援（PNS）】

新任師長のメンタル支援（PNS） 年間計画		
月	アクション	
4月	- 先師長とのペアリング - 年間パートナーの決定	パートナー信頼カード作成
9月	- ペアリング後 6ヶ月 - 新任師長へ応援メッセージを贈る	先師長から新任師長へ応援メッセージの作成（評価・課題を踏まえたメッセージ）
12月	- ペアリング後 9か月 - 新任師長へ応援メッセージを贈る	
2月	- 先師長へ感謝メッセージを贈る - 来年度に向けて今年度の振り返りと検討	新任師長から先師長へ感謝メッセージの作成（評価・課題を踏まえたメッセージ）



中央手術部

文責 渡部 幹子

【スタッフ紹介】

麻酔科医師（非常勤）：4名

松本 純一 中澤 健二 東海林 圭

今井友佳子

看護師長：2名

看護副師長：1名

看護主任：2名

看護師：13名

看護補助者：2名

クラーク：1名

計25名



【コロナ陽性手術患者対応シミュレーションの様子】



【手術部紹介】

令和3年度は1765件の手術が行われました。
うち、全身麻酔件数は1268件でした。

師長2名の体制下で令和3年度がスタート。
新型コロナウイルスの感染収束の見通しがつかない社会情勢のもと、感染対策、医療資源の確保、スタッフの行動制限、人員確保など依然、厳しい状況が続きました。医師・スタッフの協力により、前年度を141件上回る手術件数となりました。また、来るべき時に備え、コロナウイルス陽性手術患者の対応シミュレーションをICU・手術部・産婦人科病棟・小児科病棟と合同で行いました。

院内看護研究は、コロナ禍の面会制限下で、出産直後の母子対面写真を撮影して贈る事で、患者・家族の出産場面での不安の緩和と満足度向上、また帝王切開の看護の向上に繋げるため、令和4年度の発表に向けて、2年越しで取り組んでいます。

【令和3年度～4年度院内研究発表】

コロナ禍での予定帝王切開に対する手術看護の検討(仮)

— 出産直後写真による満足度向上への取り組み —

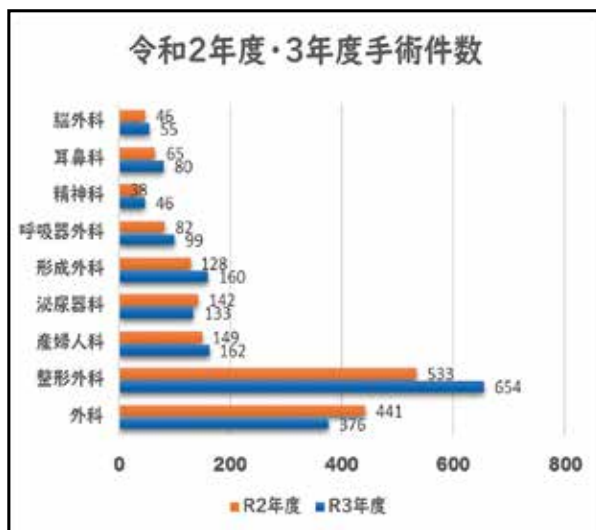
成田友香 梅田亜由美 高橋清佳 佐藤智子

【各診療科手術件数・全身麻酔件数】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

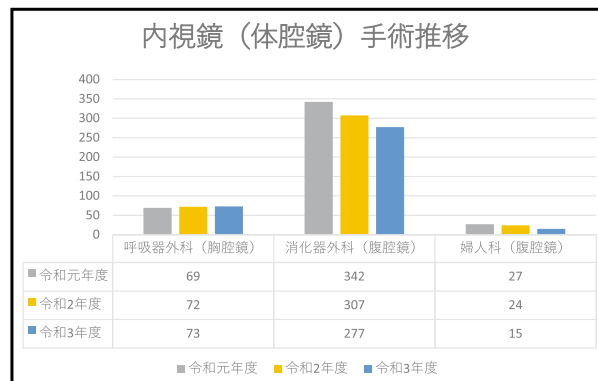
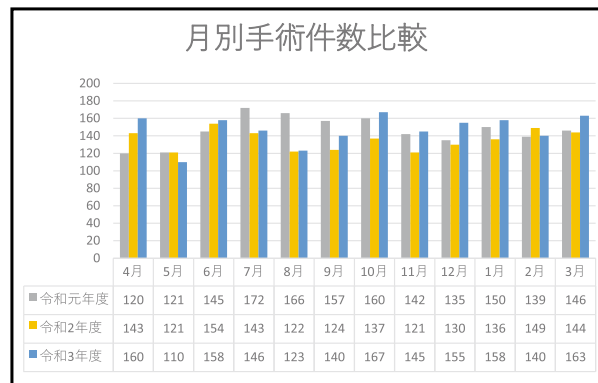
診療科	手術件数	全身麻酔件数
外科	376	340
整形外科	654	471
産婦人科	162	140
泌尿器科	133	106
形成外科	160	3
呼吸器外科	99	84
精神科	46	46
耳鼻科	80	54
脳外科	55	24

【手術件数推移】



【部署目標】

1. 地域中核病院として、安全で安心な医療を提供する
2. チーム力を強化し、楽しくやりがいのある手術室環境作り
 - 1) 顧客の視点
 - ①患者満足度の向上：接遇の向上
 - 2) 財務の視点
 - ①病院収益の確保：術後コスト入力管理
 - 3) 内部プロセスの視点
 - ①安全な周術期看護の提供：医療事故防止、手術・麻酔によるリスク予防
 - 4) 学習と成長の視点
 - ①楽しくやりがいのある手術室環境づくり：働き続けられる環境の提供



3 B 病棟

文責 佐藤 明子

【スタッフ紹介】

精神科医師 4 名
 看護師長 1 名、看護副師長 2 名
 看護主任 2 名、看護師 14 名
 准看護師 2 名、看護補助者 3 名
 作業療法士 1 名、精神保健福祉士 1 名
 計 30 名

【病棟紹介】

3 B 病棟は病床数 60 床の精神科病棟で、保護観察室 2 床と施設可能な個室 3 床を有する閉鎖病棟です。平成 29 年 11 月より 13 対 1 看護体制を取得しています。精神科救急医療システムの地域拠点病院として能代山本・北秋圏の精神科救急医療を担っており、夜間休日緊急入院にも対応しています。うつ病、双極性障害、統合失調症、認知症、神経症、アルコール依存症、オーバードーズなどの患者さんへ入院治療を行っています。統合失調症の薬物難治例や精神症状の強いうつ病患者に対して修正型電気けいれん療法（m-ECT）を麻酔科医管理のもとで行なっています。

最近では、認知症の周辺症状が悪化し、施設での生活が困難で入院される患者が増加しました。従来の精神科疾患に加え、高齢の認知症患者の看護にも奮闘する毎日です。身体合併症を持つ方も多く一般科との協力が欠かせません。コロナ禍で面会できない状況が続く中で、オンライン面会だけでなく、荷物の受け渡しの際に患者の近況を伝えるなど家族の気持ちを思いやる看護の提供を目指しています。

【多職種連携・カンファレンス】

患者さんの社会復帰を目指し、急性期から退院後を見据えた継続的な支援を行っています。家族や患者自身の希望を考慮しながら退院後の生活・療養の場を検討しています。

退院支援カンファレンス	毎週月曜日
入院時ケースカンファレンス	毎週月曜日
行動制限最小化委員会	第 4 月曜日

【病棟実績】

令和 3 年 4 月から令和 4 年 3 月

病床稼働率	79.6%
平均在院日数	58.2 日
修正型電気けいれん療法（m-ECT）	46 件

【病棟目標】

1. 医療・看護の質を向上させ、安心安全な療養環境を提供する。
2. 13：1 体制を維持し、多職種と連携し、個性のある医療・看護を提供する。
3. まあるい心 まあるい笑顔 まあるい言葉で働き続けられる職場環境の発展を目指す。



（多職種連携を大切にしています！☆）



精神科作業療法室

文責 石川 周

【スタッフ紹介】

作業療法士 1 名

【業務内容】

対象は 3 B 病棟へ入院中の急性期～慢性期の患者で医師からの処方により実施されます。

病棟内と精神科作業療法室を中心に集団で作業活動を行い、基本的な生活リズムの改善や気分転換、対人関係能力・社会性の向上、集中力・耐久性の向上、作業遂行能力の向上、自己能力の確認、自身の獲得などを目標に日々のプログラムを実施していきます。

- ・創作活動：ぬりえ、スクラッチアート、編物、ハーバリウム、プラ板アクセサリ作りなど
- ・調理活動：話し合いでメニューを決め月 2 回実施
- ・体操、ウォーキング
- ・脳トレ
- ・個々の状態に合わせた個別リハビリテーション

精神科デイケアとの連携も図っており、入院中にデイケアのプログラム見学や体験、デイケアスタッフとの顔合わせを実施し、退院後スムーズにデイケアが利用できるように支援を行っています。

2021年10月より 3 B 病棟精神科作業療法は諸事情により活動を休止しております。

【令和 2 年度活動実績】

	件 数	単位数	収 支
年間合計	903	598	¥1,315,600
平 均	75	49	¥109,633



4 A病棟（地域包括ケア病棟）

文責 田口 玲子

【スタッフ紹介】

看護師長 1 名 副師長 1 名 主任 2 名
看護師 17 名 看護補助員 6 名
看護クラーク 1 名



【病棟紹介】

急性期の治療が終了し、病状が安定した患者さんに対し在宅復帰に向けて、リハビリや退院支援を行うことを目的とした病棟です。医師、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー等が協力して、患者さんご家族の退院支援、調整をサポートしています。その人らしい暮らしを最後まで続けられるように取り組んでおります。直接入院では、手術の短期入院等や、レスパイト入院の受け入れも行っています。

【看護活動】

複数の診療科の患者さんに対応するため、スタッフは専門的な知識習得のため、学習会を開催しスキルアップを図っています。看護補助員と協力して、清潔ケアの充実にも力を入れています。

当病棟においては高齢の患者さんが多く、様々な疾患と退院困難な背景を抱えているため、個々に合わせた退院支援が必要とされています。病棟スタッフと多職種部門が連携して情報交換、情報共有をするため定期的な多職種カンファレンスを実施しています。患者さん・ご家族が満

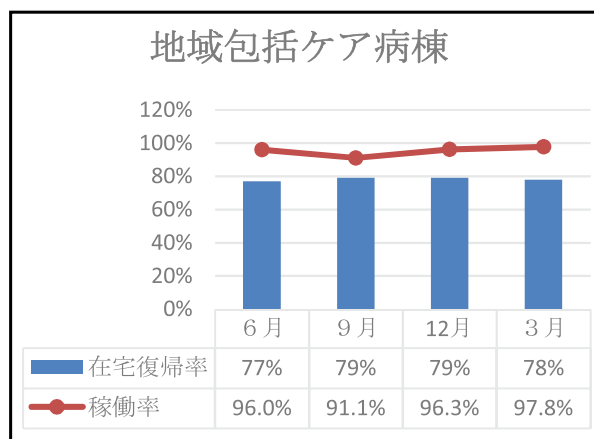
足して納得して退院や転院ができるような関わりを心掛けています。

【病棟目標】

1. 確認の徹底による安心・安全な医療と看護の提供
2. 患者の求める療養環境の提供と接遇向上
3. 地域包括ケア病棟として病院経営参画
4. 専門性の向上と人材育成

【令和3年度実績】

◇病棟稼働率と在宅復帰率



◇クリニカルラダー取得：1名

◇病棟学習会・伝達講習会：18回

◇院内研究

地域包括ケア病棟における多職種間の効果的な情報共有の検討

三浦栄里子、石井由美子、佐々木琢真、館岡陽香



5 A 病棟

文責 千葉 愛

【スタッフ紹介】

整形外科医師 6 名 小児科医師 2 名
皮膚科医師 2 名
看護師長 1 名 看護副師長 1 名
看護主任 2 名 看護師 23 名
看護補助者 3 名

＝資格・研修修了者＝

N C P R（新生児蘇生法）取得者：10 名
東北ストーマリハビリテーション講習会：1 名
ストーマリハビリテーション（リーダーシップコース）講習会：1 名
下部尿路症状の排泄ケア講習会：1 名
看護職員認知症対応力向上研修：6 名
J P T E C プロバイダーコース：1 名
秋田県 C B R N E 災害対策医療責任者：2 名

【病棟紹介】

整形外科、小児科（うち未熟児室 4 床）、皮膚科の計 50 床の混合病棟です。

0 歳から 100 歳以上まで入院されています。急性期、周術期を担っています。

整形外科は、運動器（関節・骨・筋肉・腱・靱帯や神経）疾患や外傷の患者が多く入院されています。入院生活を送る上で、日常生活動作の援助を必要とする患者がほとんどであるため、患者のニーズに合わせた看護ケアを行っています。多職種と連携し、スムーズに地域へ帰れるよう努めています。

皮膚科は、アナフィラキシーショックや帯状疱疹、蜂窩織炎、皮膚創傷処置や輸液管理を行っています。

小児科は、0 歳から中学生までを対象とし、能代山本で唯一の未熟児室を有しています。発達段階を踏まえた看護ケアと不安を抱えている家族へ寄り添う家族ケアに力を入れています。

【病棟目標】

1. 安全で質の高いチーム医療・看護を提供します。
2. 誰にでも優しい態度で対応し、働きやすく楽しい職場を目指します。

【実績・活動報告 等】

令和 3 年度

入院延べ人数	15,034 人
平均在院日数	14.6 日
病床稼働率	82.1 %
パス使用率	整形：97 %
	皮膚：33 %
	小児：83 %

手術件数 総数：606 件

主な疾患の手術件数

股関節・大腿近位の骨折	91 件
椎間板変性、ヘルニア	39 件
腰部脊柱管狭窄症	32 件
骨粗鬆症・胸腰椎骨折	28 件



プレイルーム



未熟児室

5 B 病棟

文責 田口 知子

【スタッフ紹介】

産婦人科医師 4 名 看護師長 1 名
看護副師長 1 名 看護主任 2 名
助産師 20 名 看護師 5 名
准看護師 1 名 看護補助者 2 名

計 28 名

【病棟紹介】

コロナ禍にも関わらず、当院の分娩数は2020年とほぼ同数でした。2020年より産後うつやの早期発見や新生児への虐待予防を図る目的で、産後2週間健診が開始され、妊娠中から産後までの切れ目ない専門的継続ケアを実施しています。地域連携による母子支援では、要支援妊産婦の情報交換と産後ケア事業を実施しています。また婦人科腫瘍の化学療法と手術にも力を入れています。さらにレディース科として多様なニーズに対応するため、多職種カンファレンスを実施し、チーム医療の提供を図っています。

【診療実績・活動報告】

表 1. 2021 年 化学療法・手術内訳

	2021 年
化学療法（件）	192
産婦人科手術（件）	205

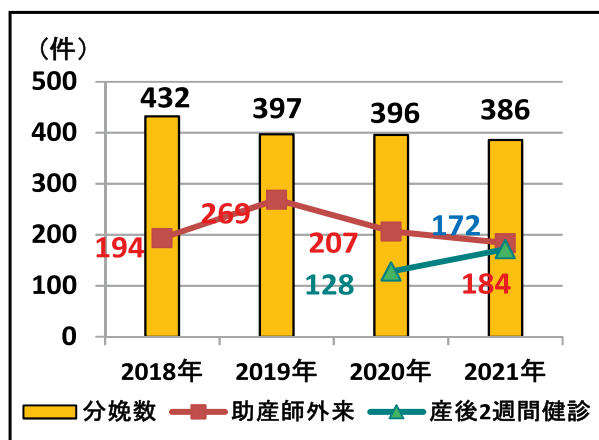


図 1. 分娩・助産師外来・2 週間健診数

【病棟目標】

1. 「確認の徹底とルール遵守」により 0 レベルレポート提出推進し安全文化の定着を目指します。
2. 接遇力を磨き患者満足度の向上を図ります。
3. 質の高い医療の提供に取り組み専門職として学び続けます。



《学会発表》

第70回 日本農村医学会
「産後ケア事業に関する褥婦の意識調査から考える母子支援」

《講習会実施》

令和 3 年 11 月 新生児蘇生法（NCPR）講習会
25 名受講（院外受講者含む）

《地域活動》

「命の出前講座」
能代市の小学校へ 1 回／年
（コロナ禍のため例年より縮小）

「ベビータッチングケア」
能代市、山本郡の母子へ 4 回／年

6 A 病棟

文責 北嶋 清子

【スタッフ紹介】

循環器科医師 5 名 泌尿器科医師 3 名
看護師長 1 名 看護副師長 2 名
看護主任 1 名 看護師 23 名
看護補助者 3 名

【病棟紹介】

6 A 病棟は循環器内科、泌尿器科 48 床の混合病棟です。

循環器内科では心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈、洞不全症候群、閉塞性動脈硬化症、心筋炎、肺塞栓症などの疾患を治療しています。P C I、心臓カテーテル検査、ペースメーカー埋め込み・ペースメーカー電池交換術、体外ペースメーカー、下大静脈フィルター留置術、下肢動脈治療などを行っています。泌尿器科は、排尿障害、尿路感染、尿管結石、腎不全、悪性腫瘍などの疾患を治療しています。前立腺生検、前立腺、膀胱などの手術、尿管ステント挿入・交換、体外衝撃波結石破碎術、シャント造設術、悪性腫瘍に対する放射線療法などを行っています。

生命維持装置装着、I A B P 療法、手術後管理など高度な急性期看護を必要とする患者様へ対応しながら、高齢者・認知症の患者様への早期退院へ向けた退院支援を多職種と協働し行っています。

【診療実績】

令和 3 年度内訳

循環器	P C I	80 件
	心臓カテーテル検査	210 件
	ペースメーカー植え込み	35 件
泌尿器	前立腺生検	36 件
	手術件数（全身麻酔）	94 件

【病棟目標】

1. 信頼される医療と質の高い看護を提供します。
2. 患者満足度、職員満足度の向上を目指します。

【小集団活動】

- ・勉強会チーム：医療機器の知識及び専門的な看護が共通理解されるよう医師・ME の協力を得ながら病棟勉強会を積極的に行った。年間 12 回実施。
- ・業務改善チーム：K Y T 実施。業務効率化に向けた業務改善、泌尿器科パスの見直し。循環器 A C S 疾患パンフレットを作成。
- ・接遇チーム：病棟内の環境整備、季節ごとの癒しの空間作りを行った。笑顔と挨拶促進運動を実施。

【カンファレンス】

高齢化社会に合わせ、入院時から患者・家族の希望する退院支援を確認しています。週 1 回多職種と退院支援カンファレンスを行い、円滑な退院を目指しています。



退院支援カンファレンスの様子

【看護研究】

院内看護研究発表会（令和 3 年 11 月）

「経皮的冠動脈形成術の術前 O J T 実践による看護師への効果」

発表者：平川由美子

メンバー：木藤 愛美

三戸 奏

日諸小百合(救急ナースセンター)

6 B 病棟

文責 野呂江津子

【病棟概要】

主診療科：呼吸器内科 呼吸器外科

耳鼻咽喉科

ベッド数：46床

スタッフ：呼吸器内科医師 2 名

呼吸器外科医師 2 名

耳鼻科医師 2 名

副看護部長 1 名 看護副師長 1 名

看護主任 2 名 看護師 21 名

准看護師 1 名 看護補助者 3 名

【病棟紹介】

6 B 病棟では、主に肺がんや喉頭がんなどの悪性腫瘍に対する内視鏡検査や外科的治療、化学療法、放射線治療、終末期の緩和医療、さらに呼吸器領域における感染症の治療を行っております。

また、低圧持続ドレナージ療法、高流量酸素療法や非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）、在宅酸素療法導入等を行っており、呼吸器リハビリテーションにも力を入れております。

【主な多職種連携】

退院支援：多職種カンファレンス

（医師、薬剤師、退院支援看護師、

社会福祉士、理学療法士、栄養士）

〈毎週木曜〉

緩和医療：緩和ケアチーム回診〈毎週水曜〉

排尿：排尿ケアチーム回診〈毎週木曜〉

褥瘡：褥瘡回診〈依頼時〉

精神：リエゾン回診〈依頼時〉

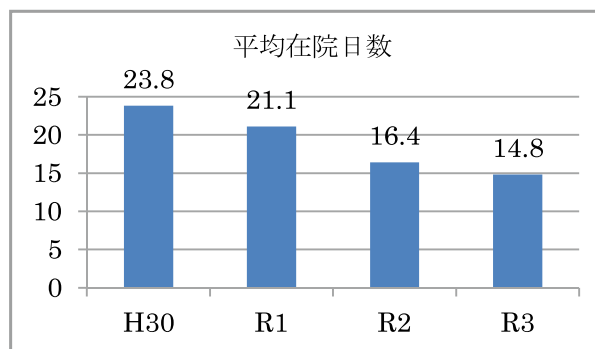
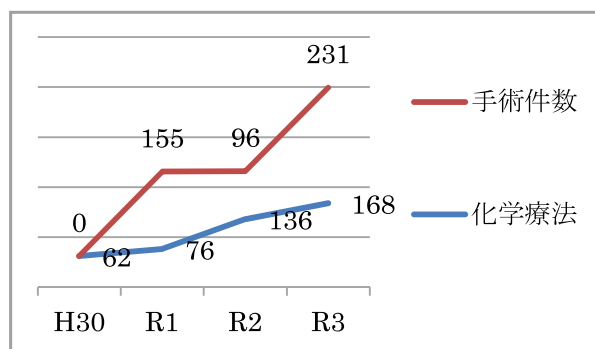
栄養：NST回診〈依頼時〉

【病棟目標】

1. 安全に対する意識を高め、信頼されるチーム医療の推進
2. 共に支え合い成長できる 6 B 病棟

【令和 3 年度実績】

病棟稼働率	81.9%
平均在院日数	14.8日
化学療法延べ患者数	168名
放射線療法患者数	24名
手術件数	231件



【看護研究】

テーマ「コロナ禍における看取りについてデスカンファレンスを通じた看護師の思いの変化」



7 A 病棟

文責 竹嶋 純子

【スタッフ紹介】

脳神経外科医師 2 名 消化器内科医師 4 名
 看護師長 1 名 看護副師長 1 名
 看護主任 2 名 看護師 21 名
 准看護師 1 名 看護補助者 2 名
 看護クラーク 1 名

【病棟紹介】

7 A 病棟は、脳神経外科 20 床、消化器内科 28 床の混合病棟で、学童期から老年期までの幅広い年齢層の患者が入院しています。

脳神経外科は脳卒中や脳血管疾患、外傷、悪性腫瘍の検査・手術・治療を必要としている患者を対象としています。救急搬送が多く、95%が緊急入院で緊急・予定手術を行っています。消化器内科は、急性期疾患、悪性腫瘍の手術・検査・治療、及び終末期で緩和ケアを必要としている患者を対象としています。内視鏡検査や予定手術入院だけでなく緊急入院も多く、緊急検査・治療を実施しています。

入院時より退院後を見据えて患者や家族の思いに寄り添いながら、早期退院が出来るように多職種カンファレンスを実施しています。必要なニーズを把握して医師・入退院支援センター看護師、薬剤師、栄養士、理学・作業・言語療法士、社会福祉士、認定看護師、医事課などが連携し、希望に添えるようチーム医療や患者サービスの提供に努めています。



【診療実績・活動報告】

令和 3 年度

平均在院日数	13.4 日
病床稼働率	84.1 %
脳外科 手術件数	62 件
消化器 内視鏡検査 (外来分含む)	2876 件

【病棟目標】

1. 笑顔であいさつができ、やりがいのある楽しい職場風土の醸成
2. 安心・安全で質の高い看護の提供
3. 急性期病棟看護師として自律性を発揮できる人材育成
4. 適正な労働管理

【学会発表・論文・講演実績・研修会など】

院内看護研究発表

脳血管疾患患者に対する安全な食事介助への取り組み

○中川 大幹 大山 繭子
 畠山 葵 小林明日香



7 B 病棟

文責 佐藤ひとみ

【スタッフ紹介】

外科医師 3 名 血液・腎臓内科医師 3 名
 看護師長 1 名 看護副師長 1 名
 看護主任 2 名 看護師 24 名
 看護補助者 3 名

【病棟紹介】

7 B 病棟は外科と血液・腎臓内科で構成する定床数49床の混合病棟です。外科手術は約80%を腹腔鏡下で実施しています。低侵襲で術後の早期離床に繋がっています。血液・腎臓内科は化学療法・輸血療法・パルス療法などを提供しています。多職種・認定看護師と協働したチーム医療で、質の高い医療提供を実践しています。

【診療実績・活動報告】

外科

令和3年4月～令和4年3月：手術症例内訳

	症 例 数	腹腔鏡下手術
胃	38	20
肝 臓	8	8
胆 の う	79	70
大 腸	46	46
直 腸	17	16
乳 腺	12	—
膵臓ヘルニア	49	48

血液・腎臓内科

令和3年4月～令和4年3月

	症例数
無菌室利用率	64%
骨髄穿刺件数	80件
腎生検件数	2件

【病棟目標】

1. 専門性を高め、安心安全な看護と療養環境を提供します。
2. 優しさと思いやりのある接遇を提供、患者さんの思いを大切にします。
3. ワークライフバランスの充実を図り、自己成長を目指します。



【病棟勉強会】

ME 機器について



委

員

会

医療安全管理委員会

委員長 松井 俊彦

【設置目的】

能代厚生医療センターにおける医療事故の発生の防止を目的とし、医療安全管理体制を確保し、推進するために、医療安全管理委員会を設置している。

【委員構成】

委員長 松井 俊彦

委員 病院長、事務長、看護部長、各部署の責任者、医療安全管理者

【活動内容】

1. インシデント及びアクシデント事例の原因分析並びに事故防止対策の検討及び提言に関すること
2. 院内の医療事故防止活動(教育・啓発・広報等)及び医療安全に関する職員研修の企画立案・実施
3. 医療事故防止のための情報・資料の収集
4. 安全管理のための指針・マニュアルの策定、見直し
5. その他、医療安全の確保に関する事項

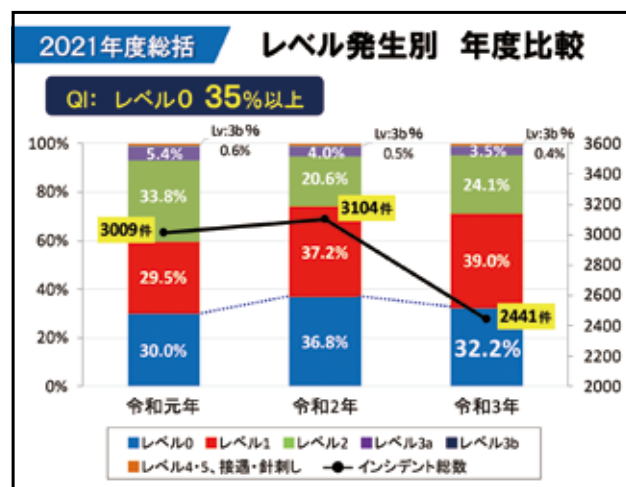
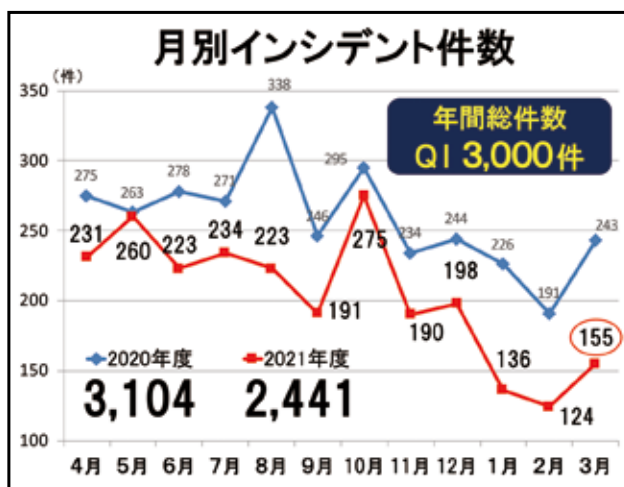
【活動報告・実績】

2021年度 医療安全目標 確認の徹底とルール遵守

○インシデント年間報告件数とレベル別割合

インシデント年間報告件数は、2,441件でした。前年度より663件減少したが、たくさんのインシデント報告をいただきました。

2022年1月から、未然に防いだ事例報告を不要とし、インシデント報告件数とレベル0の報告数が減少したと考えています。今後も確認の徹底とルール遵守により、患者影響の低いレベルで食い止められるよう働きかけを行います。



2021年度 医療安全管理研修会実績

全職員受講必須研修受講率 **100%**

※No.1、2は職員必須研修

No	開催月日	テーマ	担当部署	参加人数
1	5月24日 ～6月30日	eラーニング「セーフティ・プラス」受講 患者誤認防止について	医療安全管理委員会	741名
2	7月1日 ～7月31日	eラーニング「セーフティ・プラス」受講 院内緊急コール ～99番コール・Bコールが発生したら～	医療安全管理委員会	736名
3	11月17日	頑張ってます業務改善 ～院内発表会～	医療安全管理委員会	47名
4	12月6日 ～1月31日	eラーニング「セーフティ・プラス」受講 病院における苦情対応 ～コミュニケーションリスクを考える～ 講師：SOMPOジャパン	医療安全管理委員会	544名

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、eラーニングを活用した研修を中心としました。『患者誤認防止について』『院内緊急コール～99番コール・Bコールが発生したら～』の必須研修は、医療安全管理委員会で作成し、受講していただいた。今後も職員が通常業務で必ず覚えていなければならない内容を中心に、意欲・興味を持てるような研修を企画していきたいと考えています。

研修会報告

11月17日（水） 16：30～17：00
頑張ってます業務改善
〈第6回 院内発表会〉

参加者 47名

7部署 発表内容

- ◆3B病棟：配薬準備環境の標準化を図る
- ◆5B病棟：違う患者から採血をした事例のKYTの実施
- ◆6B病棟：☆SBARで報告しよう☆
- ◆7B病棟：医療安全マニュアル言ってQパート2
- ◆手術室：外来手術患者の手術部位（左右）違いインシデント防止の取り組み
- ◆ME：人工呼吸器の機種統一
- ◆健診センター：患者誤認防止対策

どの部署も素晴らしい発表でした。



電子カルテ「掲示板」でも
7部署の発表内容が
確認できます。

各部署より 医療安全対策室



医療安全対策室では
SBARを取り入れた
口頭伝達用紙を採用し
運用することに決定！

口頭指示マニュアル
追加

業務改善発表会は、毎年『医療安全推進週間』である11月に開催しています。自部署又は他部署でも活用できる内容や継続して実施できる内容を発表してもらい、安全文化の醸成と改善活動への意識の維持向上に努めています。

☆今後も医療安全目標『確認の徹底とルール遵守』を院内全体に定着させ、患者・自分自身・仲間を守るための医療安全活動に取り組んで参ります。

研修管理委員会

委員長 久保田 均

【委員会スタッフ紹介】

院内、院外、多くの皆さんにご協力頂いており、委員会名簿は当院ホームページの「臨床研修案内」を参照されたい。

【委員会紹介・概要】

当委員会は、初期臨床研修に関する諸問題を解決することにより、研修体制と研修医指導を充実させることを目的としている。委員会開催は年3回であるが、委員会で提案・討議・承認された臨床研修に関する決定事項・研修医指導は、カンファレンス、講義等により年間を通して行われる。

研修医評価の内容など、個人情報の詳細は割愛する。

【委員会活動実績】

《研修管理委員会 討議内容》

今年度は研修管理委員会を3回（2021年4月21日、11月30日、2020年3月16日）開催した。繰り返し確認や討議を行った事項もあり、3回分の討議内容の要旨をまとめて記す。

毎回初期研修医1名も参加して行われた。

1、2020年度初期研修医の紹介

1) 一年次 当院採用

- ①文永 徹 秋田大学、②垣見和亨 岩手医科大学、
③齊藤 志 岩手医科大学、④中川健治 帝京大学

50音順

2) 二年次 当院採用

- ①臼谷 桃 秋田大学、②内田 旬 岩手医科大学、③工藤健太郎 秋田大学、
④鈴木陽子 秋田大学、⑤松本陽平 岩手医科大学

50音順

・尚、例年たすき掛けで研修医が研修に来ているが、コロナ禍のためもあり今年度はいなかった。

2、2021年度初期研修について

1) 2020年度研修スケジュール（資料1）

・たすき掛け研修について

- ・臼谷 桃：5月：秋田大学精神科、6月：JCHO秋田病院 地域医療、8月：秋田大学糖代謝科、2月：秋田大学精神科
・内田 旬：9月JCHO秋田病院 地域医療
・工藤健太郎：8月JCHO秋田病院 地域医療
・鈴木陽子：4月JCHO秋田病院 地域医療、6－7月、1－2月：秋田大学眼科
・松本陽平：10月JCHO秋田病院 地域医療、12月：秋田大学救急科

以上、承認された。

2) 新採用研修医 オリエンテーションスケジュールを報告

3) 教育プログラム

- (1) 当院指導医による講義：講義予定を提示
(2) 救急外来カンファレンス、画像カンファレンス

以上、これまで通り実施。

(3) 外部講師による講義、講演会、講習会

- ・秋田大学医学部附属病院救急部准教授 奥山 学先生
2021年6月19日、8月21日、12月7日；救急外来実地指導、救急診療に関する講義
10月16日；J P T E C ミニコース
- ・秋田大学医学部小児科 高橋 勉教授
2021年11月21日、「小児虐待について」

4) 確認事項など

(1) レポート提出について

2020年度採用者から新プログラムで研修するため、新たなレポートチェック体制が開始されている。

(2) 時間外救急研修について

- ・研修医の救急日直当直に対する上級医からのフィードバックの不足の指摘と希望があり、研修医の教育、診療スキルの向上とともに医療安全の面からも下記の内容が追加されている。

① 2年次研修医；担当した副直の上級医が当該業務の終了時にフィードバックを行う。

当直時；8：00～9：00の任意の時間に10～15分程度。

日直時；16：30～17：30の任意の時間に10～15分程度。

ただしフィードバック時間に診療すべき患者がいる場合は必須ではない。

② 研修医が専門医からのフィードバックを希望した場合、その内容を当該科へ書類で提出し、返答をもらう。

3、新型コロナ（対策）の影響について

新型コロナの状況により以下の予定に変更が生じる場合があり、対応については院長、プログラム責任者、副プログラム責任者に一任。

1) 採用試験の日程：例年7月下旬～8月下旬

2) たすき掛け研修の依頼、受け入れ

3) マッチングスケジュール

4) 合同病院説明会、各種研修会

例年行われている行事が「新型コロナ感染症対策」により中止orオンラインでの実施となった。

- ・レジデントスキルアップキャンプ；2021年11月26日、2022年3月18日（秋田県主催）

秋田県の研修医が70名程度参加

当院参加者：1年次研修医、久保田

例年サンルーラル大潟において1泊2日で行っているが、今年は「新型コロナ感染症対策」のためon lineにて施行された。

4、2019年度研修状況（研修評価）の報告

1) 研修医評価

- ・当院採用

一年次：①文永 徹、②垣見和亨、③齊藤 志、④中川健治

二年次：①臼谷 桃、②内田 旬、③工藤健太郎、④鈴木陽子、⑤松本陽平

1～3回各研修管理委員会開催時における履修状況、研修実績、各方面からの研修評価を、毎回資料を提示して報告した。個人情報なので詳細は割愛する。

二年次研修医5名は、初期臨床研修修了と認定された。

2) 研修医から指導状況・研修環境への評価

指導評価、研修環境評価ともに「満足」がほとんどで、「どちらかと言えば満足」、「適切」あり。

研修環境評価において、一部「症例検討会・講習会など教育システム」が少なすぎる、「経験症例が少なすぎる」あり。

詳細は割愛する。

5、2022年度初期研修医 採用状況について報告

1) 2022年度採用試験受験状況 1名受験

2) 2022年度採用者 なし

6、学生見学状況について報告

2020年3月以降2021年12月までは「新型コロナウイルス感染症対策」として秋田大学、岩手医科大学のみ受け入れた。

2022年1月以降は他大学の学生にも解禁しているが、コロナ感染状況をみて中止、延期している。

【病院説明会 実施状況】

1) 秋田県臨床研修病院合同説明会；5月、9月、12月、3月；on line開催

2) レジナビ合同病院説明会；例年参加している説明会は、2020年3月以降、「新型コロナウイルス感染症対策」により中止、不参加となった。

【学会発表、研究会など各種発表、論文発表】

《学会発表、研究会など発表》

①鈴木陽子

原発性硬化性胆管炎に合併したと考えた胆管癌の一例

秋田県消化器リモート研究会、2020.8.28

②松本陽平

つかえ感で来院し、EUS-FNAをした食道巨大粘膜下腫瘍の一例

秋田県消化器リモート研究会、2020.8.28

③内田 旬

化膿性脊椎炎の抗菌薬治療における最近の取り組み

秋田県県北医会、2021.10.16

④中川健治

尿路感染が原因の高アンモニア血症で意識障害を来した1例

日本内科学会東北支部主催第225回東北地方会、2022.2.19

初期研修医プレナリーセッション若手奨励賞 受賞

薬事委員会

委員長 太田原康成
文 責 木村 正行

【スタッフ・メンバー紹介】

	氏 名		氏 名		氏 名
委員長	太田原 康 成		齋 藤 英 知		外 山 はな子
	松 井 俊 彦		矢 島 晴 美		松 田 眞 吾
	佐 藤 毅		藤 島 裕 耕	事務局	木 村 正 行
	藤 島 直 仁		木 村 州 孝	事務局	佐々木 真 則
	眞 山 一 郎		近 野 勇 樹	事務局	工 藤 直 嗣
	金 田 浩 人		西 成 悠	事務局	佐 藤 元 彦
	松 崎 郁 夫		小 峰 直 樹	事務局	高 橋 秀 光
	江 戸 雅 孝		岩 間 孝 英	事務局	伊 藤 佑 樹

令和3年度は出荷調整がほとんどの後発メーカーより発信された。医薬品の採用に関して、安価より安定供給を重要視せざる負えない状況となった。医薬品費は前年度対比で137,436千円増加となっております。昨年度の新型コロナウイルスによる患者数の減少が回復したことが要因と考えられます。

内服薬については、前年度と比較し分子標的治療薬（ニンラーロ）の使用量が減少となったものの、抗悪性腫瘍用剤（ベネクレクスタ）等の使用量が増加しております。

注射薬については、前年度と比較しホルモン剤（リュープリンPRO）が供給制限の影響で用量が減少モノクローナル抗体（ファセンラ）は患者減少により減少となったものの、分子標的治療薬（ダラキューロ・ベクティビックス）、代謝拮抗剤（ビダーザ）等の使用量が増加となっております。

●新規採用薬品数

剤 形	区 分	件 数	
内 服		25	38
	後発品	13	
外 用		5	5
	後発品	0	
注 射		17	35
	後発品	18	
合 計		47	78
	後発品	31	

●新規採用院外採用薬品数

剤 形	件 数
内 服	25
外 用	2
注 射	32
合 計	59

●採用削除医薬品数

剤 形	区 分	件 数	
内 服		12	25
	後発品	13	
外 用		1	2
	後発品	1	
注 射		15	32
	後発品	17	
合 計		28	59
	後発品	31	

職員衛生委員会

委員長 松崎 郁夫

【メンバー紹介】

	役 職	氏 名	所 属
1	委員長（産業医）	松 崎 郁 夫	診療部長
2	衛生管理者（組合員）	木 村 正 行	薬剤長
3	衛生管理者（組合員）	高 橋 紀美代	保健師 看護師長
4	衛生管理者（組合員）	石 井 美保子	保健師 主任
5	衛生管理者（組合員）	田 村 博 美	保健師
6	委員	山 崎 智 子	保健師
7	委員	太田原 康 成	院長
8	委員	日 沼 ゆかり	看護部長
9	委員	松 田 眞 吾	事務長
10	委員	伊 藤 浩	放射線科 技師長
11	委員	松 橋 忠 昭	放射線科 副技師長
12	委員（組合員）	高 橋 美 香	栄養科 技師長
13	委員（組合員）	渡 部 昌 子	医療安全管理者 看護副部長
14	委員（組合員）	菅 原 俊 子	感染対策認定看護師 主任
15	委員	遠 藤 誠	保健活動室 係長
16	委員（組合員）	田 中 富三男	労組書記長
17	委員（組合員）	藤 田 奈緒子	臨床検査科 主任
18	委員（組合員）	齊 藤 知 裕	精神科 臨床心理士
19	事務局	小 松 浩 樹	総務管理課 事務次長
20	事務局（組合員）	児 玉 零	総務管理課

【部 門 紹 介】

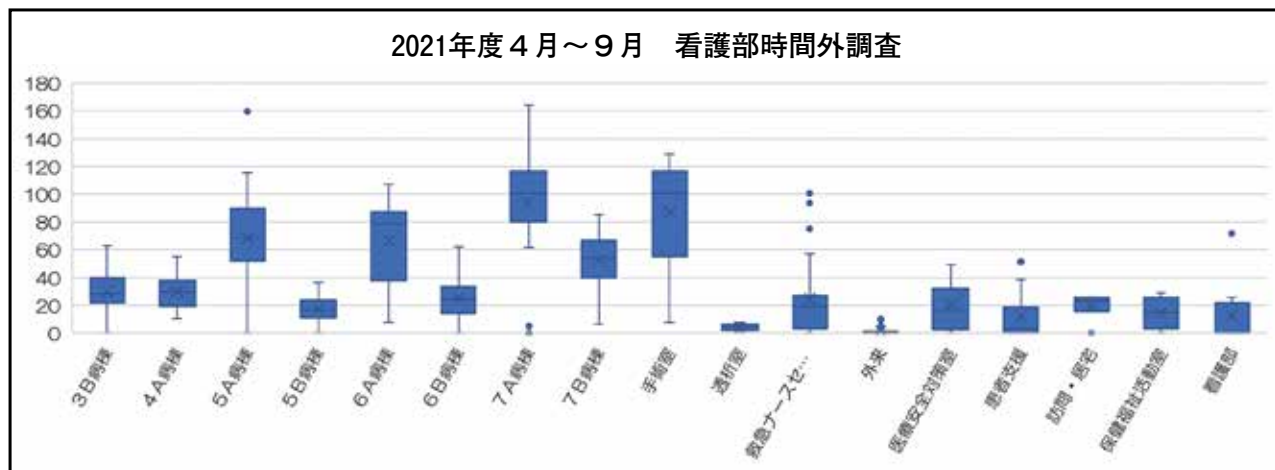
職員衛生委員会は、職場環境の向上や従業員の健康維持・改善を目的として設置され、定期的な開催を通じて様々なテーマで実施しております。令和2年度は、毎月計12回開催いたしました。職員の禁煙指導をはじめ、超過勤務者や高ストレス者に対し産業医、公認心理士、保健師による面談を実施しました。今後も、職員の健康を守るため活動していきます。

【主な活動内容】

・ 過重労働対策

職員の労働時間の把握や長時間労働者の健康確保対策実施のため、部署毎の時間外労働実態を部署毎にまとめ報告しています。また、長時間勤務者に対して、産業医、公認心理士、保健師による面談を実施しています。

①超過勤務調査



②個人面談

実施者：医師、公認心理士、保健師が対象となった職員を個別で面談。

面接内容：①K10（抑うつ不安尺度調査）を実施

②疲労感、体調聞き取り

③相談窓口紹介

6か月100時間以上、
1か月で36時間以上

医療職Ⅰ	1
医療職Ⅱ	0
医療職Ⅲ	8
事務職	0
計	9

・職員禁煙指導

当院は、敷地内禁煙を徹底しており、禁煙外来や健診などで患者さんを指導している立場である医療者側が率先して禁煙を行い、医療従事者としての自覚をもって健康管理を行うことが重要だと考えています。今後も職員の健康を守るためにも継続していきたいと考えています。

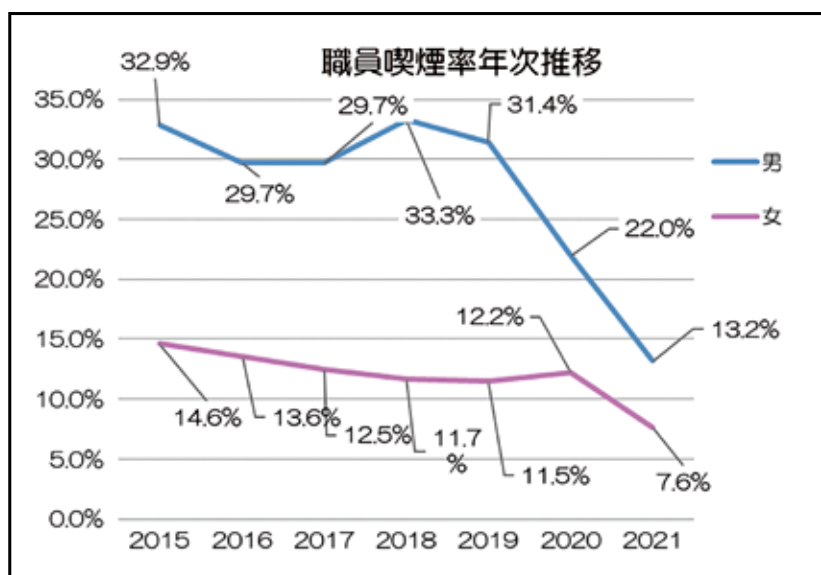
○禁煙指導実施

＜指導内容＞

①呼気一酸化炭素濃度測定

②指導内容

- ・状況調査
- ・ニコチン依存度・依存とは
- ・禁煙補助薬の説明
- ・禁煙外来のすすめ



・職員定期健康診断

年2回実施し、その結果は下記の通りです。

実施日	受診者数	健診内容	精検数	有所見率
8/23～8/27	215	胸部、心電図、採血、尿検査	45	20.9%
2/28～3/4	399	尿検査	58	14.5%
7月～12月	393	人間ドック（採血、眼底検査、心電図、各がん検診）	186	47.3%

・ストレスチェック

年1回実施し、その結果は下記の通りです。

実施日	対象者数	受診者数	高ストレス者
9月～12月	615	583（94.8%）	106（18.2%）

・時間外労働ラウンド

職員のためのプロジェクトと連携し、7月に時間外請求が適切に行えているかを確認のため各部署をラウンドしました。

医療ガス安全管理委員会

委員長 小峰 直樹

【設置目的】

病院及び患者を入院させるための施設を有する診療所（以下「病院等」とう。）の管理者は、医療ガス（酸素、亜酸化窒素、治療用空気、吸引、二酸化炭素、手術機器駆動用窒素等をいう。以下同じ。）に係る安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的として、医療ガス安全管理委員会を設置すること。※厚生労働省 通知「医療ガスの安全管理について」

【委員構成】

委員長 小峰 直樹

委員 放射線科、臨床検査科、臨床工学科、手術室、中央材料室、中央監視室、
事務部（資材設備課） 計9名

【職務】

医療ガス設備の保守点検業務、医療ガス設備の新設及び増設工事、部分的な改造、修理等の施工監理業務、医療ガスに係る安全管理のための職員研修等を行うこと。

【活動内容】

令和3年度は3月に2～4階病棟の他、感染症病棟等の医療ガス配管の保守点検を実施。また、今年度の医療ガス安全管理研修会はオンライン研修で3月に実施。

輸血療法委員会

委員長 波多野善明

【設置目的】

輸血療法を行なうには、複数の部門が関与することから、一貫した業務体制を構築する必要がある。従って能代厚生医療センター輸血療法委員会（以下『委員会』）を設置する。

【職務内容】

「輸血療法の実施に関する指針及び血液製剤の使用指針」の趣旨に沿い、院内の輸血療法に係る諸問題を検討し、随時開催する。

委員会は、次の事項について検討を行う。

- ① 輸血療法の適応および使用適正化の推進を図る
- ② 輸血関連の検査項目を協議する
- ③ 輸血実施体制に関すること
- ④ 輸血用血液及びアルブミンの使用、保管状況を把握
- ⑤ 輸血療法に伴う事故、副作用および合併症対策に関すること
- ⑥ 自己血輸血の管理及び実施方法に関すること
- ⑦ 輸血部門業務の確認に関すること
- ⑧ 院内輸血監査チームで、適正輸血を推進するため監査を実施する
- ⑨ 職員へ輸血療法に関する啓蒙と技術支援を行う
- ⑩ その他の輸血療法に関すること

【輸血療法委員会委員】

	職 種	所 属	氏 名	備 考
委員長	医 師	血液・腎臓内科	波多野善明	輸血責任医師(令和3年9月まで)
委員長		血液・腎臓内科	藤島 直仁	輸血責任医師(令和3年10月より) 日本輸血・細胞治療学会認定医
副委員長		産 婦 人 科	松井 俊彦	
委 員		整 形 外 科	佐藤 毅	自己血責任医師
副委員長	看 護 部	医 療 安 全	渡部 昌子	医療安全対策室
委 員		7 B 病 棟	児玉 菜摘	
委 員		7 A 病 棟	丹 真理子	学会認定・自己血輸血看護師 学会認定・臨床輸血看護師
委 員			佐々木 恵	学会認定・臨床輸血看護師
委 員		6 B 病 棟	長門 勇磨	
委 員		6 A 病 棟	大久保苑夏	
委 員		5 B 病 棟	工藤佐智子	学会認定・自己血輸血看護師 学会認定・臨床輸血看護師
委 員			工藤 誠子	学会認定・自己血輸血看護師
委 員		5 A 病 棟	渡辺真紀子	
委 員		4 A 病 棟	銭谷 郁子	
委 員		3 B 病 棟	福丸 利憲	

委 員		外 来	大塚 聖子	
委 員	看 護 部	中 央 手 術 部	佐藤 智子	学会認定・自己血輸血看護師 学会認定・臨床輸血看護師
委 員		血液浄化センター	北嶋真紀子	
委 員	薬 剤 師	薬 剤 科	佐々木真則	
委 員	臨床工学技士	M E セ ン タ ー	赤坂 紀之	
委 員	事 務	資 材 設 備 課	佐藤 元彦	
委 員		医 事 課	柳田 貢佑	
事 務 局	臨床検査技師	臨 床 検 査 科 輸 血 検 査 室	加藤亜有子 石井 沙紀 鈴木 花純	認定輸血検査技師

【活動内容】

令和3年4月～令和4年3月

●第1回輸血療法委員会：令和3年4月16日

- ・令和3年度輸血療法委員会 顔合わせ、今年度の予定
- ・令和2年度血液製剤使用状況報告
- ・看護師新人輸血研修について

●第2回輸血療法委員会：令和3年5月21日

- ・看護師新人輸血研修について
- ・輸血同意書の改訂について
- ・輸血実施証明書の運用について
- ・感染症病棟の輸血実施について
- ・献血バス来院のお知らせ

●第3回輸血療法委員会：令和3年6月18日

- ・看護師新人輸血研修実施内容について
- ・輸血関連インシデント報告
- ・輸血実施部署監査実施について
- ・感染症病棟の輸血実施について
- ・献血バス来院のお知らせ

●第4回輸血療法委員会：令和3年8月20日

- ・看護師新人輸血研修会実施報告
- ・輸血実施、PDA、輸血伝票運用状況報告
- ・輸血関連インシデント報告
- ・輸血同意書の改訂について

●第5回輸血療法委員会：令和3年10月20日

- ・令和3年度上半期輸血実施状況報告
- ・看護師新人輸血研修会最終報告
- ・輸血同意書の改訂と運用開始状況について

- ・輸血実施部署監査について
- ・I & A 更新審査について

●第6回輸血療法委員会：令和3年12月17日

- ・輸血関連インシデント報告
- ・輸血実施、P D A、輸血伝票運用状況報告
- ・令和3年度上半期輸血副反応報告状況
- ・輸血ラウンド「中央手術部」監査報告
- ・I & A 更新審査について
- ・献血バス来院報告

●第7回輸血療法委員会：令和4年2月18日

- ・I & A 更新審査結果報告
- ・輸血副作用症例報告
- ・大量輸血症例報告
- ・自己血貯血・輸血に関する説明書と同意書の改訂について
- ・H E V 遡及調査の情報提供について

●第8回輸血療法委員会：令和4年3月18日

- ・令和4年度看護師新人輸血研修について
- ・自己血貯血・輸血に関する説明書、同意書の改訂と運用について
- ・血液製剤の添付部署の同梱廃止について
- ・電子カルテ掲示板「輸血療法委員会」のリニューアルについて

《看護師新人輸血研修会》（令和3年7月16日）

学会認定・臨床輸血看護師、学会認定・自己血輸血看護師を中心に輸血実施や輸血副作用についての講義や実技指導を行った。研修会前に資料や動画を配布し、各部署の輸血療法委員の指導のもと事前学習後に研修に臨んでもらった。



《院内輸血ラウンド》中央手術部（令和3年10月18日）

学会認定・臨床輸血看護師、学会認定・自己血輸血看護師をリーダーとし、輸血療法の実施が適切に行われているか輸血実施部署をラウンドし、輸血療法の手技統一化を図っている。新型コロナウイルス感染拡大により、各部署輸血療法委員による監査を重視し、現場ラウンドは中央手術部のみ実施した。

《献血推進活動》（令和3年7月1日、令和3年12月8日）

令和3年度より、1日献血となり2回献血バスが配車された。輸血療法委員会では配車が決定されると病院スタッフへ向け献血推進活動を行っている。



《輸血機能評価 I & A 更新》（令和3年12月22日）

令和2年3月に予定されていた輸血機能評価 I & A 更新審査は新型コロナウイルス感染拡大により、延期されていた。令和3年12月22日にZoomを用いたリモート視察で更新審査が行われ、必要な確認事項は適正に実施されていると評価された。認定期間は令和8年3月31日まで。

【令和3年度血液製剤使用状況】

赤血球製剤使用量：3300単位（1695本）

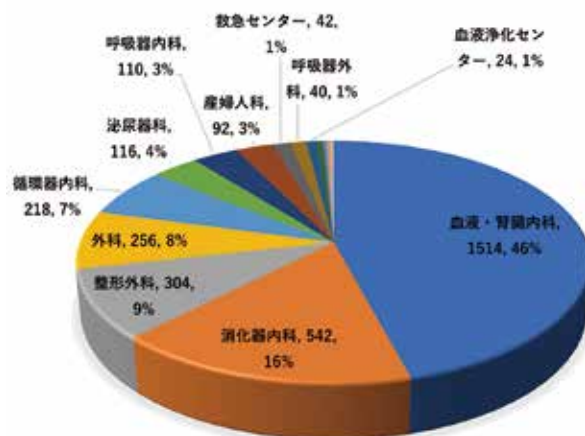
血小板製剤使用量：8035単位（773本）

新鮮凍結血漿製剤使用量：374単位（127本）

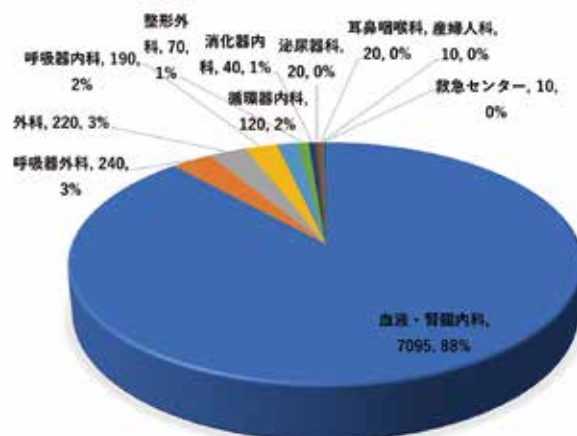
アルブミン製剤使用量：529本

令和3年度の輸血適正使用加算基準はFFP/RBC 0.06（基準値0.54未満）、ALB/RBC 0.67（基準値2未満）となり、基準を満たしていた。年間血液製剤廃棄率は0.41%で当院目標値の0.85%未満を達成していた。

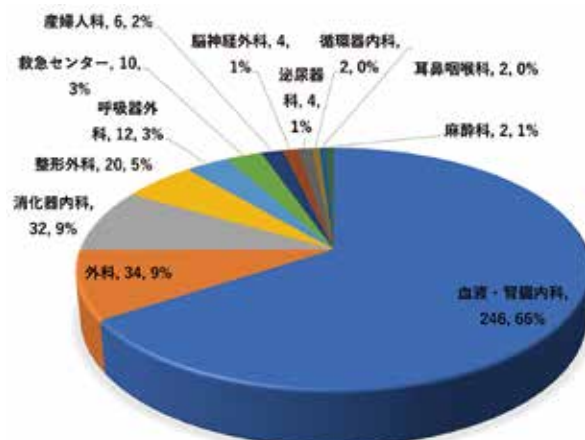
診療科別の血液製剤使用状況は円グラフの通りである。



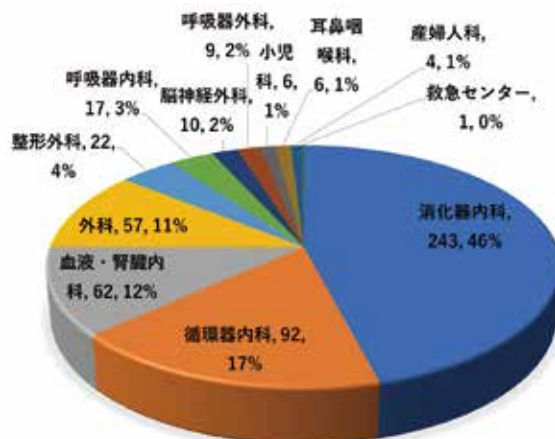
2021年度 RBC 診療科別輸血単位数



2021年度 PC 診療科別輸血単位数



2021年度 FFP 診療科別輸血単位数



2021年度 ALB 診療科別使用本数

化学療法委員会

委員長 松崎 郁夫

【設置目的】

化学療法委員会は能代厚生医療センターにおける化学療法が適正に実施されるために必要な一切の事項について検討することを目的としている。

【委員構成】

医師 9 名 薬剤師 3 名 看護師 8 名 事務 1 名

【職務】

次の事項について協議検討を行う。

- ① 外来化学療法室の運用に関すること
- ② 院内の化学療法におけるレジメンの妥当性を評価・承認すること
- ③ 院内の化学療法におけるレジメン内容の見直しを協議すること
- ④ 化学療法準備室に関すること
- ⑤ その他院内における化学療法に関すること
- ⑥ 化学療法における教育・研修に関すること

【活動内容】

3 か月ごと第 3 金曜日 16 時 30 分より委員会を開催委員会では毎回外来・入院化学療法実績を報告するほか、職務で述べた協議事項について討議する。

【活動報告・実績 等】

外来化学療法（R 3.4.1～R 4.3.31）

※延べ人数(RA、UCに対する生物学的製剤の投与も含む)

	外科	呼吸器 内科	血液腎 臓内科	消化器 内科	耳鼻咽 喉科	泌尿器 科	産婦人 科	整形外科	腫瘍内 科	呼吸器 外科	計
4月	24	15	49	4	8	6	5	9	1	23	144
5月	18	11	44	6	7	4	5	10	2	19	126
6月	14	8	40	4	8	4	5	10	2	19	114
7月	22	9	36	10	4	5	5	13	6	8	118
8月	17	14	45	8	6	7	0	13	4	16	130
9月	23	9	52	8	6	6	0	12	8	11	135
10月	28	13	41	8	6	6	0	10	4	15	131
11月	20	17	50	8	5	8	0	11	4	8	131
12月	19	13	41	9	6	11	0	9	11	9	128
1月	26	15	52	5	3	5	0	8	9	11	134
2月	24	17	42	9	2	10	0	8	6	11	129
3月	29	18	40	5	3	7	2	6	14	15	139
	264	159	532	84	64	79	22	119	71	165	1559

入院化学療法実績（R 3.4.1～R 4.3.31）

※のべ本数

科名	耳鼻 咽喉科	脳外科	産婦人 科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	腫瘍 内科	泌尿器 科	血液腎 臓内科	外科	計
4月	7	0	28	23	4	0	4	78	43	187
5月	5	0	26	25	4	0	1	84	34	179
6月	7	0	24	32	4	0	6	64	50	187
7月	9	0	21	34	4	1	5	116	66	256
8月	11	0	33	40	4	0	4	91	51	234
9月	10	0	29	30	7	0	3	69	57	205
10月	1	0	29	39	11	3	3	102	76	264
11月	4	0	28	23	6	0	6	72	48	187
12月	9	0	29	44	6	1	2	123	67	281
1月	2	0	28	31	14	3	3	92	57	232
2月	0	0	21	34	10	1	3	94	52	215
3月	0	0	45	35	18	0	0	114	55	267
	65	0	341	390	92	9	40	1099	656	2694

栄養管理委員会

委員長 藤島 裕耕

【設置目的】

給食業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的とする

【委員構成】

委員長	藤島 裕耕	消化器内科診療部長		
委員	松田 眞吾	事務長		
	佐藤 元彦	資材設備課長		
	日沼ゆかり	看護部長（副院長）		
	小川菜穂子	4 A 看護師長	千葉 愛	5 A 看護師長
	川井美奈子	6 A 看護師長	竹嶋 純子	7 A 看護師長
	高橋 美香	栄養技師長	松嶋 香織	栄養副技師長
	市川 宏美	栄養主任	丸山 大介	調理員

【職務】

協議事項

- (1) 栄養業務の運営に関する事項
- (2) 栄養業務の改善・向上に関する事項
- (3) 各職域間の円滑な運営に関する事項
- (4) 施設整備の改善に関する事項
- (5) 栄養サービスに関する事項

【活動内容】

委員会の開催 年4回（6月、10月、11月、3月）

- (1) 嗜好調査結果報告
- (2) 令和2年度栄養指導件数報告
- (3) 検食について
- (4) 厚生連統一献立について
- (5) 加熱食について
- (6) 牛乳・ヨーグルトのメーカー変更について

放射線安全管理委員会（R I 法・医療法）

委員長 眞山 一郎

R I 規制法

【設置目的】

「放射線同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」に基づき、能代厚生医療センターにおける放射線発生装置の取り扱い及び管理に関する事項を定め、放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保することを目的とする。

【職務】

- ① 放射線管理区域の設定に関する事項
- ② 放射線障害予防規定の改定に関する事項
- ③ 放射線業務従事者に対する、教育訓練の企画実施
- ④ 放射線施設の改廃、保全に関する事項
- ⑤ その他、放射線障害の防止に関連する事項

【構成】

委員長：放射線取扱主任者（眞山診療部長）

委員：病院長、放射線科科长、放射線技師長・副技師長・主任、看護部長・師長
（医療安全管理者、救急外来）事務長・事務次長・その他委員長が必要と認めた者

【活動内容】

第33回放射線安全委員会 令和4年3月9日（水）

- ・放射線管理責任者、施設管理責任者、健康管理医の選出
- ・放射線業務従事者の教育訓練
- ・放射線業務従事者の健康診断
- ・原子力規制委員会への届け出

医療法

【設置目的】

令和2年度の医療改正により、患者の被ばく管理や放射線に従事する職員を対象に放射線に関わる研修が必要となり院内規定を定め運営する。患者、放射線に関わる職員の安全を確保することを目的とする。

【職務】

- ① 診療放射線の安全管理責任者の設置
- ② 診療放射線安全管理指針の策定
- ③ 診療用放射線に携わる職員に対する安全利用のための研修の実施
- ④ 診療用放射線診療の線量管理と記録

【活動内容】

第1回放射線安全委員会 令和4年3月9日（水）

- ・安全管理体制について
- ・院内診療用放射線に携わる職員に対する安全利用のための研修実施について
- ・放射線業務従事者の健康診断について
- ・放射線業務従事者の被ばく管理及び記録について
- ・保健所への届け出について

●放射線安全講習会

新型コロナウイルスの影響により集合型研修を避け、Safety Plusによるeラーニングを活用し期間を設定して医師、看護師、コメディカルを対象とし「診療用放射線の安全管理に関する研修」を実施



（文責：事務局 伊藤）

院内感染対策委員会

委員長 金田 浩人

令和3年度もCOVID-19の流行は続き、発熱者のプレハブ診療はじめ救急センターのゾーニング、入院患者のスクリーニング検査等でクラスター発生の予防に努めました。幸いなことにクラスターは発生せず経過しています。

【委員構成】

委員長 金田 浩人

委員 病院長、事務長、看護部長、各部署の責任者、委託業者を含む37名

開催回数：12回

主な案件：1) 感染症発生状況報告
2) 抗菌薬使用状況報告
3) 手指衛生実施状況報告
4) ICTラウンド結果報告
5) マニュアル改訂案
6) 研修会評価結果報告など



【活動内容】

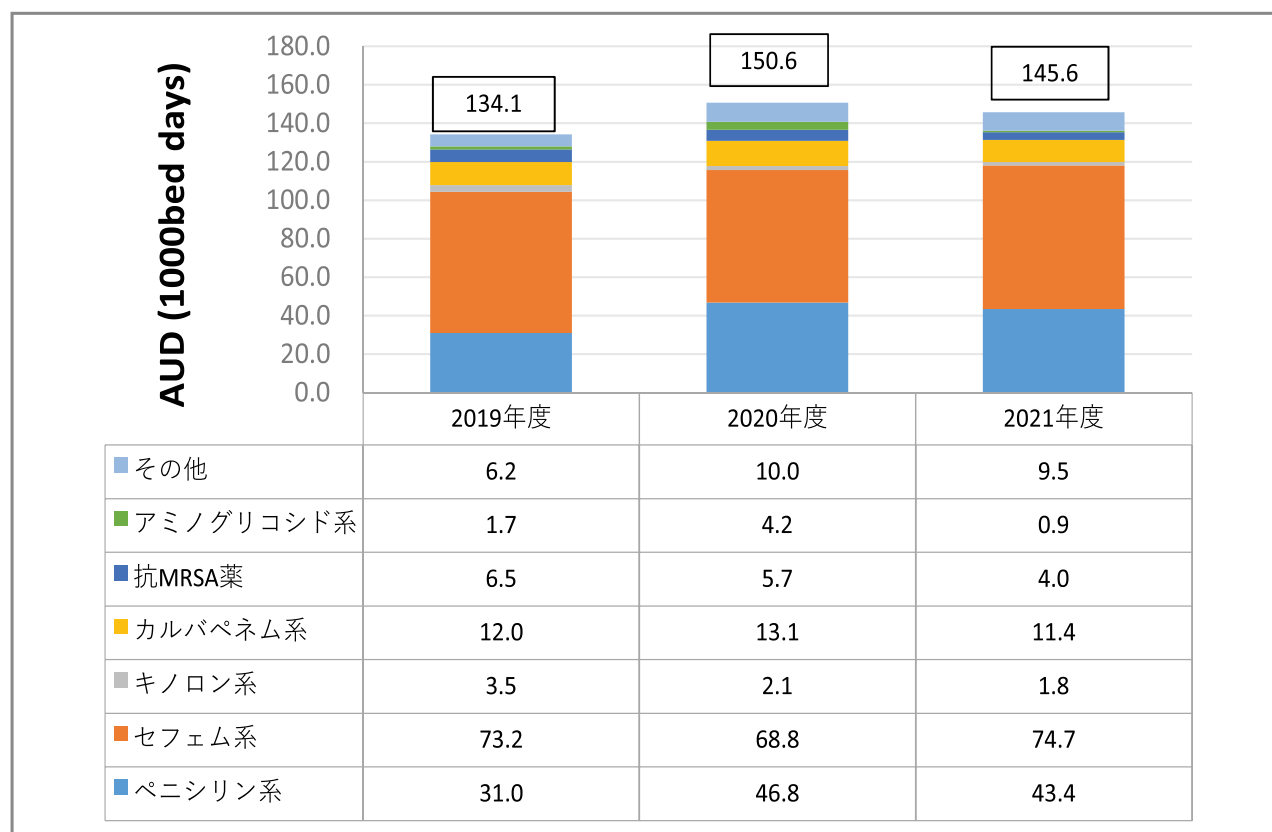
- 1) COVID-19行政から検体採取を依頼された件数 159名
- 2) COVID-19による感染症病床稼働 入院患者数 32名
- 3) 職員研修会 8回開催
内訳：全職員対象 感染対策およびAST研修会2回 ※eラーニング開催
新入職員研修・看護補助者研修・臨床実務者研修6回
- 4) 職員1人あたり年2回の研修参加状況 100%
- 5) 感染対策チーム活動
ラウンド53回開催、ICTニュース13回発行

【地域連携病院との活動内容】

- 1) カンファランス：6回
連携先：JCHO秋田病院、能代山本医師会病院、かづの厚生病院、能代保健所
案件：薬剤耐性菌の検出状況、感染症患者の発生状況、院内感染対策の実施状況、
抗菌薬の使用状況などの情報共有及び意見交換
- 2) 相互ラウンド：3回実施
連携先：由利組合総合病院、北秋田市民病院

【感染対策の実績値】

1) 抗菌薬使用密度について（年度別AUD）



昨年度と比較すると総AUDは減少した。

カルバペネムの使用は昨年度と比べ1.7ポイント減少し、目標である16未満を達成できた。

また感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）では、令和3年度、全国1019施設中、総AUDの中央値は148.9、カルバペネムの中央値は9.9であり、総AUD・カルバペネムともに減少傾向であった。当院のカルバペネムAUDは全国の中央値より高い結果となった。

2) AST活動について

	令和3年度 実績	令和3年度 1か月平均値
抗菌薬の使用を確認した患者数	430	35.8
抗菌薬投与前（変更前）の培養要請	37	3.1
ディエスカレーションの要請	73	6.1
早めの中止依頼	19	1.6
変更を提案	37	3.1
起因菌の可能な範囲での特定依頼	1	0.1
血液培養検出菌のお知らせ	93	7.8
TDM関連	1	0.1
問い合わせ及び相談件数	87	7.1

今後も引き続き、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の活動で適正使用の確認を継続していく。

倫理委員会

委員長 波多野 善明（R 3. 4. 1～R 3. 9. 30）

委員長 松井 俊彦（R 3. 10. 1～R 4. 3. 31）

第1回

開催日 令和3年5月7日

倫理審査 「頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究（多施設共同研究）」

申請者 整形外科 科長 佐々木 寛

結果 承認

第2回

開催日 令和3年6月22日

倫理審査 「85歳以上の超高齢者における早期胃癌内視鏡的粘膜下層剥離術の予後予測因子に関する多施設共同研究」

申請者 消化器内科 診療部長 藤島 裕耕

結果 承認

第3回

開催日 令和3年9月22日

倫理審査 「上部消化管穿孔における当院の成績と術後経過方針の検討」

申請者 外科 科長 西成 悠

結果 承認

訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所運営委員会

委員長 太田原康成

【活動目的】

本委員会は、訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所の、運営の円滑適正化を図る。

【協議・報告内容】

1. 事業拡充、強化推進に関する事項
2. 運営改善に関する事項
3. 啓蒙宣伝に関する事項
4. その他運営上必要な事項等

【開催状況】

年2回（上期・下期）

	氏 名	所 属 役 職 名
運 営 委 員 長	太田原 康 成	院長
委 員	波多野 善 明	副院長
委 員	松 田 眞 吾	事務長
委 員	日 沼 ゆかり	看護部長
委 員	嶋 田 誠 司	リハビリテーション科技師長
委 員	佐 藤 ひとみ	看護師長（退院支援）
委 員	佐 藤 希	精神保健福祉士（患者支援センター）
委 員	工 藤 ゆき子	看護師長（訪問看護ステーション管理者）
委 員	成 田 友 子	看護師長（居宅介護支援事業所管理者）

健診センター運営委員会

委員長 太田原康成

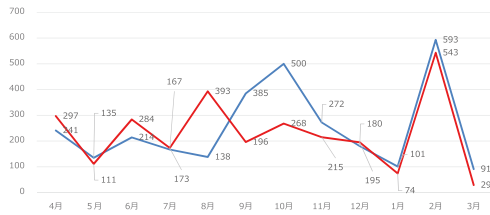
本委員会は、ドック、各種健（検）診の推進、精検受診による早期予防、生活習慣病の指導改善、地域の健康教育・啓蒙を目的とする。

【委員会メンバー】

	氏 名	所 属
委員長	太田原 康 成	院長
委員	松 井 俊 彦	副院長
委員	眞 山 一 郎	放射線科診療部長
委員	藤 島 裕 耕	消化器科診療部長
委員	木 村 州 孝	循環器科診療部長
委員	松 崎 郁 夫	呼吸器外科診療部長
委員	西 成 悠	外科科長
委員	小 峰 直 樹	泌尿器科科長
委員	日 沼 ゆかり	看護部長
委員	高 橋 美 香	栄養科技師長
委員	伊 藤 浩	放射線科技師長
委員	清 水 盛 也	検査科技師長
委員	三 木 一 伸	健診センター長
委員	松 田 眞 吾	事務長
事務局	高 橋 紀美代	保健福祉活動室 看護師長（保健師）
事務局	石 井 美保子	保健福祉活動室 看護主任（保健師）
事務局	田 村 博 美	保健福祉活動室 看護師（保健師）
事務局	山 崎 智 子	保健福祉活動室 看護師（保健師）
事務局	遠 藤 誠	保健福祉活動室 事務係長

特定・事業所健診受診数

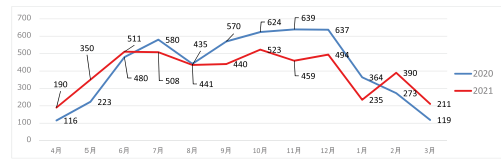
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2020	241	135	214	167	138	385	500	272	180	101	593	91	3,017
2021	297	111	284	173	393	196	268	215	195	74	543	29	2,778
差異	56	-24	70	6	255	-189	-232	-57	15	-27	-50	-62	-239



* 特定健診・事業所健診の実施数は、昨年度比239件減となった。能代山本地域でコロナ感染者増加により、1月に2週間休みとなった影響が考えられる。
* 10月と2月は職員健診があったため件数増加となっている。

人間ドック受診数

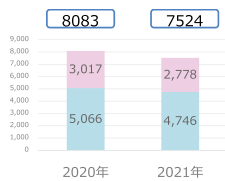
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2020	116	223	480	580	441	570	624	639	637	364	273	119	5,066
2021	190	350	511	508	435	440	523	459	494	235	390	211	4,746
差異	74	127	31	-72	-6	-130	-101	-180	-143	-129	117	92	-320



* 人間ドック数は、4,746人受診された。昨年度比320人減少。1月はコロナ感染予防のため2週間休みとなったことも影響した。
* 毎年、自治体からの特定健診受診券が6月から発行となるため、それまでの受診数が少ない。4月、5月、1月～3月の受診数を増やすため、自治体、事業所と連携をして受診勧奨する必要がある。

2021年度健診受診状況

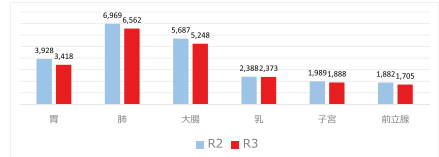
	ドック	事業所 特定	合計
2020年	5,066	3,017	8,083
2021年	4,746	2,778	7,524
差異	-320	-239	-559



* 人間ドック、事業所健診、特定健診で合計7,524人受診数となり、昨年度比559人減少となった。

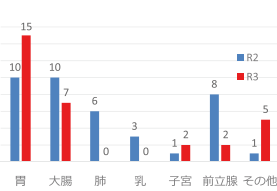
2021年度がん検診受診数

	胃	肺	大腸	乳	子宮	前立腺	合計
R2	3,928	6,969	5,687	2,388	1,989	1,882	22,843
R3	3,418	6,562	5,248	2,373	1,888	1,705	21,194
差異	-510	-407	-439	-15	-101	-177	-1,649

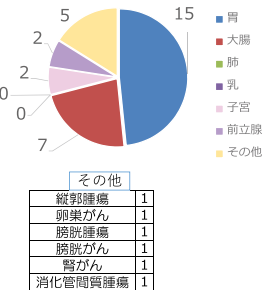


* がん検診受診数（のべ人数）昨年度と比べて、のべ1649件減少した。

発見がん

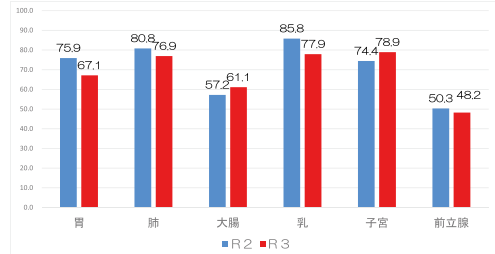


* 発見がんは全体で31名。胃癌5名増加したが、前立腺がんは6名減少した。肺がん、乳がんのがん発見はなかった。



癌統計：31件

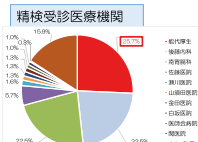
がん検診精検受診率



* コロナ禍のため、精検受診率が下がった可能性がある。今後、自治体と連携を取り受診勧奨していく。

胃がん検診

	A	B	B/A	C	C/B	D	D/C
	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	癌発見数	癌発見率
バリウム	3418	468	13.7	314	67.1	6	1.9
カメラ	534	55	10.3	40	72.7	9	22.5



がん患者の治療医療機関

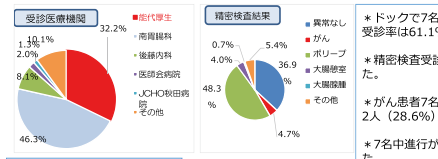
検査方法	性別	年齢	進行度	治療	受診病院	治療病院
1 胃癌 カメラ	男	72	早期	手術	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・外科
2 胃癌 カメラ	女	82	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
3 胃癌 カメラ	男	79	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
4 胃癌 バリウム	女	74	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
5 胃癌 バリウム	女	79	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
6 胃癌 カメラ	男	85	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
7 胃癌 バリウム	男	71	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
8 胃癌 カメラ	男	59	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
9 胃癌 バリウム	男	81	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
10 胃癌 カメラ	男	74	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
11 胃癌 カメラ	男	75	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
12 胃癌 カメラ	男	73	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
13 胃癌 バリウム	女	68	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
14 胃癌 カメラ	女	63	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器
15 胃癌 バリウム	男	74	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器

* 精密検査で受診した医療機関は、当院が25.7%、がん患者15名のうち治療をした医療機関は当院が10人（66.7%）と一番多かった。

* 胃がん15人中3名が進行がん。治療方法は手術・腹腔鏡となった。

大腸がん検診

	A	B	B/A	C	C/B	D	D/C
	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	癌発見数	癌発見率
合計	5,248	244	4.6	149	61.1	7	4.7



がん患者の治療医療機関

検査方法	性別	年齢	進行度	治療	受診病院	治療病院
1 大腸癌 便潜血	女	54	早期	ポリプ切除	能代南内科内視鏡クリニック	能代南内科内視鏡クリニック
2 大腸癌 便潜血	男	85	進行	腹腔鏡	山形田医院	能代厚生医療センター・外科
3 大腸癌 便潜血	女	46	早期	ポリプ切除	工藤胃腸科クリニック	工藤胃腸科クリニック
4 大腸癌 便潜血	男	85	早期	ポリプ切除	能代南内科内視鏡クリニック	能代南内科内視鏡クリニック
5 大腸癌 便潜血	男	60	早期	ポリプ切除	能代南内科内視鏡クリニック	能代南内科内視鏡クリニック
6 大腸癌 便潜血	男	60	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	大館市立総合病院
7 大腸癌 便潜血	男	66	早期	ESD	能代厚生医療センター・消化器	能代厚生医療センター・消化器

* ドックで7名のがん患者が発見され、精検受診率は61.1%であった。

* 精密検査受診は、当院が32.2%であった。

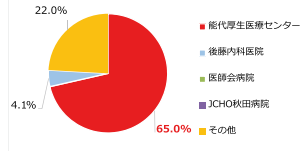
* がん患者7名のうち当院で治療をした方は2人（28.6%）である。

* 7名中進行がんが1名で、当院で手術された。

肺がん検診

	A	B	B/A	C	C/B	D	D/C
	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	癌発見数	癌発見率
胸部レントゲン検査	6,562	160	2.4	123	76.9	0	0.0
肺ドック	73	4	5.5	4	100.0	0	0.0
計	6,635	164	2.5	127	77.4	0	0.0

受診医療機関



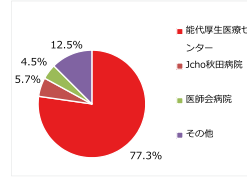
* 精検受診率は77.4%で肺がんの発見はなかった。
* 受診医療機関は、当院が65%
* 肺がん疑いで当院でフォロー中の方が2名。

肺がん疑いでフォロー中

検査方法	性別	年齢	受診病院	通院病院
1 胸部	女	71	JCHO秋田病院	能代厚生医療センター：呼吸器
2 胸部	男	80	能代厚生医療センター：呼吸器内科	能代厚生医療センター：呼吸器

乳がん検診

	A	B	B/A	C	C/B	D	D/C
	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	癌発見数	癌発見率
マンモグラフィ	2,373	113	4.8	88	77.9	0	0.0
乳腺エコー	305	18	5.9	14	77.8	0	0.0
計	2,678	131	4.9	102	77.9	0	0.0

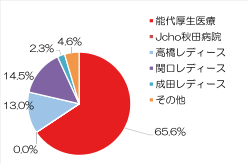


* 乳がんは、今年度発見がんはいなかった。
* 精検受診率は、77.9%となった。
* 精検受診医療機関は、当院が77.3%と多かった。

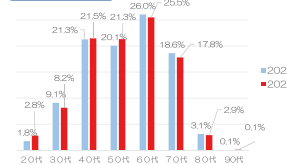
子宮がん検診

A	B	B/A	C	C/B	D	D/C
受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	癌発見数	癌発見率
1,888	166	8.8	131	78.9	2	2.4

受診医療機関



受診年齢



* 精検受診率は78.9%、子宮頸がん (CIN3) 1名、卵巣がん1名であった。
* 精検受診医療機関は、当院が65.6%と多かった。
* 受診者が少ない20代～30代は、自治体からのドック助成がないため、事業所健診の追加で受けるよう動めてきた。昨年に比べて20代は1.8%から2.8%へ増加した。

子宮がん検診

組織診内訳

AGC	0
ASC-H (HSILを除外できない異型扁平皮)	0
ASC-US (意義不明な異型扁平上皮細胞)	14
HSIL (中等度異形成)	0
LSIL (軽度異形成)	2
計	16

CIN3 1名

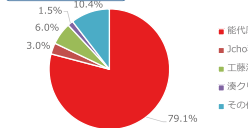
健診の種類	年齢	病期	治療	精査医療機関	治療医療機関
ドック	49	軽度	円錐切除	能代厚生医療センター	能代厚生医療センター

* 頸部細胞診で16名が精密検査となり、そのうち1名がCIN3で当院で治療した。
* 異形成の年齢内訳は、40代、50代で5人 (31.3%) と多かった。

前立がん検診

A	B	B/A	C	C/B	D	D/C
受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	癌発見数	癌発見率
1,705	139	8.2	67	48.2	2	3.1

受診医療機関



* 精検受診率は例年低いが、48.2%となった。リピーターが多く1度は受診した方が多いと思われる。
* 精検受診医療機関は、当院が79.1%と多かった。
* 秋田大学病院での治療は2名であった。

がん患者の治療医療機関

健診の種類	年齢	病期	治療	精査医療機関	治療医療機関
ドック	74	cT1cNOMO	秋大にて検討予定	能代厚生医療センター	秋田大学病院
ドック	77	T2b	PALP予定	能代厚生医療センター	秋田大学病院

オプション検診

	料金 (円)	A	B	B/A
		受診者数	要精検者数	要精検率 (%)
腫瘍マーカー	3,600	615	30	4.9
ABC検診 (ピロリ菌)	2,640	88	14	15.9
* 腹部超音波	5,830	1,945	145	7.5
CAVI (動脈硬化)	2,200	145	2	1.4
乳腺エコー	4,510	305	18	5.9
骨密度検査	2,200	144	26	18.1

* ドックの検査含む

特殊検診

	料金 (円)	A	B	B/A
		受診者数	要精検者数	要精検率 (%)
ヒューム	3,410	18	0	0.0
右綿検診	4,730	5	0	0.0
有機溶剤	8,536	24	0	0.0

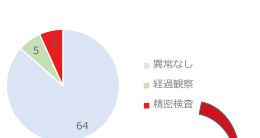
腫瘍マーカーから、胃がん1名、腹部超音波から膀胱がん2名発見された。

肺ドック

料金 (11,000円)



肺ドック結果判定



精密検査の受診医療機関

性別	年齢	結果	今後の方針	受診医療機関
男	55	結節	7月CT予定	能代厚生医療センター
女	36	炎症性変化	治療の必要なし	能代厚生医療センター
女	48	結節	3か月再検	能代厚生医療センター
女	62	異常陰影	治療の必要なし	能代厚生医療センター
男	72	癌痕異形成	6か月後再検	能代厚生医療センター

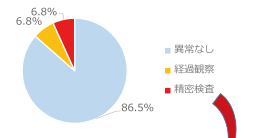
肺ドック74名受診のうち、5名が精密検査となり当院受診した。そのうち2名が治療なしで、その他3名はフォローすることになった。

脳ドック

料金 (41,250円)



脳ドック結果判定



精密検査の受診医療機関

性別	年齢	結果	今後の方針	受診医療機関
女	72	微小脳出血	半年後頭部MRI	能代厚生医療センター
男	61	円形病変 (右側脳室角後方に嚢胞性陰影)	1年後頭部MRI	能代厚生医療センター
女	46	頭部内動脈に動脈硬化	1年後頭部エコー	能代厚生医療センター
男	65	頭部内動脈に動脈硬化	1年後頭部エコー	能代厚生医療センター
女	74	頭部内動脈に動脈硬化	半年後頭部エコー	能代厚生医療センター

脳ドック132名受診のうち、5名が精密検査となりフォロー必要となった。

2021年度ワクチン接種

	コロナワクチン 2,277円	インフルエンザ 3,000円	感染症ワクチン 7,000円	HBワクチン 5,000円	合計数
職員	1,773	585	53	54	2,465
光風舎・厚生ビルなど	468	129		111	708
しらかみ看護	320	128	41	22	511
消防				6	6
警察				0	0
熱いの郷	108	45			153
JA葬祭		43			43
歯科・その他医療機関	372				372
一般		34	35	11	80
合計数(人)	3,041	964	129	204	4,338
収益(円)	¥7,602,500	¥2,892,000	¥903,000	¥102,000	¥11,499,500

* すべてのワクチン接種数は、4,338件となり、職員は全体の半数以上占めており、コロナワクチンを含むその他で約2,465件であった。

新規依頼

消防ワクチン接種（2022～2023年）

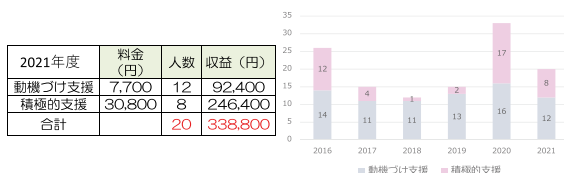
2021年度、能代山本消防より、感染予防のため感染抗体検査とワクチン接種の依頼あり。

2021.9月～10月に消防職員（183人）の感染症抗体検査を実施し、陰性の方（159名）を対象に2年間で感染症ワクチンを実施する。

<ワクチン接種予定>

	麻疹	風疹	MR (麻疹・風疹)	おたふく	水痘	合計数
2022年(人)	68	8	20	127	12	235
2023年(人)	46	14	13	107	8	188
合計数(人)	114	22	33	234	20	423
収益(円)	¥752,400	¥145,200	¥327,063	¥1,348,542	¥146,680	¥2,719,885

特定保健指導



メタボを対象に特定保健指導を実施しているが、2021年度は、コロナ禍で、指導希望が少なく20件となった。

初回指導の当日実施が3名と少なかったため、検査待ち時間などを利用した指導を検討する。

各種健診の画像の読影依頼先の変更について

2021年度 (件数)	検査項目	読影料金	医療機関
4,705	眼底検査	300	さとう眼科 くどう眼科 のしる眼科クリニック 後藤内科医院 瀬川医院
3,925	胃がん (バリウム)	読影① 200	白根内科胃腸科医院 山根田医院
3,925		読影②	当院医師
2,177	腹部超音波検査		当院医師

2022年4月～移行

検査項目	読影料金	委託業者
眼底検査	300	株式会社 ドクターネット
胃がん (バリウム)	読影① 400	
	読影② 400	
腹部超音波検査	600	

* 人間ドック・健康診断で画像読影業務は、医師会を通して各医療機関へ依頼していた。今年度より、読影の専門業者（ドクターネット）へ依頼することになった。

<移行理由>

① 読影依頼している医師不足

ドクターネット

<利点>

① 読影を依頼している医師の負担軽減

医師判定料について

項目	判定料	診療科
胸部レントゲン	100円	呼吸器内科・呼吸器外科
マンモグラフィ	200円	外科医師
診察（第一水曜日）	10,000円	診察実施医師

2022.4月からドック業務応援に携わる医師に対し判定料手当が追加になりました。ご多忙の中、ご協力いただきありがとうございます。

健診からドック・生活習慣病健診への切り替え

<目的> 単価が安い定期健康診断（労働安全衛生法）から、単価の高い人間ドック・生活習慣病健診（保険者から助成がある）を増やす。

	内容	料金	事業主負担額	自己負担額	備考
A	定期健康診断 計測・診察・採血・尿・胸部レントゲン、心電図	7,898	7,898	0	
B	生活習慣病健診 Cドック+聴力	19,657	7,169	0	協会けんぽが残額負担
C	Cドック 計測・診察・★採血・尿・胸部レントゲン、心電図・眼底検査・便潜血・胸部レントゲン・	25,300	25,300	0	
D	Dドック Cドック+腹部超音波、聴力検査、採血追加（アミラーゼ、感染症検査）	37,400	37,400	0	薬業けんぽなど

★採血は、詳細な項目あり

・協会けんぽの被保険者の場合、事業主負担が7,898円であるのに対し、検査内容やがん検診が充実している生活習慣病健診の方が協会けんぽの助成があるため、事業主負担も7,169円と安く、受診者にも利益がある。しかし、協会けんぽの被保険者に対しても、定期健康診断を実施している事業所が多くある。

* R3年度 定期健康診断実施数	ドック移行可能な 人数	ドック移行可能な 人数割合	移行可能な保険者
2,778 (171か所)	423	16.2%	協会けんぽ・薬業けんぽ

*の人数

<ドックへの切り替え手順>

- ① 健診からドック・生活習慣病健診へ移行が可能な事業所を調査する。
- ② 案内を作成し事業所担当者へ案内書類郵送、電話での説明をする。
- ③ 年2回健診を実施している事業所は、年1回は生活習慣病健診への移行を依頼する。
- ④ 定期健康診断が予約枠に入り切れない場合は、健診施設への委託も検討する

R3年度に実施した事業所171か所のうち、20か所の423人が、特定健康診断から、生活習慣病健診・ドックへの切り替えが可能であった。そこで、20か所の事業所に対し、計画的にドック・生活習慣病健診へ切り替えを案内する。

臨床検査適正化検討委員会

文責 藤嶋 正人

本委員会は、当院における臨床検査が適正に実施されるために必要な事項について、検討する事を目的としている。委員は、臨床検査科科长を委員長に副院長、診療部長、看護部長、事務長、医事課課長を始め、当検査科の役付き検査技師を含め15名で構成され、事務局は臨床検査科に置いている。

令和4年3月16日に、令和3年度 臨床検査適正化検討委員会が開催されました。

1) 検査科年度別件数報告

平成27年度－306,138件、平成28年度－318,408件、平成29年度－323,839件、
平成30年度－338,174件、令和1年度－349,528件、令和2年度－368,339件
外来縮小、逆紹介推進で患者数は減少みられるも検査件数、超音波件数とも増加傾向

2) 令和3年度 外部精度管理調査

日本医師会：98.4（昨年度98.1） 日本臨床衛生検査技師会：98.4（昨年度97.9）
秋田県臨床検査技師会：98.7（昨年度100）

3) 検査機器整備

- 血液培養自動分析装置 F X－40 日本B.D社（微生物）
- 密閉式自動固定包埋装置 Tissue-Tec VIP6 AI Jo サクラ社（病理）

4) 学会・研修会演題発表（令和3年度－4題）

秋臨技輸血細胞部門研修会、秋田県合同輸血療法委員会事例報告、日本輸血・細胞治療学会
東北北支部例会Webセミナー（輸血3題）、第9回北日本支部医学検査学会（病理1題）

5) 検査科内の勉強会（12回開催）

- 医療安全マニュアル読み合わせ（採血、注射による神経因性疼痛の対応等、計9回）
- 回覧形式（カルボキシヘモグロビン（COHb）、末梢血塗抹標本について等、計3回）

6) 業務改善事項

➤新型コロナ関連検査

9月：新型コロナ抗原定量検査運用開始ロシュ社 Cobas e-801 24時間体制で時間外も対応
2月：試薬供給不足～コバス e-411貸出し機器で対応 3月17日～試薬供給再開
入院前患者コロナ鼻咽頭ぬぐい液検体採取検査科対応

- 外注検査白血病関連検査 SRL依頼可能となる（10月より）
- 日本輸血・細胞治療学会 I & A受審－12月、翌年2月14日 認定取得

9) 各部署からの要望

- ・外来採血専属看護師：令和3年度4名→2名、令和4年度2名→0名
循環器内科～現状より遅れると午後検査・治療に影響、血液内科～採血結果報告される時間で
外来予約時間調整している等、結果報告遅延は困ると要請あり
- *時間限定で手伝いに来る看護師と検査技師で対応となるが、患者様や臨床からの苦情多数でた
際は次なる対応をお願いする

〈質疑〉Q1：病理オーダー紙運用でなく電子カルテでの運用は？

A：コスト面で現システムでの運用継続、シエマ等情報伝達ロス面あり現状では厳しい

Q2：病理液状化細胞診を外注化での対応で検査技師の負担軽減を図っては？

A：細胞診結果の迅速性で臨床側からの要望や技師の育成面考慮必要

以上

手術部運営委員会

委員長 佐藤 毅

【設置目的】

本会議は、手術室の安全で円滑な運営を図ることを目的とする。

【委員構成】

		氏 名	所 属
1	委員長	佐藤 毅	整形外科（副院長・手術部部長）
2	委員	太田原 康成	脳外科（院長）
3	委員	松井 俊彦	産婦人科（副院長）
4	委員	江戸 雅孝	耳鼻咽喉科（診療部長）
5	委員	西 成 悠	外科（科長）
6	委員	小 峰 直樹	泌尿器科（科長）
7	委員	松崎 郁夫	呼吸器外科（科長）
8	委員	松本 純一	麻酔科（非常勤）
9	委員	佐藤 元彦	資材設備課課長
10	委員	丸山 広	臨床工学科 副技師長
11	委員	赤坂 紀之	臨床工学科 主任
	事務局	松坂 綾子	手術部 看護師長
	事務局	田口 玲子	手術部 看護師長
	事務局	本多 さおり	手術部 看護副師長
	事務局	渡部 幹子	手術部 看護主任
	事務局	佐々木 留美子	手術部 看護主任

【令和3年度委員会活動内容】

開催日	報告事項	協議事項
令和3年7月2日	- 麻酔科バックアップ状況。 - 術後写真確認のルール周知・徹底のお願い。 - 各診療科手術優先曜日についてのヒヤリング報告。	- 外来手術時のマーキングのルールについて。 - 県内他施設のコロナ検査嫉視状況調査と当院の対応について。 - 糖尿病治療薬、抗凝固薬以外の術前休止薬（低用量ビル・市販サプリメント）について。 - 救急救命士の挿管実習受け入れについて
令和3年12月29日	メス納め神事	

【メス納め神事】



医療機器安全管理委員会

文責 酒樹 勤

【設置目的】

医療機器の適正な管理及び運用を図ること。

【委員構成】

委員役職	科別・役職	氏名
委員長	泌尿器科診療科長	小 峰 直 樹
	臨床工学科副技師長	丸 山 広
	臨床工学科主任	赤 坂 紀 之
	放射線科副技師長	松 橋 忠 昭
	臨床検査科主任	成 田 淳 子
	手術室看護師長	松 坂 綾 子
	鴻池メディカル	原 田 晶 子
	ボイラー技士	鈴 木 治 義
	資材設備課課長	佐 藤 元 彦

【職務】

- ・職員に対する医療機器の安全使用の為の研修を行う。
- ・医療機器安全使用の為の必要となる情報の収集及び改善の為の対策を検討実施する。

【活動内容】

第1回医療機器安全管理委員会開催（令和4年3月22日）

1）今年度の医療機器整備状況について

予定されていた医療機器整備は全て納入完了している。

新規機器の導入研修を行った場合は、研修記録の提出をお願いしたい。

2）その他

来年度には、ベッドサイドモニタ5台、除細動器1台を整備予定となっている。計画通りの数量が納品となれば、当院のベッドサイドモニタと除細動器は、全て更新が完了となる。

【研修回の開催状況】

- ・59回開催
- ・延べ参加人数828人

保険医療対策委員会

文責 米谷明沙美

【設置目的】

適正な保険医療の推進を目的とし委員会で検討を行っている。
重要な点については担当医師と医事課担当者に指導を行っている。また、審査結果に疑義があるものについては積極的に再審査請求を行っている。

【委員構成】

委員長 木村 州孝
委員 病院長、薬剤科、事務 計16名

【活動内容】

令和3年度の査定減実績（対医療収入）は0.12%となり、計画0.09%を0.03%上回る結果となった。診療査定で計画が0.05%に対し0.07%、事務査定で計画0.04%に対し0.05%（不突合除く）となっている。査定項目別件数比（下図）ではB項目で116件増、C項目（重複）で111件増となり件数では増加しているが、高額査定が前年度より減少したため収入金額の計画差異は前年度より減少している。再審査請求に関しては90件2,825,664円に対して再審査復活は30件594,208円であった。

【活動報告・実績等】

令和3年度内訳（経年3年）

査 定 別	2019年度	2020年度	2021年度
A 項 査 定	362件	388件	415件
B 項 査 定	295件	297件	413件
C 項 査 定	62件	144件	255件
D 項 及 び そ の 他 査 定	739件	622件	786件
計	1458件	1451件	1869件

救急医療委員会

委員長 佐藤 毅

【紹介】

救急医療委員会は、救急医療に関わる院内各部署の委員（医局、看護部、薬局、放射線、臨床検査、事務）と能代消防署からの外部委員で構成され、毎月第2金曜日に開催しています。救急医療に関わる問題点に関して討議し、改善点を検討しています。

2021年度の主な討議・報告事項や決定事項

- ・救急車お断り症例に関する検討とその対策
- ・救急外来業務の周知徹底と改善
- ・救急外来で生じた種々な問題点の把握とその改善
- ・当直医勤務要項の内容検討や変更
- ・長期休み時の救急外来対応
- ・救急カートへの薬剤追加
- ・救急当番科の見直しと救急外来から内科当番コール時の対応
- ・研修医の救急外来研修の対応についての確認
- ・長期休暇時の救急外来での問題点の把握と改善
- ・ドクターヘリでの当院への搬送事例に対する検討
- ・秋田県メディカルコントロール協議会で審議された話題の提供
- ・傷病者搬送および受け入れ実施基準改訂の報告
- ・救急隊員との情報交換

褥瘡対策委員会

委員長 矢島 晴美

【令和3年度の活動目標】

安心安全で質の高い医療提供に向け、予防的ケアを充実させ褥瘡新規発生を作らない。

令和3年度 褥瘡新規発生PDCAサイクル

1. 計画：目標

- 褥瘡発生件数・発生率の減少
- 新規発生件数 40件
- 褥瘡新規発生率 Q I : 0.1%
- 褥瘡推定発生率 Q I : 0.5%

2. 実行：改善策の実施

- 褥瘡計画の書の作成
- 高機能マットレスの適正使用
- おむつの正しい使用
- スキンケア用品の適正使用
- 皮膚確認の徹底
- 医療用テープの適正使用

4. 改善：行動

- ケアの基本に帰り褥瘡発生予防に努める。
- おむつマイスターOJT強化。
- 皮膚の観察の徹底、保湿ケアの励行
- 褥瘡計画・評価がしっかりとできる

3. 評価：改善策の評価

- 褥瘡新規発生件数・発生率
- 褥瘡新規発生率
- 褥瘡推定発生率
- 褥瘡発生時の部署検討

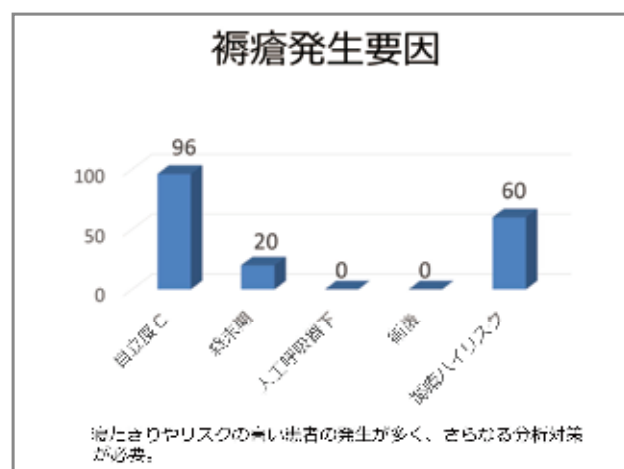
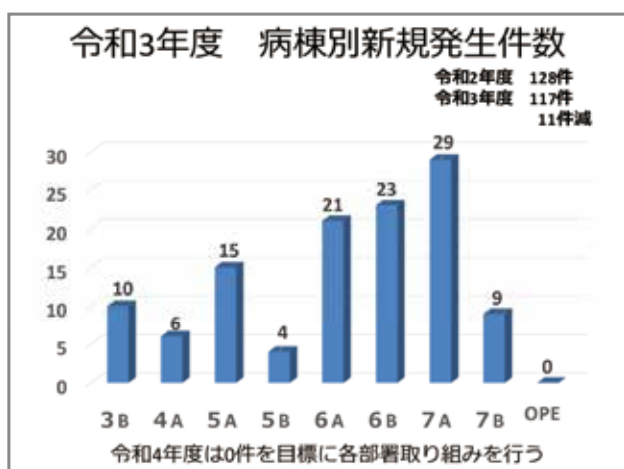
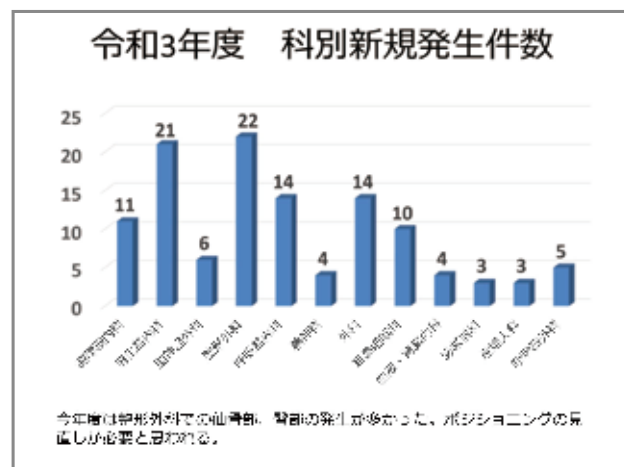
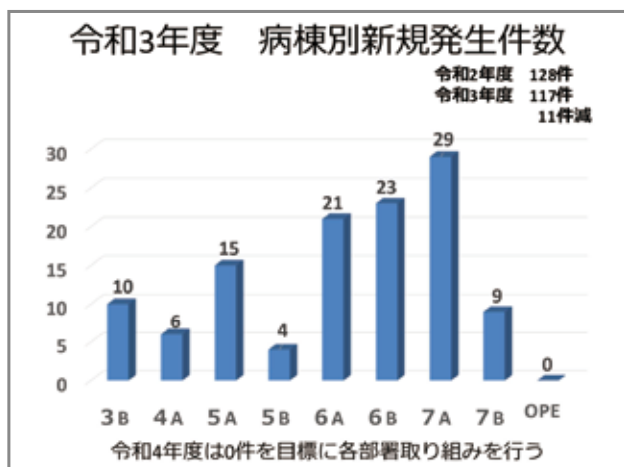
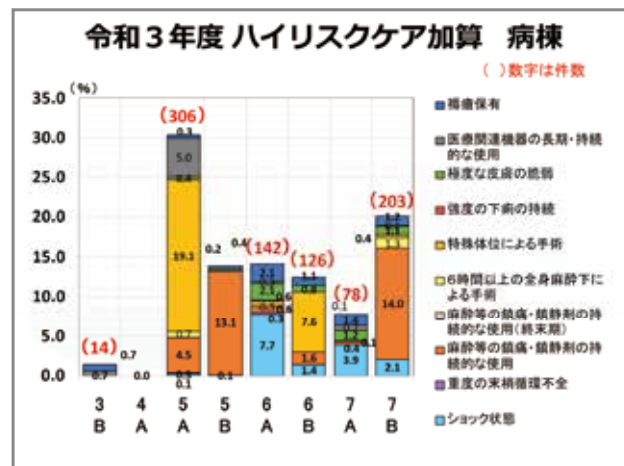
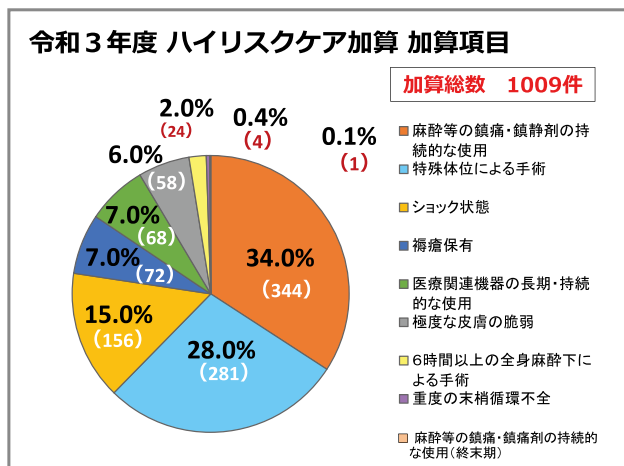
【構成】

医師、看護師長、皮膚・排泄ケア認定看護師（看護副師長）、看護師（病棟、外来、中央手術部、救急センター）、薬剤師（薬剤科）、管理栄養士（栄養科）、作業療法士（リハビリテーション科）、事務職員

【主な活動内容】

- ① 月1回の委員会の開催
- ② 週1回の褥瘡チーム回診（医師、看護師長、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師（薬剤主任）、管理栄養士、作業療法士）の実施
- ③ 褥瘡の治療やスキンケアのコンサルタント
- ④ 体圧分散マットレス・除圧用具の管理
- ⑤ 褥瘡対策マニュアル作成
- ⑥ グループ活動
記録チーム、マニュアル周知チーム
ポジショニングチーム
- ⑦ 院内勉強会開催
R3年度おむつマイスタープロ研修 大王製紙㈱
R3年6月3日(木)、7月1日(木)、8月5日(木)
9月2日(木)、10月7日(木)、11月11日(木)

eラーニング「ナースングスキル」研修
 創傷管理技術
 ・褥瘡のリスクアセスメント・予防
 ・褥瘡のアセスメント処置（治療）
 R3年6月



推定発生率



有病率



新規発生率

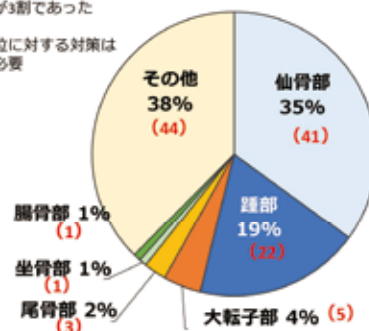


新規発生 部位別

n=117

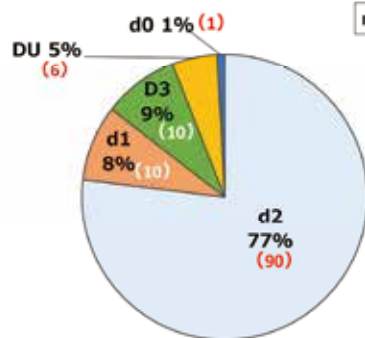
- ①仙骨部が半数を占めていた
- ②踵部が3割であった

発生部位に対する対策は継続が必要



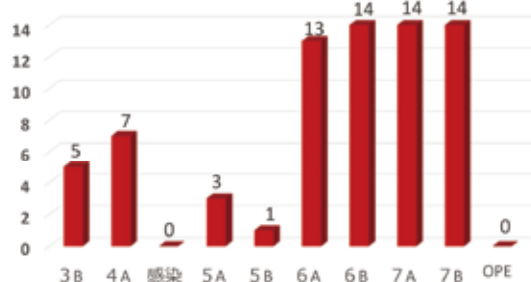
新規発生 深さ別

n=117

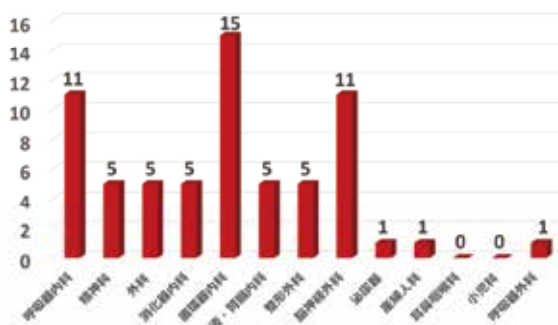


令和3年度 病棟別スキン-テア発生件数

令和2年度 70件
令和3年度 71件
1件の増

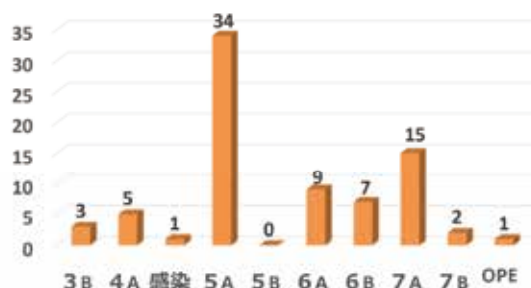


診療科別スキン-テア発生件数

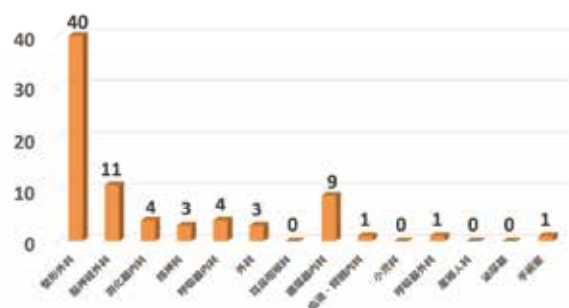


病棟別医療関連機器圧迫創傷発生件数

令和2年度 70件
令和3年度 77件
7件の増

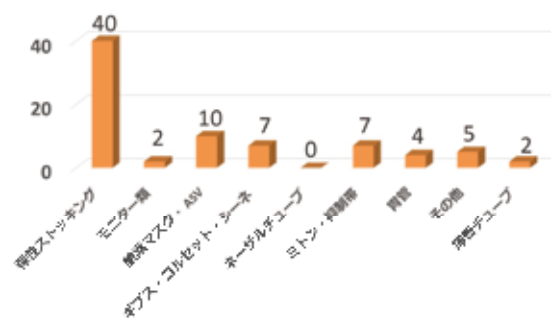


診療科別医療関連機器圧迫創傷 発生件数



整形外科での発生が多かった。整形外科での取り組みが必要

医療関連機器圧迫創傷発生内訳



弾性ストッキングに対する取り組み方の見直しが必要

研修会

おむつマイスタープロ

6月3日 7月1日 8月5日 9月2日 10月7日
11月11日 計6回

令和3年6月1日~30日

創傷管理技術 e-ランニング研修

第2回

おむつマイスタープロ研修風景



緩和医療委員会

委員長 江戸 雅孝

【設置目的】

能代厚生医療センターにおける緩和ケアの推進をはかる

【委員構成】

委員長 江戸 雅孝（耳鼻咽喉科 診療部長）
委員 金田 浩人（呼吸器科 診療部長） 齋藤 英知（精神科 診療部長）
大原 正之（薬剤科 薬剤主任） 斉藤 匡昭（薬剤科 薬剤主任）
三浦 果歩（栄養科 管理栄養士）
安部ひとみ（リハビリテーション科主任 作業療法士）
佐藤 明子（3 B病棟 看護師長） 小林 真紀（6 A病棟 緩和ケア認定看護師）
伊藤 郁子（緩和ケアセンター看護主任 緩和ケア認定看護師）
澤田 尚子（精神デイケア 臨床心理士） 櫻田 美穂（医事課 事務）
阿部 綾華（医療福祉相談室 社会福祉士） 計13名

【活動報告】令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）

1) 定例活動

緩和ケアチーム回診数：延べ2123回（1名あたり平均15回訪問）
緩和医療委員会：4回（4月、7月、10月、1月）
緩和ケアサポートスタッフ会議：6回（4月、7月、9月、10月、3月）
緩和ケアチームカンファレンス：52回（毎水曜日）
緩和ケア通信発行、病院HP掲載：4回

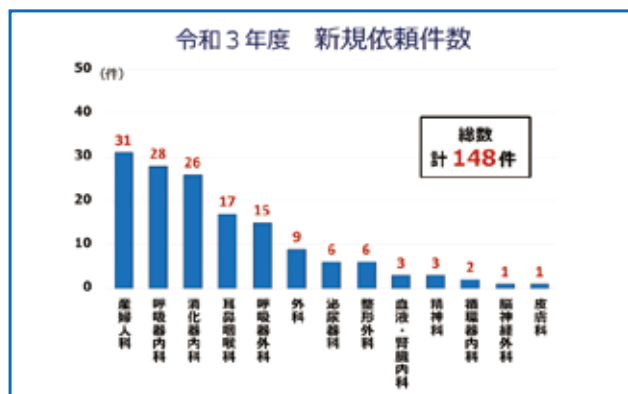
2) 緩和ケアチームの新規依頼件数：148件

診療科別：産婦人科31件、呼吸器内科28件、消化器内科26件、耳鼻咽喉科17件、
呼吸器外科15件、外科9件、泌尿器科6件、整形外科6件、血液・腎臓内科3件、
精神科3件、循環器内科2件、脳神経外科1件、皮膚科1件

依頼内容：精神的ケア119件、疼痛緩和50件、家族ケア34件、疼痛以外の症状14件（重複あり）

3) 苦痛のスクリーニング実施件数：1134件

診療科別：外科399件、産婦人科216件、血液・腎臓内科155件、呼吸器内科111件、
呼吸器外科98件、消化器内科78件、泌尿器科41件、耳鼻咽喉科23件、整形外科5件、
皮膚科2件、精神科2件、循環器内科2件、脳神経外科1件、形成外科1件



【講演実績、研修会、学会発表など】

1) 院内緩和ケア勉強会（緩和医療委員会&緩和ケアサポートスタッフ主催）

通算回数	開催日	テーマと講師	参加者数
第72回	5月20日	6 B病棟 がん患者の終末期について 講師 江戸雅孝医師	11名
第73回	6月22日	5 B病棟 医療用麻薬患者の看護記録 講師 伊藤郁子看護師	13名
第74回	6月30日	4 A病棟 医療用麻薬について 講師 細田優萌薬剤師	10名
第75回	7月27日	浮腫の人への対応 講師 中川滉太理学療法士	13名
第76回	9月1日	A C P勉強会・ロールプレイ 講師 伊藤郁子看護師	9名
第77回	10月11日	6 A病棟 がん患者入院時のサポート 講師 伊藤郁子看護師	11名
第78回	10月26日	オピオイドスイッチングについて 講師 佐藤匠薬剤師	13名
第79回	11月26日	5 A病棟 がん患者入院時のサポート 講師 伊藤郁子看護師	10名
第80回	12月3日	3 B病棟 認知症デスカンファレンス 講師 伊藤郁子看護師	10名

※72回～80回は集合研修を避け、各部署で実施した

2) 能代山本地域 緩和ケア研修会 2021

令和4年3月5日 参加者12名（医師5名、薬剤師4名、看護師2名、助産師1名）

講師：江戸 雅孝（耳鼻咽喉科 診療部長）、齋藤 英知（精神科 診療部長）

大石 晋（大館市立総合病院 副院長）、

秋山 博実（大曲厚生医療センター 緩和ケア科）

安藤 秀明（秋田大学大学院医科学系研究科 専攻長）

ファシリテーター：大原 正之、斉藤 匡昭、安部ひとみ、渡部 彩香、三浦 果歩、

伊藤 郁子

3) 地域における活動、研修会、研究会など

伊藤 郁子：秋田県学校保健連合会『移動保健教室』八竜中学校 三種町 9月28日 講師

あきたしらかみ看護学院 令和4年1月20日、令和4年2月24日 講師

【秋田県がん診療連携協議会 緩和ケア・教育研修部会活動】

1) 緩和ケア・教育研修部会：年2回（5月12日、3月9日） 計7名参加

2) 秋田県緩和ケアチーム WEBカンファレンス：県内15病院の緩和ケアチーム参加

能代厚生医療センター、秋田大学医学部附属病院、

秋田赤十字病院、秋田厚生医療センター、

大曲厚生医療センター、平鹿総合病院、

由利組合総合病院、大館市立総合病院、雄勝中央病院、

北秋田市民病院、中通総合病院、市立秋田総合病院、

本荘第一病院、能代山本医師会病院、市立横手病院

年4回（7/14、9/8、11/10、1/12）

計20名参加

3) 令和3年度 第4回WEBカンファレンス事例発表

「知的障害のある若年がん患者の対応について」

30代 卵巣がん患者様の、診断期～治療期～逝去までのかかわりについて発表

県内の緩和ケアチームメンバー51名で意見交換



緩和ケアチーム

クリニカルパス委員会

委員長 伊藤 博紀（整形外科）

副委員長 千葉 愛（看護部）

【メンバー構成】

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、理学・作業療法士、事務



【活動内容】

委員会開催（月1回）

【活動内容詳細】

当院における2021年度クリニカルパス使用率は72%でした。

ワーキンググループを中心としパス改訂・作成、アウトカム評価、患者用パス改訂（入院診療計画書としての運用）、啓発等の活動を進めて参りました。

医療者用パス改訂については、病棟毎に作業を進めほぼ全てのパスに関して改訂を実施しました。パス運用時の記録について、質的監査を実施し、現場へのフィードバックを行うなど、質向上へ向けた取り組みを進めて参りました。また、患者用パスの入院診療計画書への運用へ向け、質的な改訂を進めております。

コロナ感染の拡大により、クリニカルパス大会は実施できませんでしたが、栄養士、リハビリテーションスタッフを中心とし食形態に関するe-learningを実施致しました。また、啓発グループを中心とし、パス通信を発行しております。

透析機器安全管理委員会

文責 酒樹 勤

【設置目的】

透析機器安全管理委員会では、透析機器および透析液水質の適正な管理及び運営を図ることを目的とし、透析液の検査実施および水質基準の管理状況について確認・審議・報告を行っている。

【委員構成】

委員長 小峰 直樹

委員 木村亜矢子、伊藤 淳志、難波 仁美、佐藤 元彦

透析液安全管理者 丸山 広

透析液製造担当者 赤坂 紀之 計7名

【職務】

透析液及び透析用水の清浄化検査

透析機器の保守管理

【活動報告】 令和3年4月～令和4年3月

・ 令和4年3月30日 令和3年度委員会開催
年度委員会開催

1) 透析機器故障・修理状況について

N C V - 1 / 流量停止異常

対応：電源基盤交換

N C V - 1 / 血液ポンプ不良

対応：血液ポンプ交換

N P S - 50 B / 濃度不安定

対応：ポンプ交換

N D F - 21 / 操作スイッチ不良

対応：シートスイッチ交換

N D F - 21 / 除気槽異常

対応：チューブ交換

全29台：透析装置エンドトキシン吸着フィルター交換

2) 新規導入機器について

8月 N C V - 3 1台

3) 透析液清浄化、エンドトキシン、生菌測定結果について

R O、セントラル、末端コンソール、個人装置で生菌・E Tは検出されなかった。

消毒方法を随時検討しこのまま清浄化に努める。



医療情報システム委員会

委員長 山田 篤

【設置目的】

医療情報システムが安全かつ効率的に運用されることを目的とする。

【委員構成】

委員長 山田 篤（精神科科長）

委員 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、理学・作業療法士、事務の計15名

【職務】

- ・当院情報システム運用管理マニュアルに関すること。
- ・情報システムに伴う部門間で協議・調整が必要な項目に関すること。
- ・定期メンテナンス等システム停止に伴う部門の運用調整に関すること。
- ・その他これらに関すること。

【活動内容】

委員会は月に1回第2火曜日にNEC担当者にも参加していただき開催しています。

内容は主にNEC担当者より作業報告や各部署または個人からの要望・問い合わせの報告と連絡事項、今後の作業予定などの確認を行っています。また端末含め経年劣化による機器の故障等も増え、予算と必要度を照らし合わせながら検討も行っています。

2011年10月1日より始まった当院の電子カルテの運用は、平成29年度に新システムの導入という本委員会にとっての大きなイベントがありました。多くの職員の協力のもと、新システム導入にあたり、大きなトラブルはありませんでしたが、導入して時間が経過するにつれ改修や変更の要望が届いています。できるだけ各職員・各部署の要望に応えながら、より利用しやすいシステムの構築を目指します。

また個人情報保護含め、当院で運用している病院情報システムの管理・運用に関しても秋田県厚生連9病院で統一したマニュアルがあります。

診療材料委員会

委員長 太田原康成
文責 佐藤 元彦

【設置目的】

本委員会は、院内において良質で廉価な診療材料等の購入及び効率的な物流・物品管理を図り、合理的な運営に資することを目的としている。

【委員構成】

委員長 太田原康成
委員 薬剤長、看護師長、事務長、事務部（資材設備課） 計5名

【職務】

新規診療材料、サンプル申請などの承認の可否を協議する。

【活動内容】

診療材料委員会開催状況

第1回 令和3年4月28日

① 新規採用 4品目

第2回 令和3年6月30日

① 新規採用 6品目

② サンプル申請 3品目

第3回 令和3年9月9日

① 新規採用 2品目

第4回 令和3年11月19日

① 新規採用 2品目

② サンプル申請 1品目

第5回 令和4年2月18日

① 新規採用 2品目

上記の通り診療材料委員会は5回開催しました。

栄養サポートチーム

文責 栄養技師長 高橋 美香

【設置目的】

患者の栄養状態を把握し、適切な栄養管理を指導・提言し、病気からの早期回復・QOLの改善を図ることを目的とする。

【委員構成】

チーム長	藤島 裕耕	診療部長（消化器内科）			
	高橋紀美代	看護師長（保健福祉活動室）			
	北嶋 清子	看護副師長（6 A）			
	岩谷真希子	看護主任（7 B）			
	佐々木伸子	看護主任（皮膚・排泄ケア認定看護師）			
	石川 孝仁	薬剤師			
	小柳 大地	言語聴覚士			
	熊谷 萌生	理学療法士			
	高橋 美香	栄養技師長			
	松嶋 香織	栄養副技師長			
	市川 宏美	栄養主任			
	東海林美希	医事課			
NSTリンクスタッフ	（3 B）菊池 悠哉	看護師	（4 A）日諸 千春	主任	
	（5 A）深川恵里花	看護師	（5 B）木村 里紗	看護師	
	（6 B）細川かほ子	看護師	（7 A）中道 拓海	看護師	
	（7 A）田村 八汐	看護師			

【活動報告】

期 間	介 入 件 数	期 間	介 入 件 数
令和3年4月	8	令和3年10月	3
5月	5	11月	3
6月	4	12月	2
7月	3	令和4年1月	0
8月	4	2月	3
9月	4	3月	3
		合 計	42

災害医療支援チーム(DMAT:Disaster Medical Assistant Team)

文責 佐々木 寛

【スタッフ】

医師2名、薬剤師1名、臨床工学技士1名、看護師3名、事務1名

【紹介】

DMATは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義され、災害発生に備えて訓練活動を行っております。

令和3年度の活動は以下の通りです。COVID-19による影響のため、ほぼ訓練活動を行うことはできませんでした。また前年度1名、今年度2名のメンバーが退職や異動のためチームを離れ、おおきな痛手となっております。院内外の訓練を続けるとともに、チームの拡充をはかっていきたい所存です。

【活動内容】

東北ブロックDMAT技能維持研修	宮城県	令和4年1月23日～24日
秋田県総合防災訓練	湯沢市	令和3年8月29日
東北ブロックDMAT参集訓練	宮城県	令和3年10月30日
秋田県CBRNEテロ感染症対策医療講習会	秋田市	令和4年2月6日



精神科リエゾンチーム

文責 内藤 建介

【メンバー紹介】

所属	氏名	所属・役職
精神科医・専任	齋藤 英知	精神科 診療部長
精神科医・専任	山田 篤	精神科 科長
精神科医・専任	佐藤 優真	精神科 科長
精神科医・専任	工藤 瑞樹	精神科 科員
常勤看護師・専任	内藤 建介	4 A病棟 精神科認定看護師
常勤精神保健福祉士・専任	佐藤 希	入退院支援センター
薬剤師	佐々木真則	薬剤科 副薬剤長
臨床心理士	澤田 尚子	精神科デイケア
事務職員	内藤 雅博	経営企画課 係長

【活動目的】

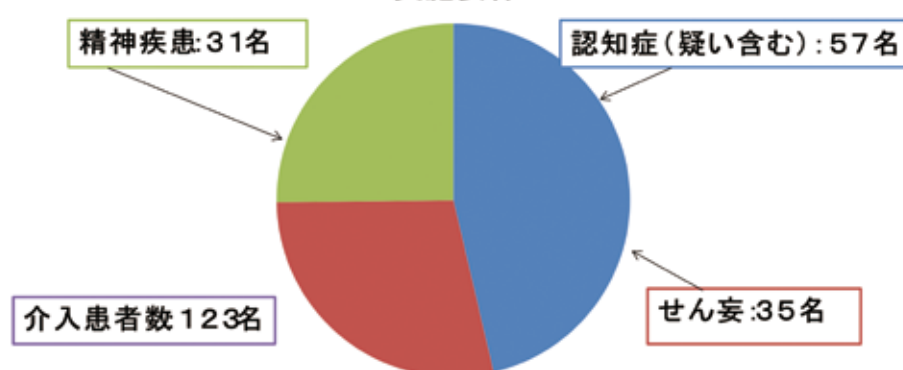
本チームは能代厚生医療センターに身体疾患の治療目的にて入院している患者の症状緩和・早期退院を推進すべく、精神科専門医療が必要な者への早期発見・精神科専門医療の早期提供を目的とした多職種チームとして2017年9月より活動しております。対象患者はせん妄や抑うつを有する患者・精神疾患を有する患者・自殺企図で入院した患者・その他、精神科リエゾンチームとして介入が適切と判断された患者とし、週1回程度対象患者の病床をチームで回診しております。

【活動実績】

令和3年度 実績

介入件数	加算件数	介入患者数	新規患者数	週平均件数
333	310	123	119	6.2

実施要件



防火・防災管理委員会

委員長 太田原康成
文責 小松 浩樹

【設置目的】

年2回の消火訓練・避難訓練、年1回の通報訓練が法令義務となっている。

【委員構成】

委員長 太田原康成

委員 病院長、事務長、看護部長、各部署の責任者、事務、その他 計40名

【職務】

起こりうる災害の種類は多岐にわたるため、避難訓練では火災や地震。津波などそれぞれの災害に対し、さまざまな想定で訓練を行うことが求められる。

【活動報告】

◇第1回防災訓練

午後3時、能代断層帯を震源とする震度6強の直下型地震が発生。能代市内では停電発生、建物の倒壊もあり大きな被害が出ている模様で家具の下敷きや瓦礫による怪我人が多数発生している。当院の被害状況は、職員・患者は被災後に何人かの負傷はあった。病院建物は耐震機能により建物に大きな被害はなく、自家発電機が正常に作動したが、地震による大きな揺れで物が倒れる等の被害が発生した。

訓練実施日 令和4年3月11日（金） 午後3時00分～午後3時45分

訓練場所 能代厚生医療センター講堂ほか

訓練参加者 約50人

- 訓練内容
- 1) 地震発生時の初動訓練
 - 2) 災害対策本部の設置
 - 3) 災害対策マニュアル及びアクションカードの見直し
 - 4) 火災発生時における通報・消火・避難・報告の手順確認



【活動内容】

◇第2回防火訓練

午後4時00分、当院栄養科厨房で小規模な火災が発生。消防署へ通報を行い、避難誘導訓練、初期消火訓練を行う。

訓練実施日	令和4年3月11日（金） 午後4時00分～午後4時30分
訓練場所	能代厚生医療センター1階ホールほか
訓練参加者	約30人
訓練内容	1) 火災発生時における通報・消火・避難・報告の手順確認



能代厚生医療センター年報 第 17 号

令和 5 年 2 月 発行

発行者 能代厚生医療センター
院長 太田原 康 成

発行所 能代厚生医療センター
〒016-0014 能代市落合字上前田地内
☎ (0185) 52-3111
Fax (0185) 55-0123
E-mail somu@yamamoto-hosp.noshiro.akita.jp
ホームページ <http://yamamoto-hosp.noshiro.akita.jp/>

印刷製本 株式会社全農ビジネスサポート秋田支店
〒010-1633 秋田市新屋島木町 1 番41号